

第Ⅱ期南島原市総合計画後期基本計画策定に向けた
各種調査結果報告書

長崎県 南島原市
令和5年3月

目 次

I	市民アンケート調査	1
I-1	調査の目的・実施概要	1
1	調査の目的	1
2	実施概要	1
3	必要サンプル数の算出について	2
4	集計結果のみかた	3
I-2	調査結果概要	4
1	あなた自身のことについて	4
2	南島原市での暮らし・幸福度（幸福感）について	5
3	南島原市のこれからのまちづくりについて	15
I-3	市の取り組みに対する評価・意見	25
1	施策全体	25
2	生活環境	29
3	基盤整備	32
4	歴史文化の継承・市民文化の醸成の満足度・重要度	35
5	地域経済・産業振興の満足度・重要度	38
6	保健・医療・福祉の満足度・重要度	41
7	子育て支援・教育環境の満足度・重要度	44
8	協働のまちづくり・行財政運営の満足度・重要度	47
II	基礎調査結果	51
II-1	人口推移	51
1	人口	51
2	人口増減率	53
3	世帯数	54
II-2	人口移動状況	55
1	自然動態・社会動態	55
2	（参考）県移動理由アンケート（令和3年3月～12月分）	57
II-3	産業・雇用・地域経済	58
1	産業構造・就業状況	58
2	労働力・雇用状況	60
3	地域経済状況	62
4	農業	63
5	水産業	65
6	製造業・小売業	66
7	観光業	67
8	（参考）2040年の就業状況（未来カルテ）	68
II-4	同規模団体による比較	69

I 市民アンケート調査

I 市民アンケート調査

I-1 調査の目的・実施概要

1 調査の目的

総合計画策定に向けた市民アンケート調査（以下、「本調査」とします。）は、新たな総合計画策定にあたり、市民の皆さんの意見、要望等を収集し、市の将来像やまちづくりの方向性などを検討する際の基礎資料として活用させていただくことを目的として実施しました。

2 実施概要

本調査の対象及び配布、回収状況は、以下のとおりとなっています。

《 調 査 概 要 》

- 調 査 対 象：市内にお住まいの満 18 歳以上の方
- 抽 出 方 法：4,000 名を住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- 調 査 内 容：市民意識・市政全般に関すること
 - 1. あなた自身のこと
 - 2. 暮らし・幸福度（幸福感）について
 - 3. 市の取り組みについて
 - 4. これらからのまちづくりについて
- 調 査 期 間：令和 4 年 8 月
- 調 査 方 法：郵送配付・回収
- 配付・回収：

配付数	回収数	回収率
4,000 票	1,164 票	29.1%

3 必要サンプル数の算出について

一般的なアンケート調査は、対象となる母集団（本調査では 18 歳以上の市民全体）の中から一部の調査対象を選び出し、その情報をもとに母集団の状態を推計する「サンプリング調査(標本調査)」です。

調査結果には誤差が含まれます。この誤差がどの範囲の大きさで生じるかは、計算式で算出することができます。

① 必要サンプル数の設定

本調査では、※母集団（本調査では 18 歳以上の市民全体）の代表的な意見が得られる必要なサンプル（標本）数を計算するために、次のように設定しました。

母 集 団：調査の対象となるものの全体。標本を抽出するための母体となる統計量の集まりです。
ここでは、今回の調査対象とする 18 歳以上の人口とします。

$$\text{母集団} = 43,008 \text{ 人 (総人口)} - 5,652 \text{ 人 (0~17 歳の人口)} = 37,356 \text{ 人}$$

(※ 令和 4 年 6 月末 住民基本台帳人口)

標本誤差：標本から測定された統計量の標準偏差であり、標本統計量の精度を表します。

一般的なアンケート調査は標本誤差が 5%程度とされていることから、平成 28 年度の調査に引き続き、今回の調査でも、標本誤差が 5%以下となるよう設定しました。

信 頼 率：一定の頻度（割合）のもとで回答数が母集団の平均に含まれると推定された区間のことです。今回の調査では 100 回繰り返した結果が 95 回程度、結果の平均の範囲内に含まれるよう、信頼率を 95%に設定しました。

上記の条件設定から求められる必要サンプル数は 381 人以上となります。なお、一部の世論調査で行われている標本誤差 3%とした場合、必要サンプル数は 1,038 人以上です。

以上の事から、統計上 400 人の標本を収集すれば調査対象のニーズをほぼ把握できると判断できますが、調査の精度をあげるため、今回の調査では標本回収目標数を 1,000 人と設定しました。

② 調査対象者数の決定

①で設定したサンプル（標本）数を確保するために必要な調査対象者数を次の数式により求めます。回収見込みには、これまでの調査票回収率（25.0%）を用いました。

$$\text{発送数} \geq \text{サンプル（標本）数 (1,000 人)} \div \text{回収の見込み (25.0\%)}$$

これにより、求められる調査対象者数は 4,000 人以上となります。

今回の調査での回収数は 1,164 票であったことから、標本回収目標数を超え、かつ標本誤差を 3%とした場合の 1,038 人を上回る精度となっています。

4 集計結果のみかた

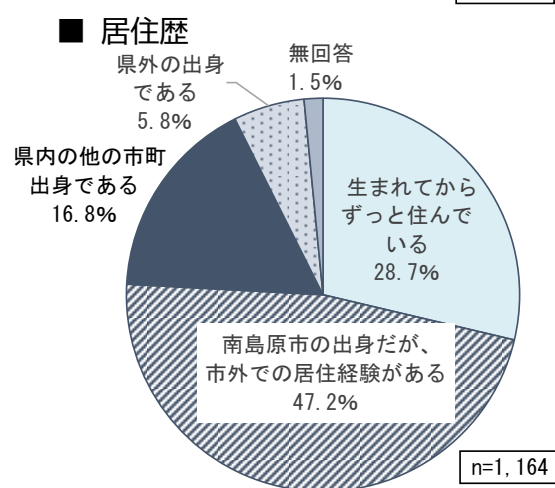
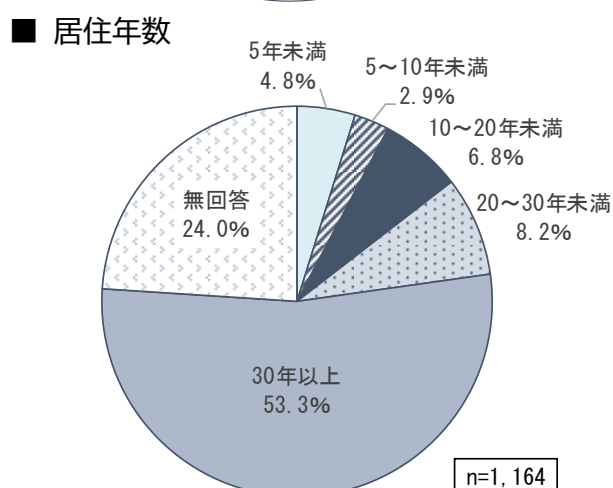
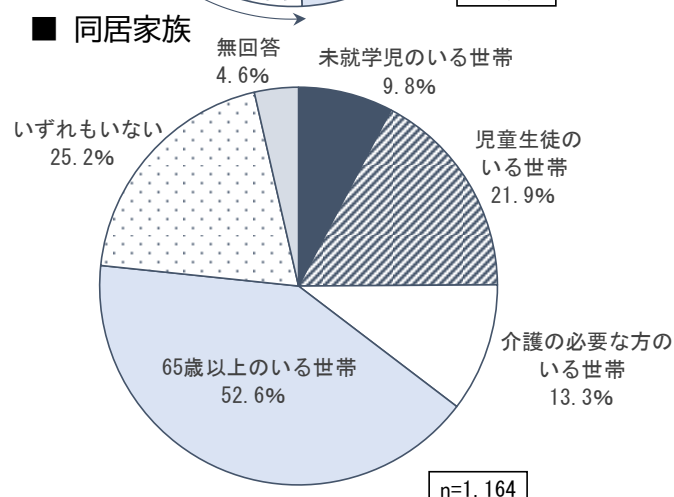
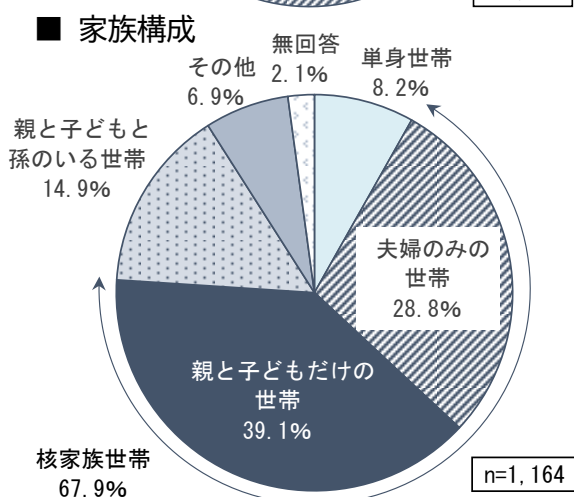
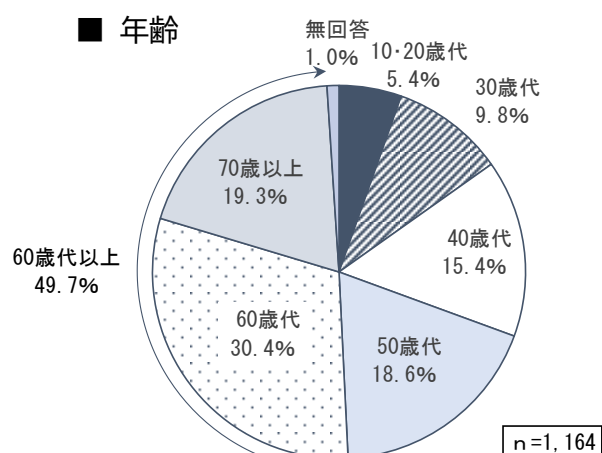
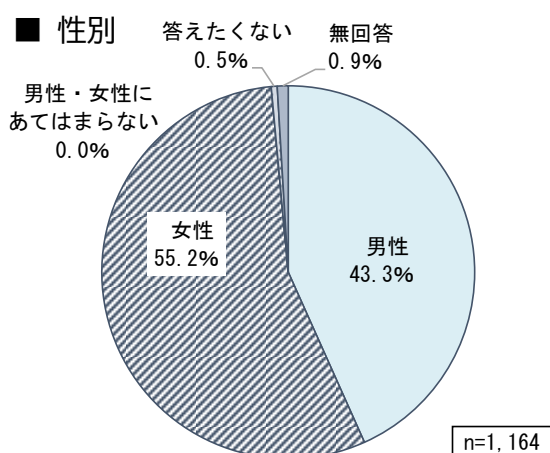
- 調査結果の図表は、設問の回答者数に対して、それぞれの項目の回答数の構成比（百分率）で示しています。（計算式：回答数÷回答者数×100）
- 図表の構成比（百分率）は、回答者数（限定設問においては該当者数）を100%として算出しており、本文及び図表の構成比（百分率）は小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。
（※四捨五入のため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても各比率の合計が100.0%とならない場合があります。）
- 調査結果の図表に示す回答数は「n=●」という形式で表記しています。例えば、調査全体の回答数は「n=1,164」と表しています。
- 「年齢別」等、調査全体の回答数から分析対象を絞って集計する場合、回答数は図表に示す分析対象を回答数とし、該当する項目の回答数の構成比（百分率）を掲載しています。
- 複数回答の設問では、各比率の合計が100.0%を超える場合があります。

I-2 調査結果概要

1 あなた自身のことについて

- ◎ 回答者の性別では女性が多く、年齢では60歳以上の割合が5割程度を占めています。
- ◎ 家族構成では親と子どもだけの世帯の割合が最も高く、夫婦のみの世帯を合わせた核家族世帯の割合が約7割を占めています。また同居家族に65歳以上のいる世帯が半数以上を占めています。
- ◎ 居住年数では30年以上が5割を占め、市外での居住経験者も5割を占めています。

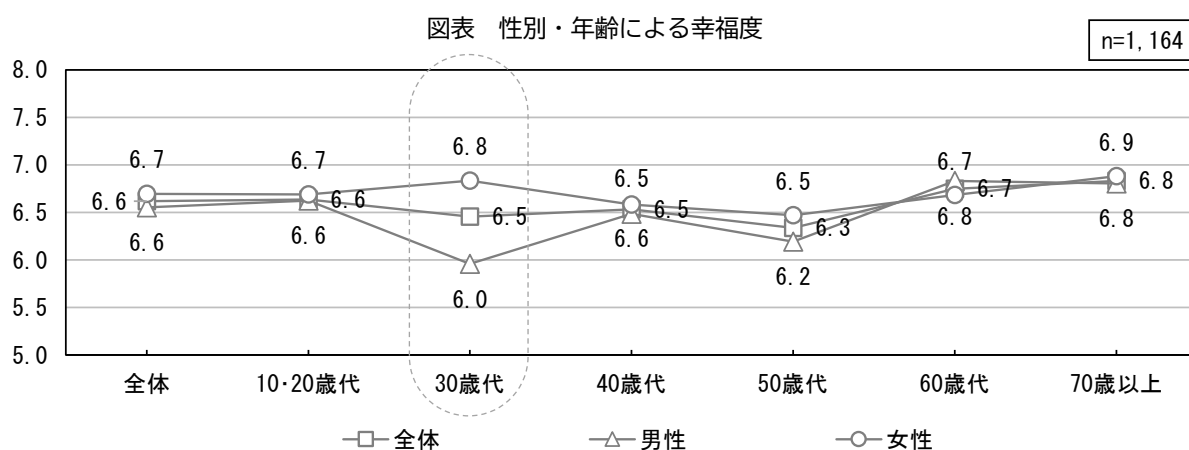
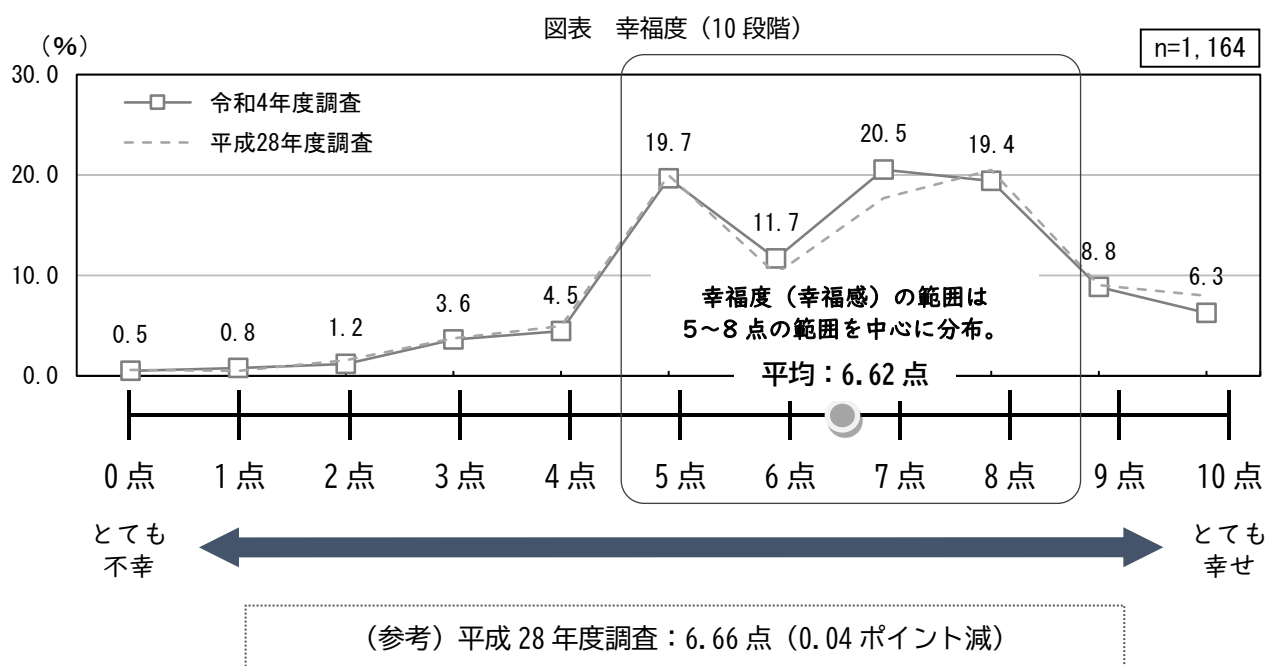
図表 回答者の属性（性別・年齢・居住地域・居住年数）



2 南島原市での暮らし・幸福度（幸福感）について

■ 幸福度（幸福感）

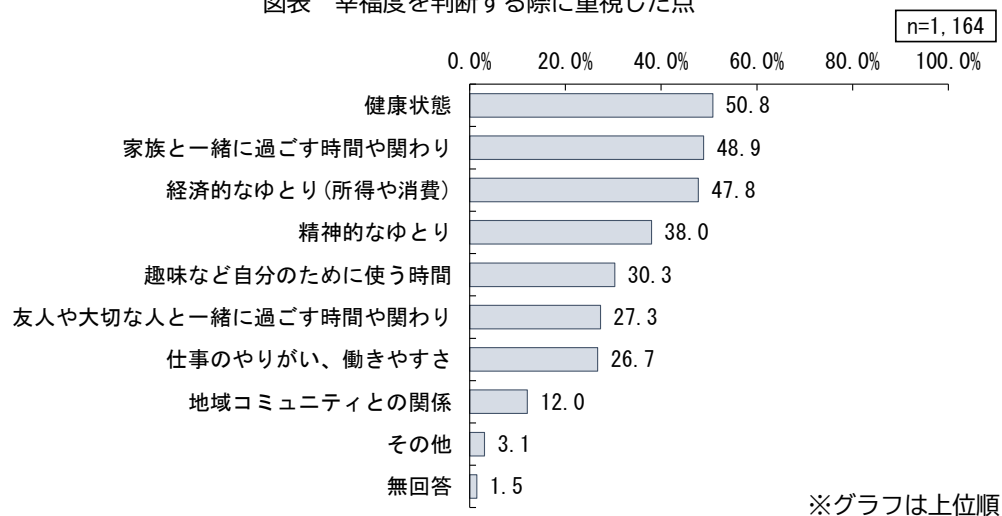
- ◎ 市民の幸福度（幸福感）は平均 6.62 点で、平成 28 年度調査時点と比較して 0.04 ポイント減少しています。点数別では、「7 点」（20.5%）、「5 点」（19.7%）、「8 点」（19.4%）の回答が多く、幸福度の中心（5 点）に回答が集中しているのではなく、概ね 5～8 点の範囲を中心に分布しています。
- ◎ 性別・年齢による幸福度を比較すると、30 歳代では、男性の幸福度が特に低く、女性の幸福度は高くなっており、男女間の格差が最大になっています。



■ 幸福度を判断する際に重視した点

- ◎ 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点では、「健康状態」（50.8%）、「家族と一緒に過ごす時間や関わり」（48.9%）、「経済的なゆとり(所得や消費)」(47.8%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、全年代で「経済的なゆとり（所得や消費）」が第2位ですが、10～40歳代では「家族と一緒に過ごす時間や関わり」、50歳代以上では「健康状態」をそれぞれ最上位に挙げているほか、10・20歳代、40歳代では「精神的なゆとり」、30歳代では「仕事のやりがい、働きやすさ」を上位に挙げており、世代によって幸福度を判断する基準が異なることが伺えます。

図表 幸福度を判断する際に重視した点

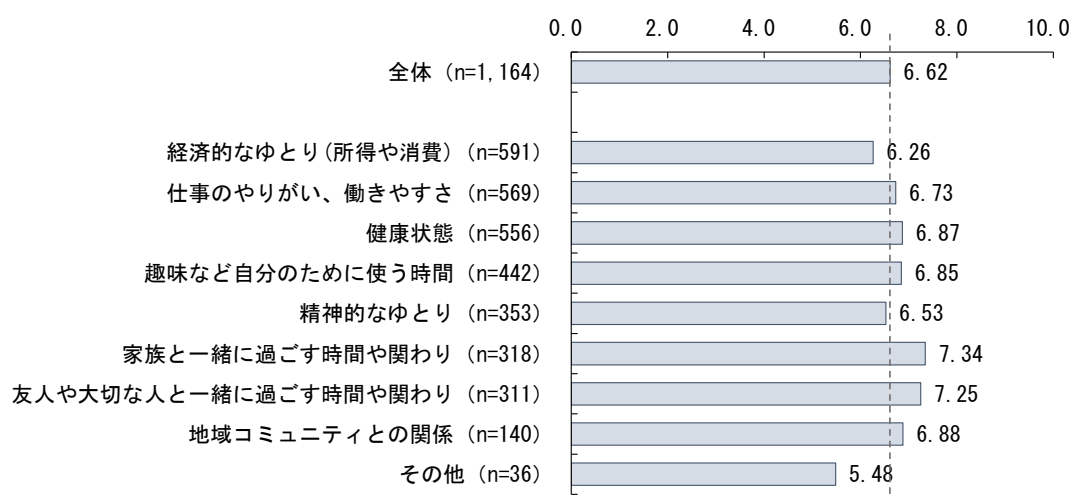


図表 幸福度を判断する際に重視した点（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 52.4%	経済的なゆとり (所得や消費) 50.8%	精神的なゆとり 41.3%
30歳代 (n=114)	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 59.6%	経済的なゆとり (所得や消費) 50.9%	仕事のやりがい、働きやすさ 健康状態 ともに 42.1%
40歳代 (n=179)	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 59.2%	経済的なゆとり (所得や消費) 50.8%	精神的なゆとり 41.9%
50歳代 (n=217)	健康状態 52.5%	経済的なゆとり (所得や消費) 51.6%	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 51.6%
60歳代 (n=354)	健康状態 57.6%	経済的なゆとり (所得や消費) 46.9%	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 42.7%
70歳以上 (n=225)	健康状態 57.3%	経済的なゆとり(所得や消費) 家族と一緒に過ごす時間や関わり 41.3%	

- ◎ 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点の項目別に幸福度の点数をみると、「家族と一緒に過ごす時間や関わり」（7.34 点）、「友人や大切な人と一緒に過ごす時間や関わり」（7.25 点）、「地域コミュニティとの関係」（6.88 点）が幸福度の高い項目として上位に挙がっています。
- ◎ 幸福度の点数別で見ると、「健康状態」は点数に関わらず幸福度の判断基準として重視されており、幸福度を 0～3 点と回答した方は「経済的なゆとり(所得や消費)」と「精神的なゆとり」を、7 点以上（平均以上）と回答した方では「家族と一緒に過ごす時間や関わり」を上位に挙げています。

図表 幸福度を判断する際に重視した点（幸福度点数）



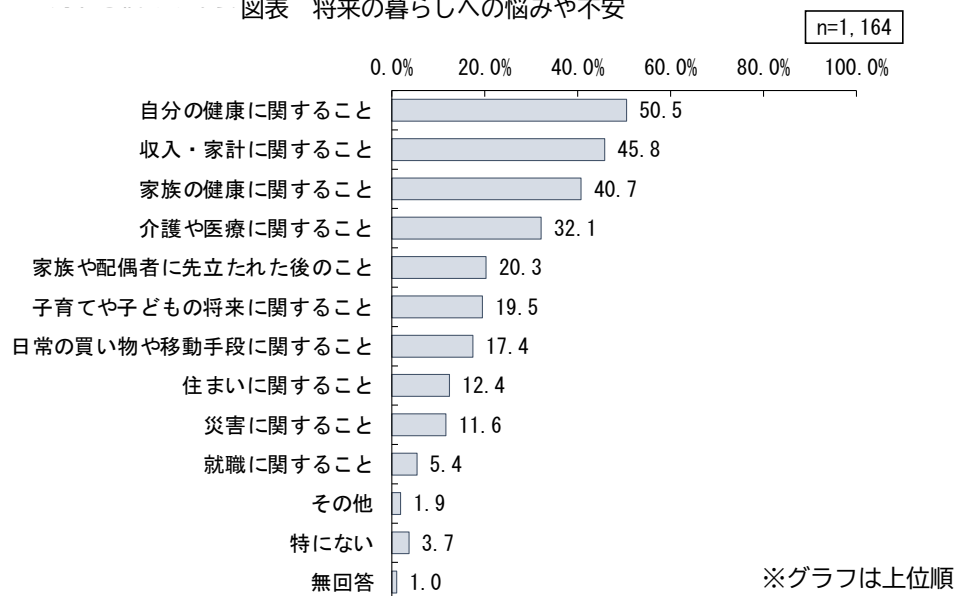
図表 幸福度を判断する際に重視した点（幸福度点数別：上位 3 項目）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
0～3 点 (n=71)	経済的なゆとり (所得や消費) 81.7%	精神的なゆとり 54.9%	健康状態 43.7%
4～6 点 (n=417)	経済的なゆとり (所得や消費) 49.4%	健康状態 41.0%	精神的なゆとり 36.9%
7～9 点 (n=568)	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 63.0%	健康状態 57.7%	経済的なゆとり (所得や消費) 44.2%
10 点 (n=73)	家族と一緒に過ごす 時間や関わり 80.8%	健康状態 53.4%	友人や大切な人と一緒に 過ごす時間や関わり 42.5%

■ 将来への不安

- ◎ 将来の暮らしへの悩みや不安としては、「自分の健康に関すること」(50.5%)、「収入・家計に関すること」(45.8%)、「家族の健康に関すること」(40.7%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、全年代で「家族の健康に関すること」が上位に挙がっており、10～50歳代では「収入・家計に関すること」、60歳代以上では「自分の健康に関すること」を将来の暮らしへの悩みや不安の最上位に挙げているほか、10・20歳代・30歳代では「子育てや子どもの将来に関すること」、70歳以上では「介護や医療に関すること」を上位に挙げています。

図表 将来の暮らしへの悩みや不安

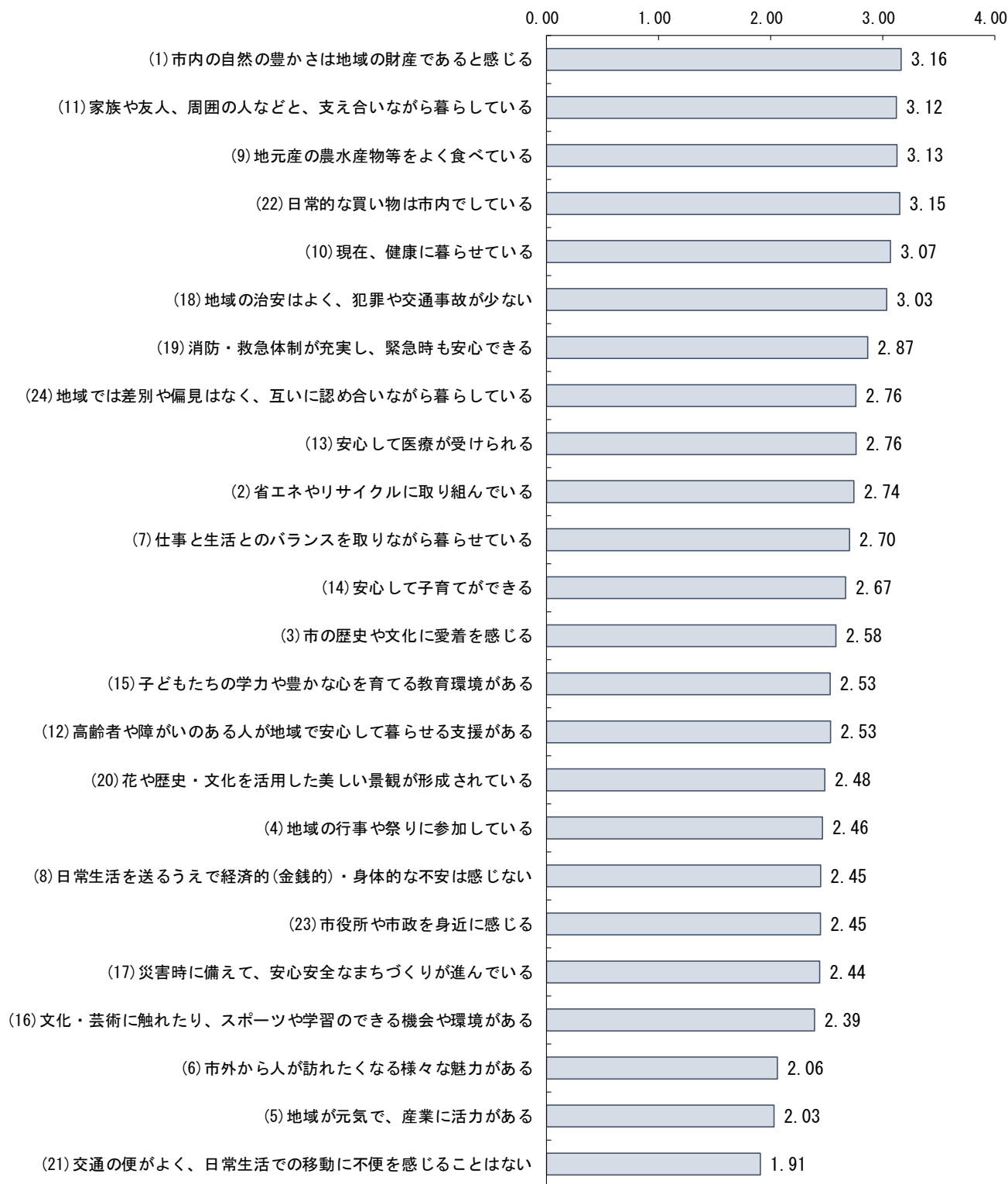


図表 将来の暮らしへの悩みや不安（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	収入・家計に関すること 54.0%	子育てや子どもの将来に関すること 34.9%	家族の健康に関すること 31.7%
30歳代 (n=114)	収入・家計に関すること 64.0%	子育てや子どもの将来に関すること 49.1%	家族の健康に関すること 35.1%
40歳代 (n=179)	収入・家計に関すること 55.9%	自分の健康に関すること 41.3%	家族の健康に関すること 40.2%
50歳代 (n=217)	収入・家計に関すること 53.0%	自分の健康に関すること 45.6%	家族の健康に関すること 41.9%
60歳代 (n=354)	自分の健康に関すること 61.0%	家族の健康に関すること 44.6%	収入・家計に関すること 41.2%
70歳以上 (n=225)	自分の健康に関すること 63.6%	家族の健康に関すること 40.4%	介護や医療に関すること 37.3%

■ 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること

図表 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること（指数値）



※グラフは上位順

※指数化：（「とてもあてはまる」×4+「どちらかといえばあてはまる」×3+「あまりあてはまらない」×2+「まったくあてはまらない」×1）÷回答数

- ◎ 各項目を 4 段階で指数化した値で順位をつけると、普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの上位 3 項目は「市内の自然の豊かさは地域の財産であると感じる」、「家族や友人、周囲の人などと、支え合いながら暮らしている」、「地元産の農水産物等をよく食べている」、下位 3 項目は「交通の便がよく、日常生活での移動に不便を感じることはない」、「地域が元気で、産業に活力がある」、「市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がある」が挙がっています。
- ◎ 本市における暮らしにくさは、「交通の便が悪く、日常生活での移動に不便を感じる」、「地域に元気がなく、産業に活力がない」、「市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がない」ことが理由であるといえます。

図表 (参考) “暮らしやすい”と思う方の普段の暮らしで感じることや取り組んでいること
(暮らしやすい理由としてあてはまること：上位 10 項目)

(n=755)

	構成比
第 1 位 (11)家族や友人、周囲の人などと、支え合いながら暮らしている	91.3%
第 2 位 (18)地域の治安はよく、犯罪や交通事故が少ない	89.8%
第 3 位 (9)地元産の農水産物等をよく食べている	88.9%
第 4 位 (1)市内の自然の豊かさは地域の財産であると感じる	88.7%
第 5 位 (10)現在、健康に暮らせている	86.0%
第 6 位 (19)消防・救急体制が充実し、緊急時も安心できる	85.3%
第 7 位 (22)日常的な買い物は市内ですしている	84.9%
第 8 位 (24)地域では差別や偏見はなく、互いに認め合いながら暮らしている	78.4%
第 9 位 (13)安心して医療が受けられる	76.0%
第 10 位 (14)安心して子育てができる	73.9%

※暮らしやすい:「暮らしやすい」または「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した方

※あてはまること:「とてもあてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答した方

図表 (参考) “暮らしにくい”と思う方の普段の暮らしで感じることや取り組んでいること
(暮らしやすい理由としてあてはまらないこと：上位 10 項目)

(n=361)

	構成比
第 1 位 (21)交通の便がよく、日常生活での移動に不便を感じることはない	92.2%
第 2 位 (5)地域が元気で、産業に活力がある	89.2%
第 3 位 (6)市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がある	88.1%
第 4 位 (17)災害時に備えて、安心安全なまちづくりが進んでいる	70.4%
第 5 位 (16)文化・芸術に触れたり、スポーツや学習のできる機会や環境がある	68.1%
第 6 位 (8)日常生活を送るうえで経済的(金銭的)・身体的な不安は感じない	66.2%
第 7 位 (23)市役所や市政を身近に感じる	64.3%
第 8 位 (12)高齢者や障がいのある人が地域で安心して暮らせる支援がある	62.3%
第 9 位 (20)花や歴史・文化を活用した美しい景観が形成されている	61.2%
第 10 位 (15)子どもたちの学力や豊かな心を育てる教育環境がある	58.2%

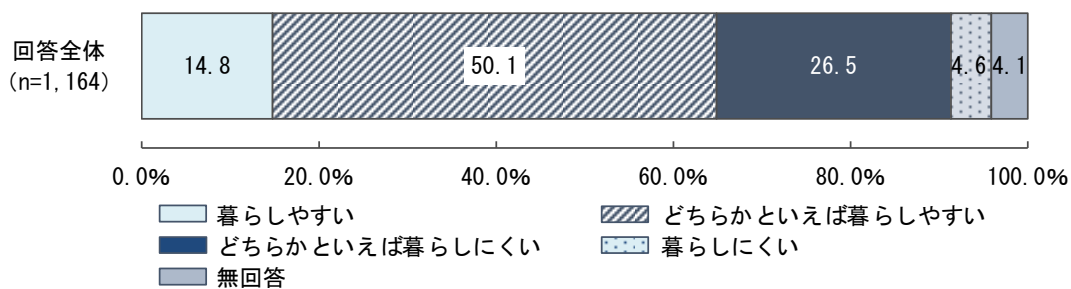
※暮らしにくい:「どちらかといえば暮らしにくい」または「暮らしにくい」と回答した方

※あてはまらないこと:「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」と回答した方

■ 暮らしやすさ

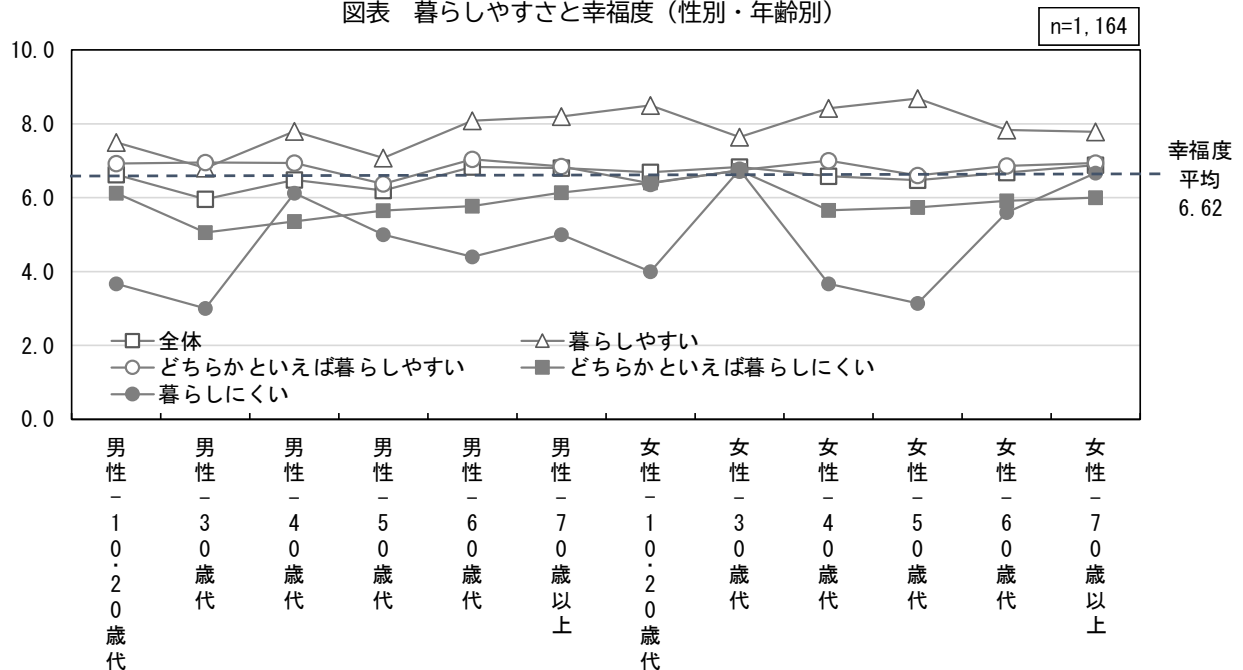
- ◎ 本市の暮らしやすさについては、約 6 割（64.9%）の方が「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と回答し、約 3 割（31.1%）の方が「どちらかといえば暮らしにくい」、「暮らしにくい」と回答しています。
- ◎ 暮らしやすさごとの幸福度を性別・年齢別に比較すると、暮らしやすさと幸福度に相関関係がみられる中で、男性の 10・20 歳代と 30 歳代、女性の 40 歳代と 50 歳代で特に低い幸福度を回答した方がいます。
- ◎ 総合的な暮らしやすさを 4 段階で指数化した値は 2.78 となっており、性別では男性よりも女性の方が暮らしやすいと感じており、年齢別では 30 歳代以上では年齢層が高くなるにつれて指数値が高くなる（暮らしやすいと思う）傾向がみられます。

図表 南島原市の暮らしやすさ

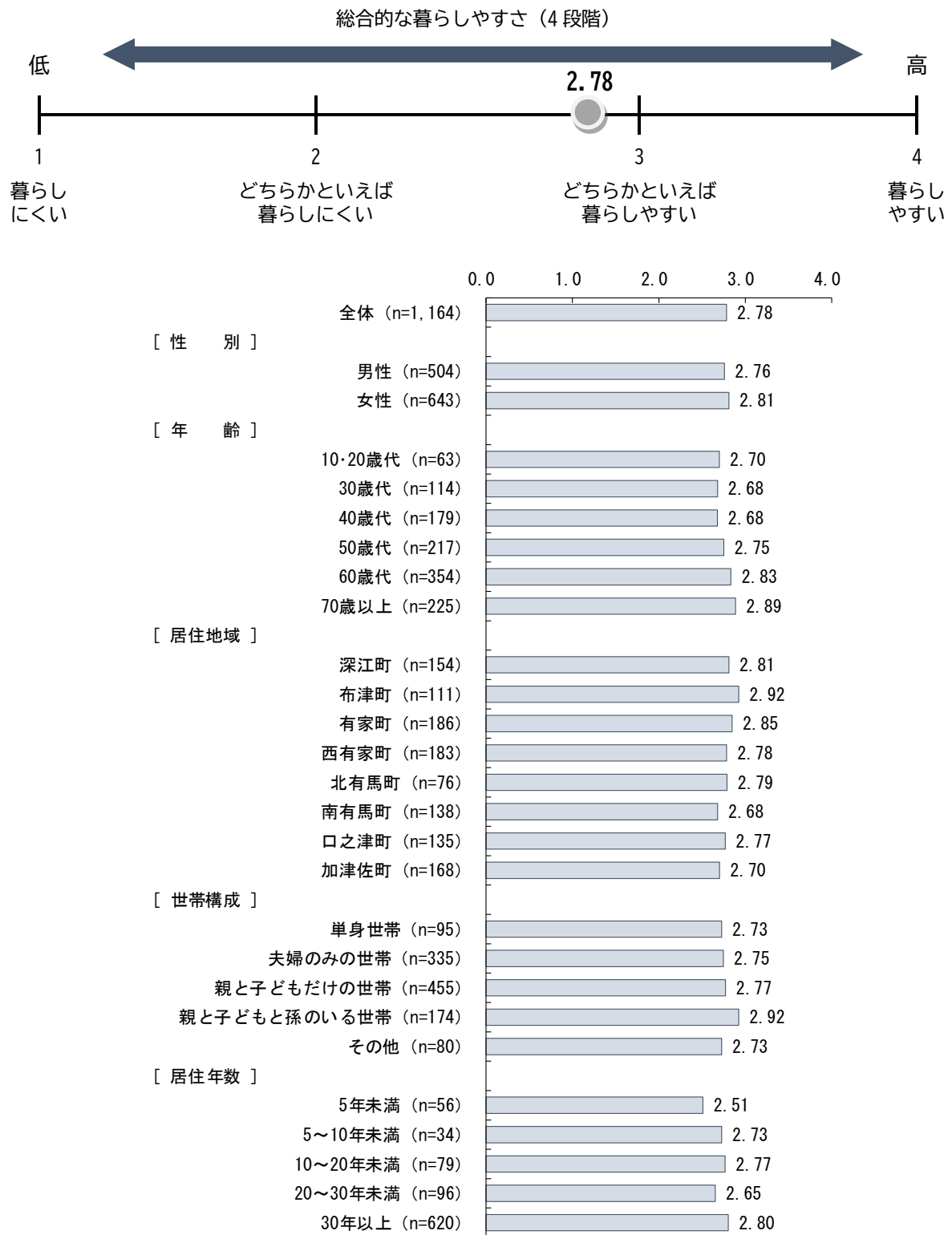


(参考) 平成 28 年度調査：67.4% (2.5 ポイント減)

図表 暮らしやすさと幸福度（性別・年齢別）



図表 南島原市の暮らしやすさ（指数値）

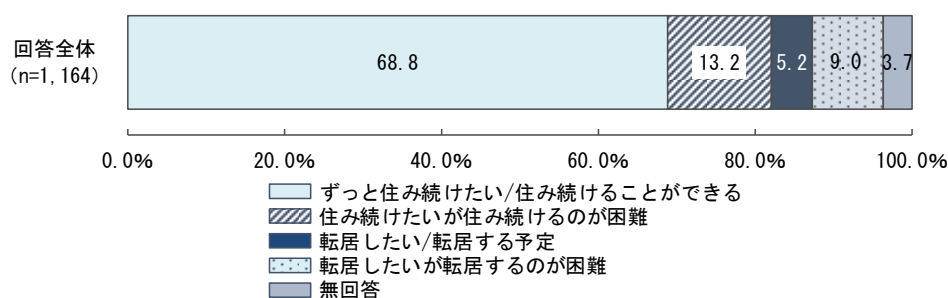


※指数化：（「暮らしやすい」×4+「どちらかといえば暮らしやすい」×3+「どちらかといえば暮らしにくい」×2+「暮らしにくい」×1）÷回答数（無回答を除く）

■ 定住意向と住みたい・転居したい理由

- ◎ 南島原市の定住意向については、「ずっと住みたい/住み続けることができる」、「住みたいが住み続けることが困難」を合わせた約 8 割（82.0%）は“住みたい”意向を示し、「転居したい/転居する予定」、「転居したいが転居するのが困難」を合わせた約 1 割（14.2%）は“転居したい”意向を示しています。
- ◎ 定住意向を 4 段階で指数化した値は 3.51 となっており、属性別にみると、年齢別では年齢層が高くなるにつれて指数値が高く（定住意向が強く）なっています。また、居住年数が高くなるにつれて指数値が高く（定住意向が強く）なっています。

図表 定住意向



（参考）平成 28 年度調査：70.2%（1.4 ポイント減）

■ 住みたい理由

図表 住みたい理由

(n=955)

テーマ	主な意見
住み続けることができる	・もし子どもができれば、自然でのびのびと育ててほしいため。（10・20 歳代・男性） ・マイホームを買う事ができた。住宅を購入したため。（30 歳代・女性） ・SNS 等で情報はある程度入ってくる。都会に住みたくない。観光にも力を入れている。（40 歳代・女性）
住み続けることが困難	・やりたい仕事ができる環境でない。（10・20 歳代・男性） ・高齢になった時、交通の利便性等から都市部に転居も選択肢に考えている。（40 歳代・男性） ・進学などで一度家を離れた子どもが帰ってこられない（就職がない・家がない）。（40 歳代・女性） ・介護スタッフやヘルパー等不足しており、将来の生活に不安。（40 歳代・女性）

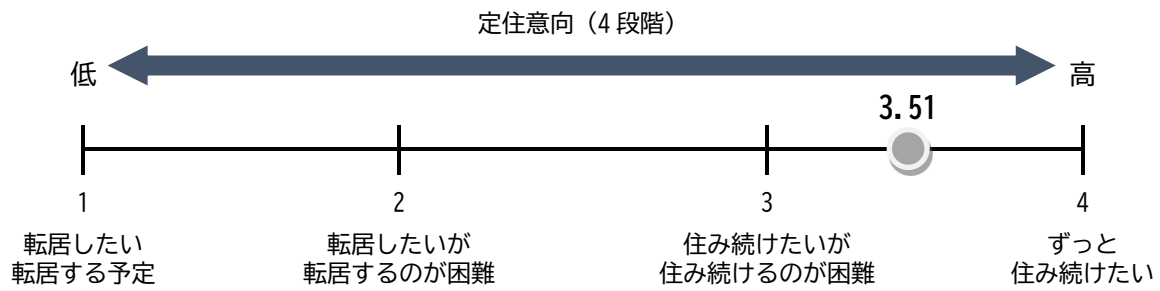
■ 転居したい理由

図表 転居したい理由

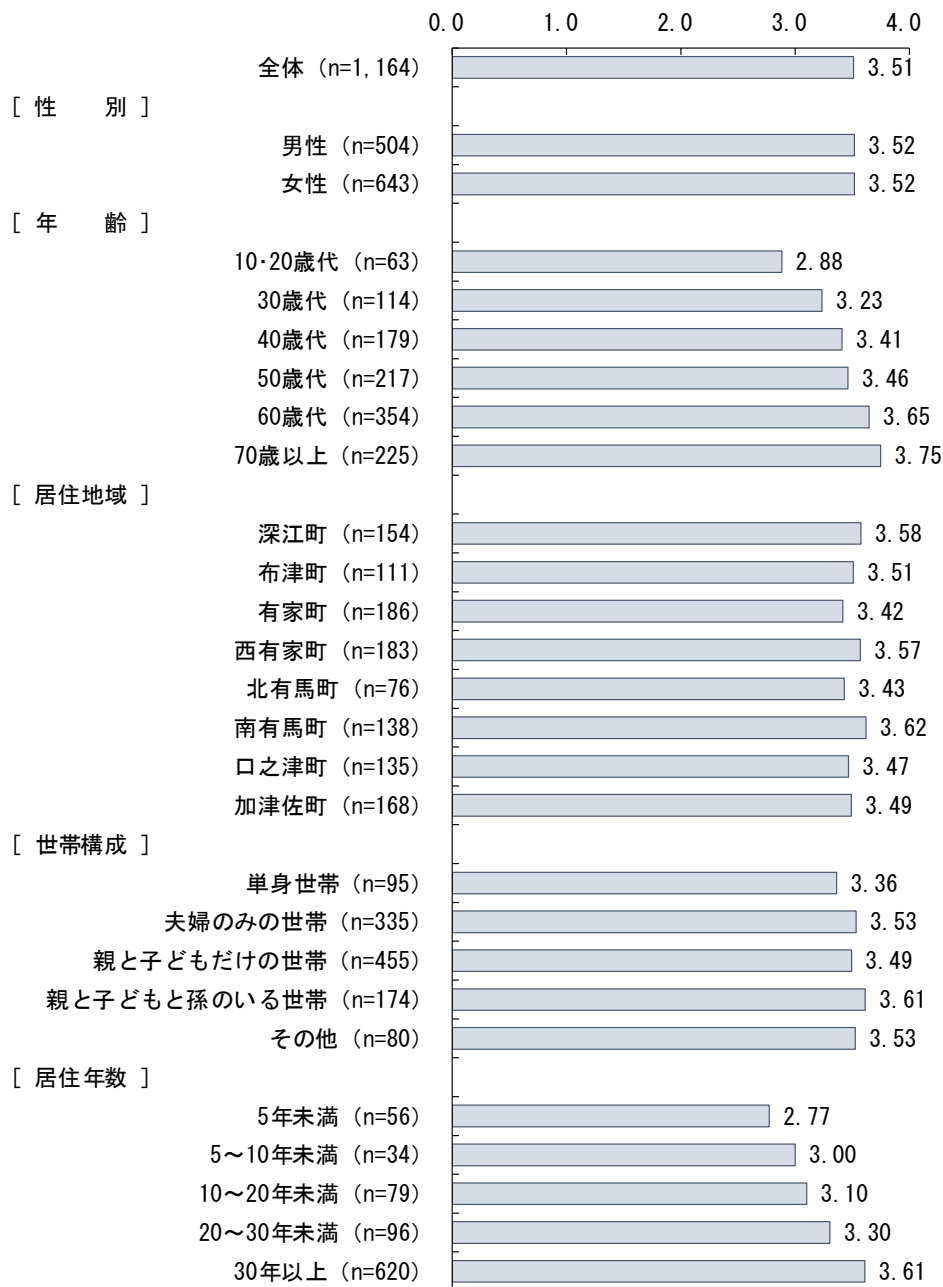
(n=166)

テーマ	主な意見
転居する予定	・悪いところはあまりないが、ワクワクする将来性を感じない。（10・20 歳代・女性） ・家庭を持ったときのヴィジョンが見えない。（10・20 歳代・男性） ・勤務先まで 1 時間以上かかるので、近くに転居したい。（30 歳代・女性）
転居するのが困難	・後継ぎだから。土地の管理等。（10・20 歳代・男性） ・親が近くに暮らしている。将来は両親の介護などを行う予定。（30 歳代・女性） ・両親もいるし、子どもを転校させるとなるとやはり転居は難しい。（40 歳代・女性）

図表 定住意向（指数値）



図表 定住意向



※指数化：（「住み続けることができる」×4+「住み続けたいが住み続けるのが困難」×3+「転居したいが転居するのが困難」×2+「転居する予定」×1）÷回答数（無回答を除く）

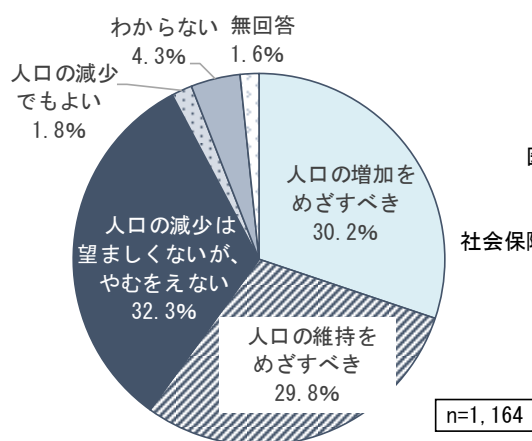
3 南島原市のこれからのまちづくりについて

① 人口減少社会について

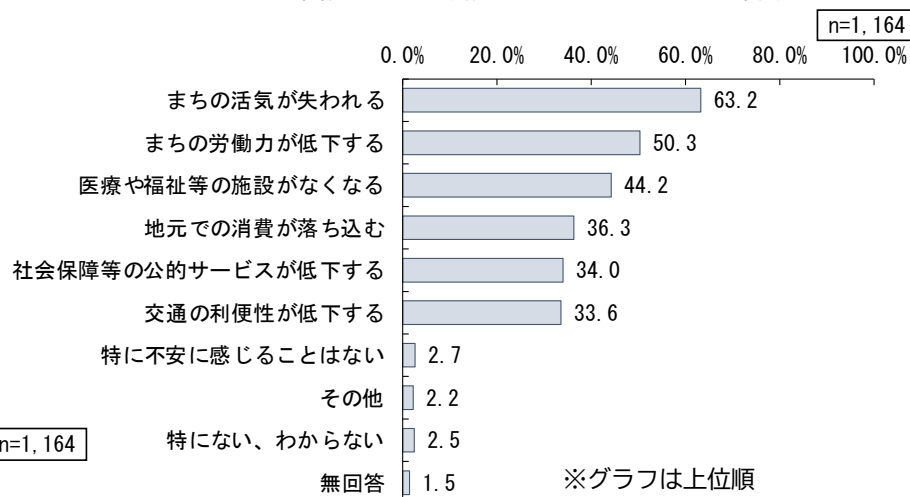
■ 人口減少に対する考え方・人口が減少することにより感じる不安

- ◎ 人口減少に対する考え方は、「人口の減少は望ましくないが、やむをえない」(32.3%)、「人口の増加をめざすべき」(30.2%)、「人口維持をめざすべき」(29.8%)の順に上位に挙げており、意見が分かれています。
- ◎ 人口が減少することにより感じる不安について年齢別にみると、「まちの活気が失われる」、「まちの労働力が低下する」ことを各年齢層で上位に挙げているほか、10・20歳代では「地元での消費が落ち込む」、30歳代以上では「医療や福祉等の施設がなくなる」を上位に挙げています。

図表 人口減少に対する考え方



図表 人口が減少することにより感じる不安



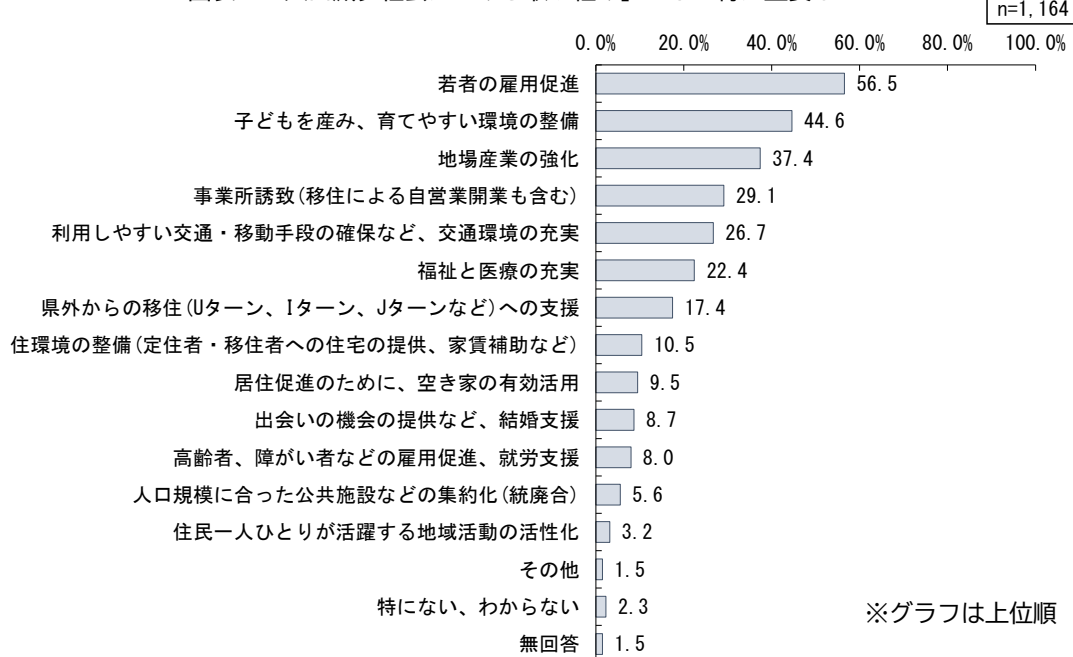
図表 人口が減少することにより感じる不安（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	まちの労働力が低下する 61.9%	まちの活気が失われる 54.0%	地元での消費が落ち込む 50.8%
30歳代 (n=114)	まちの活気が失われる・まちの労働力が低下する ともに57.0%		医療や福祉等の施設がなくなる 48.2%
40歳代 (n=179)	まちの労働力が低下する 52.5%	まちの活気が失われる 50.8%	医療や福祉等の施設がなくなる 41.3%
50歳代 (n=217)	まちの活気が失われる 63.1%	まちの労働力が低下する 55.3%	医療や福祉等の施設がなくなる 44.7%
60歳代 (n=354)	まちの活気が失われる 67.2%	まちの労働力が低下する 46.3%	医療や福祉等の施設がなくなる 45.2%
70歳以上 (n=225)	まちの活気が失われる 72.0%	まちの労働力が低下する 44.9%	医療や福祉等の施設がなくなる 44.9%

■「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと

- ◎ 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なことでは、「若者の雇用促進」(56.5%)、「子どもを産み、育てやすい環境の整備」(44.6%)、「地場産業の強化」(37.4%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、前述のほかに10・20歳代では「利用しやすい交通・移動手段の確保など、交通環境の充実」、30歳代では「福祉と医療の充実」、40歳代では「事業所誘致」を上位に挙げています。

図表 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと



図表 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと(年齢別：上位3項目)

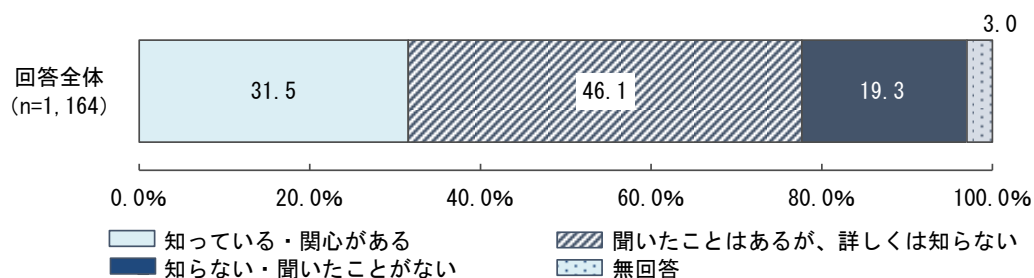
	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	若者の雇用促進・子どもを産み、育てやすい環境の整備 ともに 52.4%		利用しやすい交通・移動手段の確保など、交通環境の充実 28.6%
30歳代 (n=114)	子どもを産み、育てやすい環境の整備 66.7%	若者の雇用促進 58.8%	福祉と医療の充実 35.1%
40歳代 (n=179)	若者の雇用促進 51.4%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 45.8%	事業所誘致 (移住による自営業開業も含む) 33.5%
50歳代 (n=217)	若者の雇用促進 55.3%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 39.2%	地場産業の強化 36.4%
60歳代 (n=354)	若者の雇用促進 58.8%	地場産業の強化 43.5%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 42.9%
70歳以上 (n=225)	若者の雇用促進 59.1%	地場産業の強化 47.1%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 38.7%

② SDGs（持続可能な開発目標）について

■ SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況

- ◎ SDGs（持続可能な開発目標）については、「知っている・関心がある」が31.5%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が46.1%、「知らない・聞いたことがない」が19.3%となっています。
- ◎ 「知っている・関心がある」割合を年齢別にみると、10・20歳代が44.4%に対し、70歳以上では20.9%となっているほか、「知らない・聞いたことがない」では10・20歳代が6.3%に対し、70歳以上では30.7%となっていることから、年齢層が高くなるほど認知度が低くなる傾向がみられます。

図表 SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況



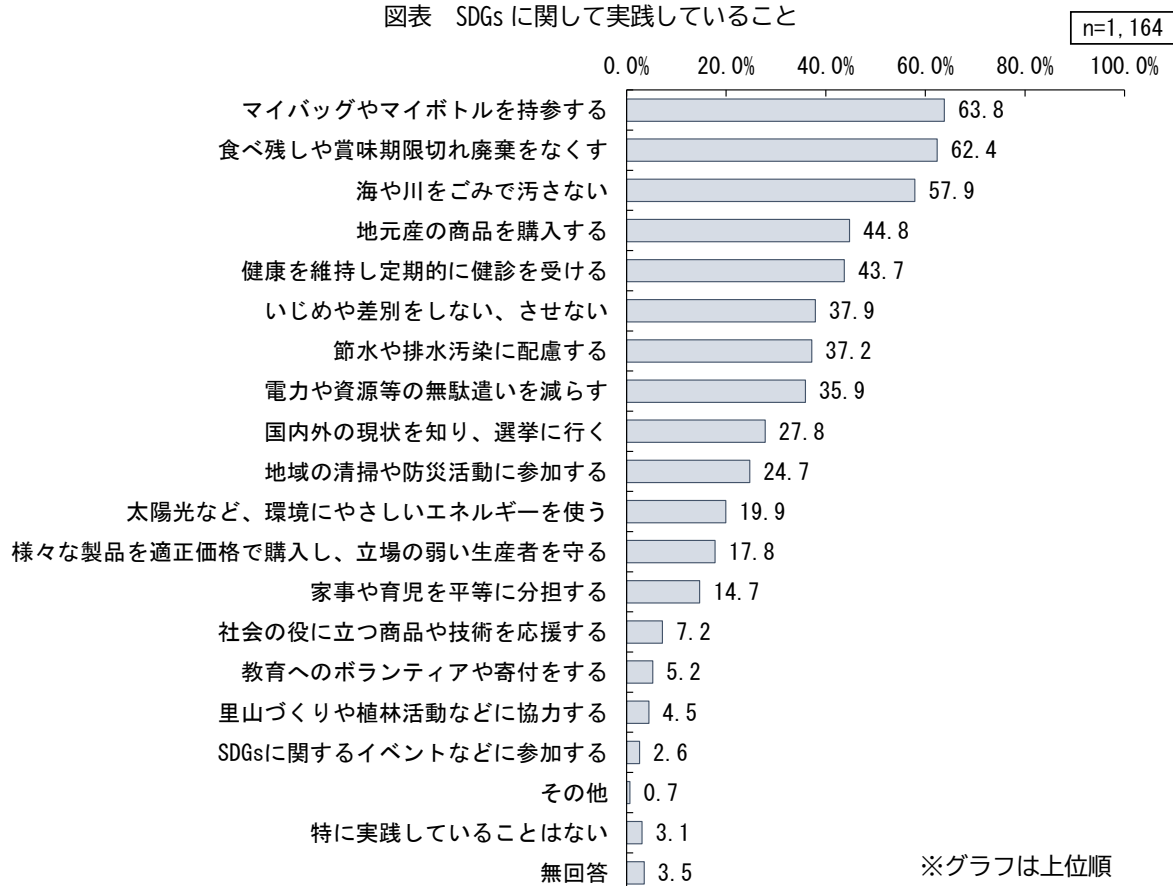
図表 SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況（年齢別）

	知っている・ 関心がある	聞いたことはあるが、 詳しくは知らない	知らない・ 聞いたことがない	無回答
10・20 歳代(n=63)	44.4%	42.9%	6.3%	6.3%
30 歳代(n=114)	37.7%	48.2%	12.3%	1.8%
40 歳代(n=179)	33.5%	48.6%	12.3%	5.6%
50 歳代(n=217)	36.4%	49.3%	13.4%	0.9%
60 歳代(n=354)	30.5%	43.2%	23.7%	2.5%
70 歳以上(n=225)	20.9%	45.3%	30.7%	3.1%

■ SDGs（持続可能な開発目標）に関して実践していること

◎ SDGs（持続可能な開発目標）に関して実践していることでは、「マイバッグやマイボトルを持参する」（63.8%）、「食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす」（62.4%）、「海や川をごみで汚さない」（57.9%）を上位に挙げており、年齢別でも同様の取り組みが上位に挙がっています。

図表 SDGsに関して実践していること



図表 SDGsに関して実践していること（年齢別：上位3項目）

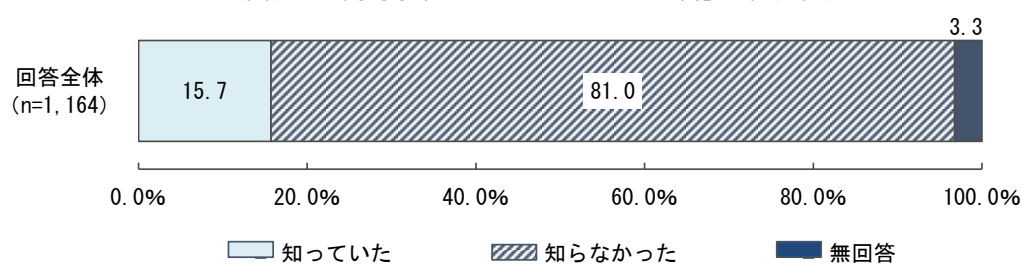
	第1位	第2位	第3位
10・20 歳代 (n=63)	食べ残しや賞味期限切れ 廃棄をなくす 73.0%	マイバッグやマイボトルを 持参する 60.3%	海や川をごみで汚さない 44.4%
30 歳代 (n=114)	マイバッグやマイボトルを 持参する 64.0%	食べ残しや賞味期限切れ 廃棄をなくす 63.2%	海や川をごみで汚さない 57.9%
40 歳代 (n=179)	食べ残しや賞味期限切れ 廃棄をなくす 62.6%	マイバッグやマイボトルを 持参する 60.9%	海や川をごみで汚さない 59.8%
50 歳代 (n=217)	食べ残しや賞味期限切れ 廃棄をなくす 65.9%	マイバッグやマイボトルを 持参する 64.5%	海や川をごみで汚さない 53.0%
60 歳代 (n=354)	マイバッグやマイボトルを 持参する 64.4%	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 海や川をごみで汚さない ともに 61.3%	
70 歳以上 (n=225)	マイバッグやマイボトルを 持参する 66.2%	海や川をごみで汚さない 58.7%	食べ残しや賞味期限切れ廃 棄をなくす 56.9%

③ 脱炭素社会への取り組みについて

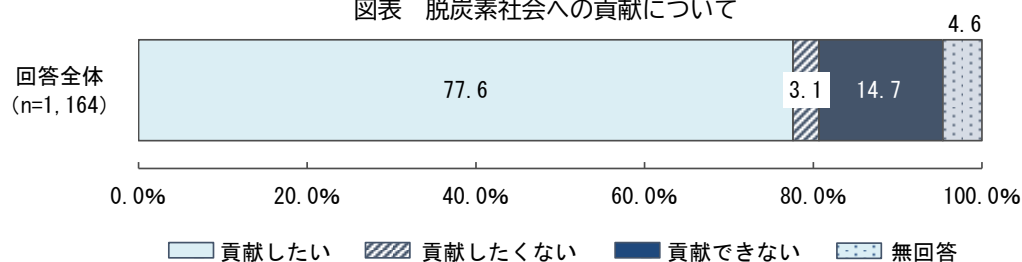
■「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況・脱炭素社会への貢献について

- ◎「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況について、「知っていた」は15.7%、「知らなかった」は81.0%となっており、未だ十分に周知されていない状況にあるとみられます。
- ◎脱炭素社会への貢献については、「貢献したい」が77.6%、「貢献したくない」が3.1%、「貢献できない」が14.7%となっており、年齢別にみても7～8割が「貢献したい」意向を示しています。

図表 「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況



図表 脱炭素社会への貢献について



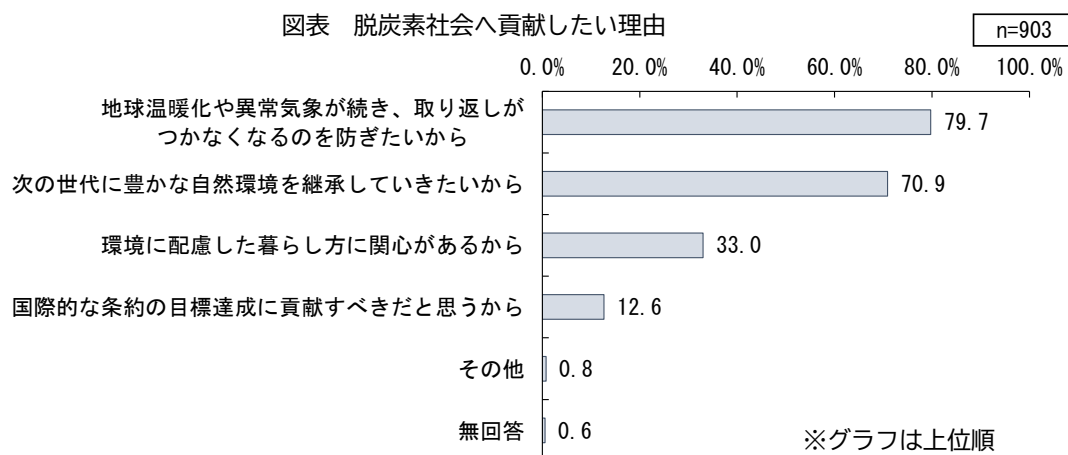
図表 脱炭素社会への貢献について（年齢別）

	貢献したい	貢献したくない	貢献できない	無回答
10・20 歳代(n=63)	74.6%	4.8%	15.9%	4.8%
30 歳代(n=114)	78.9%	2.6%	15.8%	2.6%
40 歳代(n=179)	68.7%	6.1%	19.6%	5.6%
50 歳代(n=217)	76.0%	4.6%	16.1%	3.2%
60 歳代(n=354)	79.7%	2.3%	13.3%	4.8%
70 歳以上(n=225)	84.0%	0.0%	10.7%	5.3%

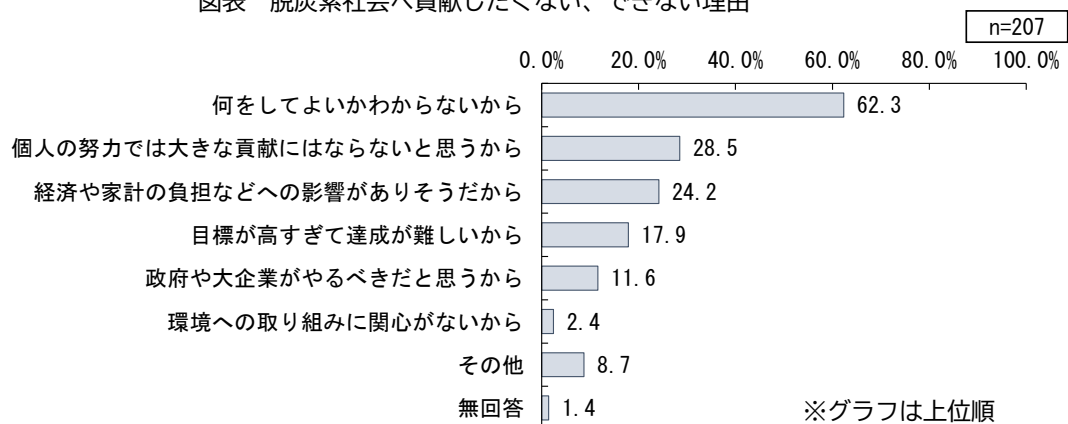
■ 脱炭素社会へ貢献したい理由・貢献できない理由について

◎ 脱炭素社会へ「貢献したい」と回答した方（n=903）の貢献したい理由としては、「地球温暖化や異常気象が続き、取り返しがつかなくなるのを防ぎたいから」（79.7%）、貢献したくない、できない理由では、「何をしてよいかわからないから」（62.3%）をそれぞれ最上位に挙げています。

図表 脱炭素社会へ貢献したい理由



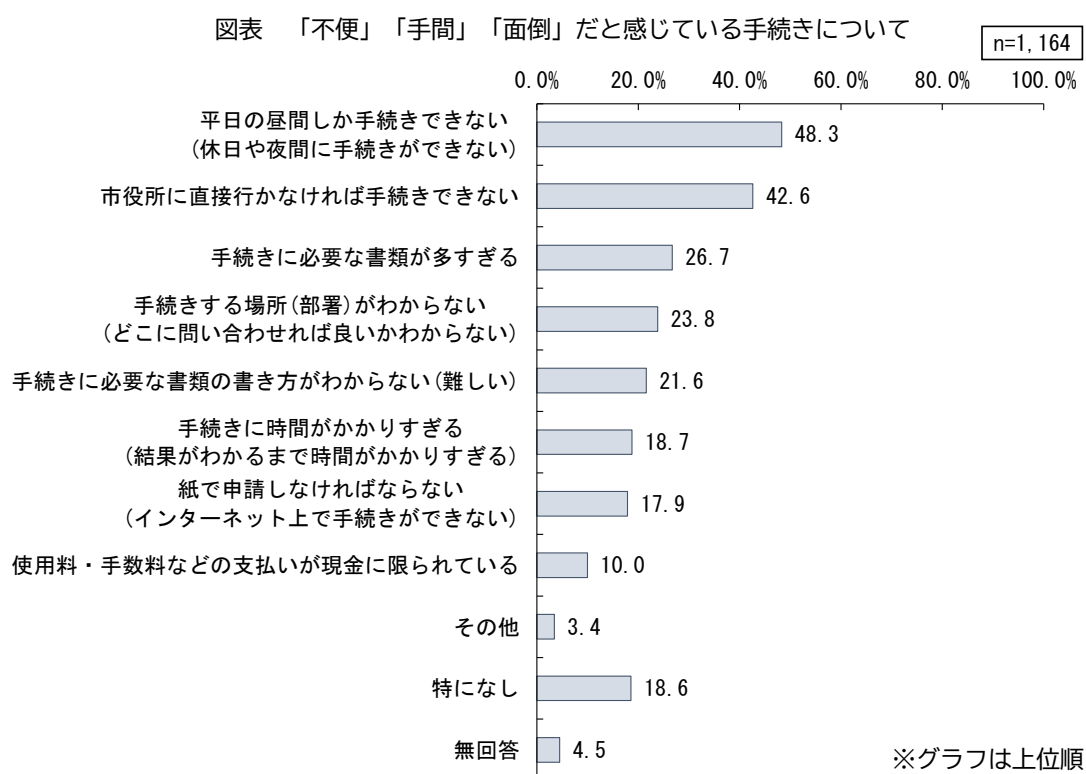
図表 脱炭素社会へ貢献したくない、できない理由



④ 市のデジタル化推進について

■「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについて

- ◎ 「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについては、「平日の昼間しか手続きできない」(48.3%)、「市役所に直接行かなければ手続きできない」(42.6%)、「手続きに必要な書類が多すぎる」(26.7%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、前述のほかに、10・20歳代では「手続きする場所(部署)がわからない」、30歳代では「紙で申請しなければならない」、70歳以上では「手続きに必要な書類の書き方がわからない」を上位に挙げています。



図表 「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについて(年齢別：上位3項目)

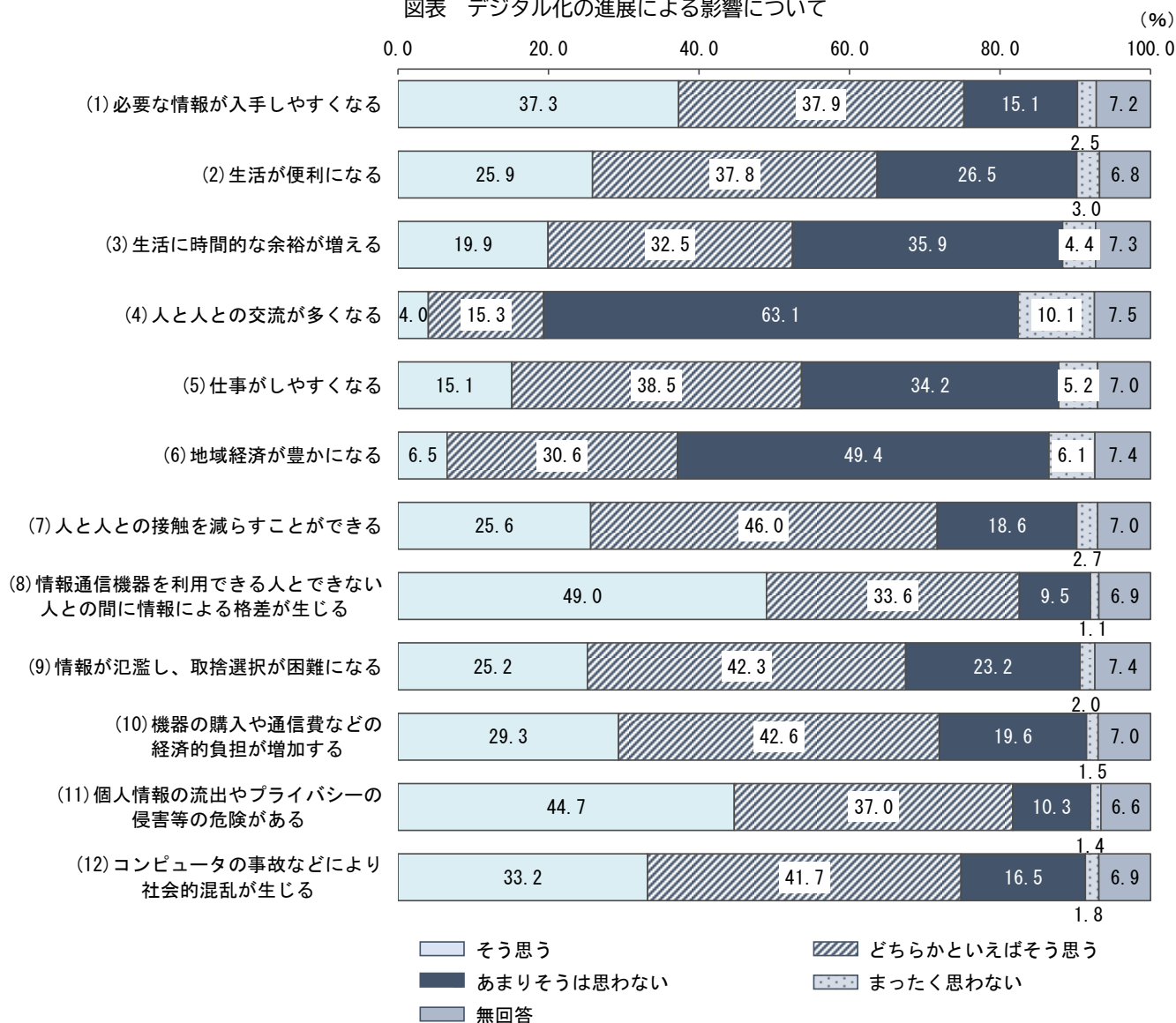
	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	平日の昼間しか 手続きできない 63.5%	市役所に直接行かなければ 手続きできない 47.6%	手続きする場所(部署)が わからない 31.7%
30歳代 (n=114)	平日の昼間しか 手続きできない 59.6%	市役所に直接行かなければ 手続きできない 55.3%	紙で申請しなければ ならない 34.2%
40歳代 (n=179)	平日の昼間しか 手続きできない 58.1%	市役所に直接行かなければ 手続きできない 46.9%	手続きに必要な書類が 多すぎる 27.9%
50歳代 (n=217)	平日の昼間しか 手続きできない 62.2%	市役所に直接行かなければ 手続きできない 52.5%	手続きに必要な書類が 多すぎる 28.1%

	第1位	第2位	第3位
60歳代 (n=354)	平日の昼間しか 手続きできない 43.8%	市役所に直接行かなければ 手続きできない 39.5%	手続きに必要な書類が 多すぎる 29.7%
70歳以上 (n=225)	市役所に直接行かなければ 手続きできない 27.6%	平日の昼間しか 手続きできない 23.6%	手続きに必要な書類の 書き方がわからない 17.8%

■ デジタル化の進展による影響について

◎ デジタル化の進展による影響について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“影響がある”と回答があった内容として、「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に情報による格差が生じる」(82.6%)、「個人情報の流出やプライバシーの侵害等の危険がある」(81.7%)、「必要な情報が入手しやすくなる」(75.2%)が上位に挙げられています。

図表 デジタル化の進展による影響について



※影響がある：「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方

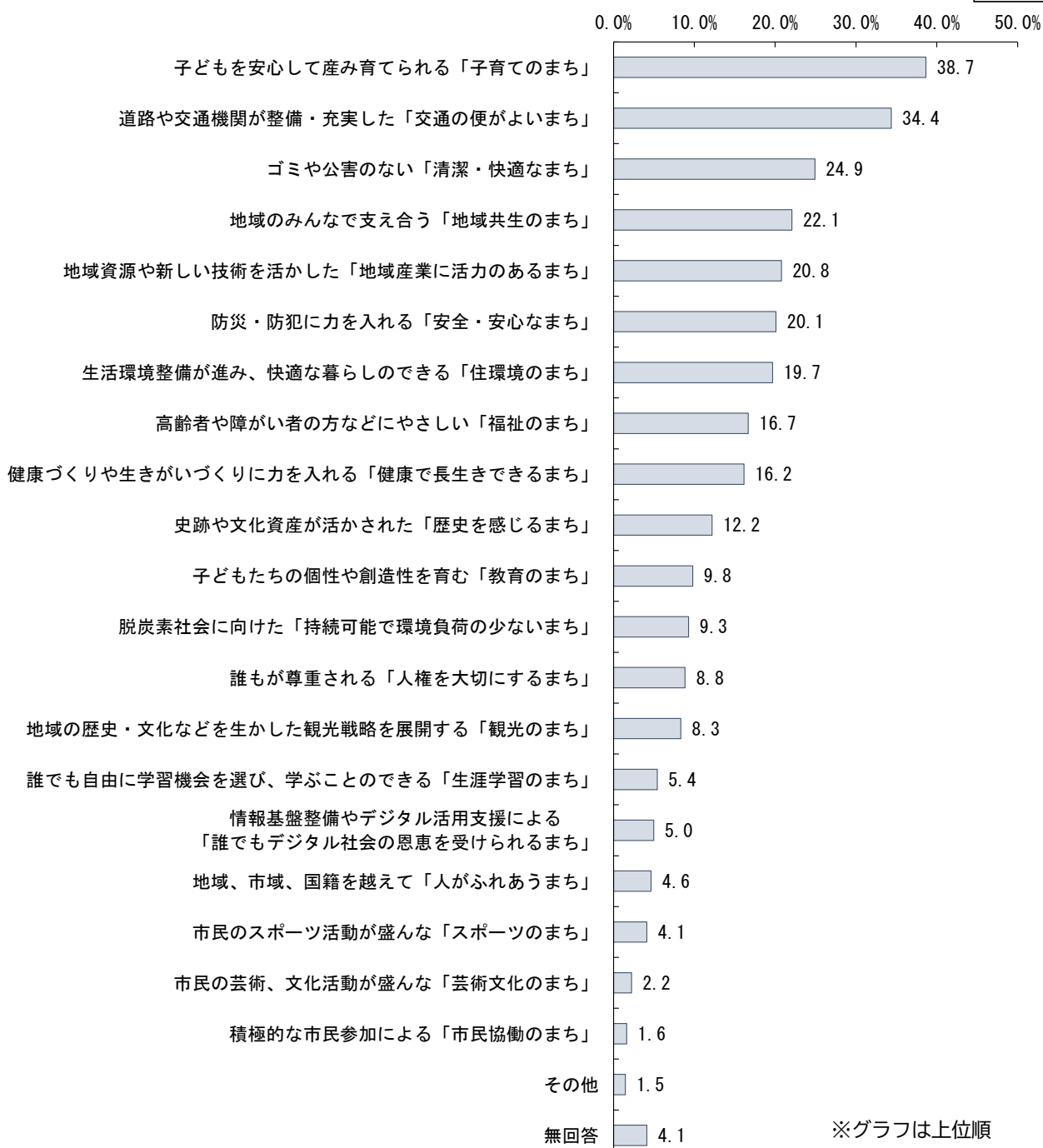
⑤ 新たなまちづくりについて

■ 今後のまちづくりの方向性

◎ 今後のまちづくりの方向性としては、「子育てのまち」(38.7%)、「交通の便がよいまち」(34.4%)、「清潔・快適なまち」(24.9%)、「地域共生のまち」(22.1%)、「地域産業に活力のあるまち」(20.8%)を望む意向が上位に挙がっています。

図表 今後のまちづくりについて

n=1,164



◎ 上位 3 位までに挙がっている項目を年齢別にみると、10～40 歳代では、「子育てのまち」、50 歳代以上では、「交通の便がよいまち」を今後のまちづくりの方向性として最上位に挙げています。また、30 歳代では、「地域共生のまち」を上位に挙げています。

図表 今後のまちづくりについて（年齢別：上位 3 項目）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
10・20 歳代 (n=63)	「子育てのまち」 33.3%	「清潔・快適なまち」 27.0%	「安全・安心なまち」 「交通の便がよいまち」 25.4%
30 歳代 (n=114)	「子育てのまち」 64.0%	「教育のまち」 25.4%	「地域共生のまち」 「交通の便がよいまち」 24.6%
40 歳代 (n=179)	「子育てのまち」 44.1%	「交通の便がよいまち」 29.1%	「清潔・快適なまち」 19.6%
50 歳代 (n=217)	「交通の便がよいまち」 38.2%	「子育てのまち」 36.4%	「地域産業に活力のあるまち」 24.4%
60 歳代 (n=354)	「交通の便がよいまち」 38.7%	「子育てのまち」 34.2%	「清潔・快適なまち」 28.5%
70 歳以上 (n=225)	「交通の便がよいまち」 36.0%	「子育てのまち」 32.9%	「清潔・快適なまち」 30.7%

図表 今後のまちづくりについて意見・提案

テーマ	主な意見
子育てのまち	・雨の日に遊べるとこもないので、休みの日（日曜日）はどこに行こうかいつも悩みます。（30 歳代・女性） ・空き家等を活用して出張販売所としてもらったり、子どもの遊びスペースを作ってもらえたら嬉しい。半島外のお店の物が手軽に買えたらありがたいし、公園以外の遊びスペースがあれば、子育て世代は助かります。（30 歳代・女性） ・幼い子どもが遊べる公園がない。島原や国見町・諫早まで行って遊び、外食も近くで済ませる、となると南島原市にファミリーによる経済は入って来ない。（60 歳代・女性）
交通の便がよいまち	・買い物弱者の交通手段にバスが運行できないか？（60 歳代・女性） ・地域の巡回バスの実現。小学校のスクールバスの様な定期的な（乗降車時刻・場所）コミュニティバスの実現を目指してほしい。（50 歳代・女性）
清潔・快適なまち	・耕作放棄地・空き家対策を早急にアイデアを考える。貸し農園の整備・南島産農・魚・特産市場など。（60 歳代・女性） ・空き家や道路など昔に比べどこも草が生い茂っている。市民清掃に参加を呼びかけていいのでは。（60 歳代・女性） ・道路脇を清潔に保つ事で、ゴミ投棄が少なくなればと思う。空き缶など、まとめて捨ててある所があり、清潔なまちづくり。（60 歳代・女性）
その他	・結婚して南島原に来て孤独を感じる場合があります。そういう人たちの集いの場があると良いと思います。（40 歳代・女性） ・南島原の映えスポットはどこなんだろう。わざわざでも来たい場所を作ることには出来ないか？大津駅は黄色いハンカチで効果絶大。（40 歳代・女性） ・有家の浜、せっかくビーチを作っているのに、開放し、夏は他の市・県等からの観光客を集めてほしい。（40 歳代・男性）

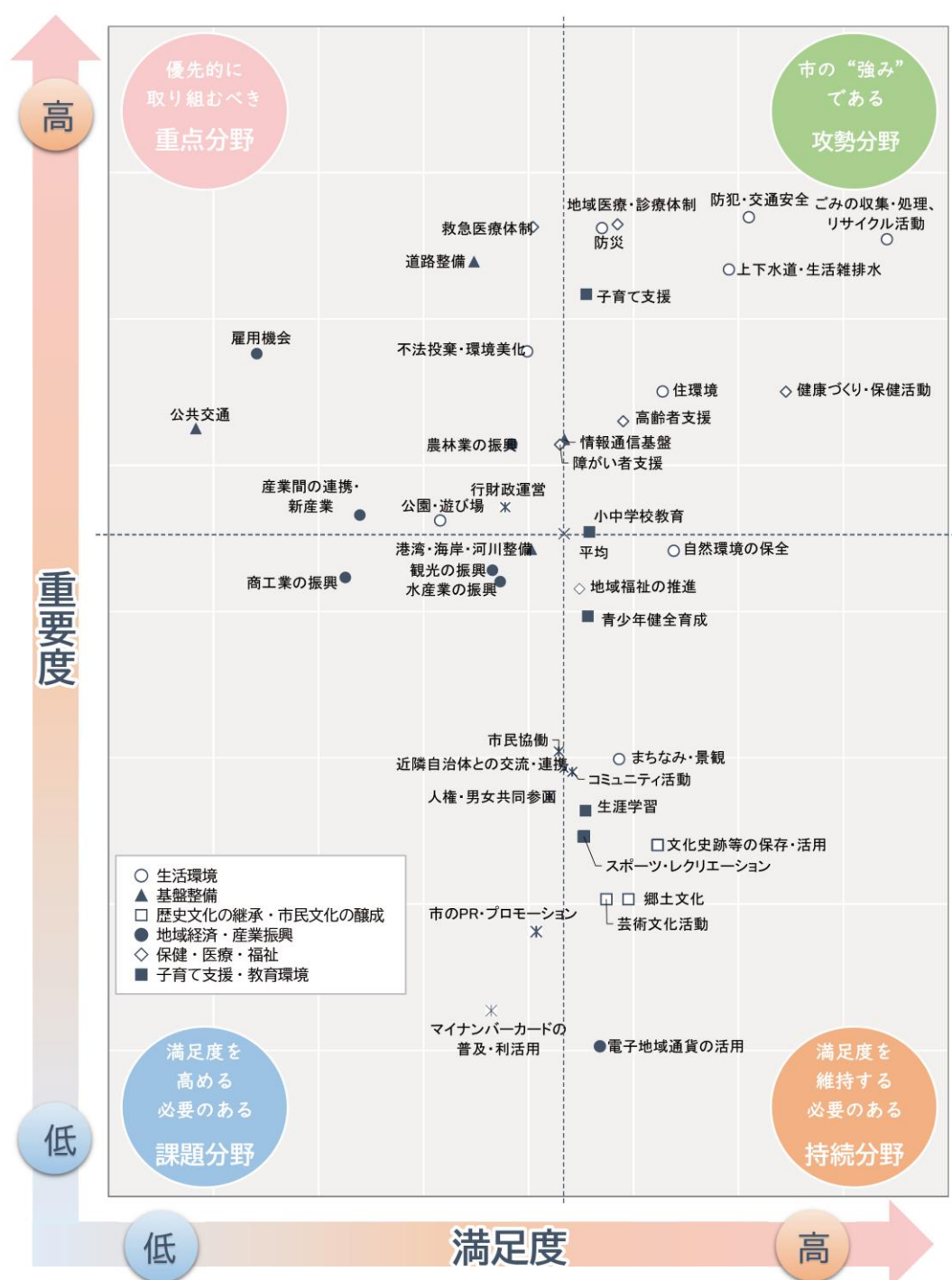
I-3 市の取り組みに対する評価・意見

1 施策全体

■ 市の取り組みに対する評価（満足度・重要度）

◎ 下の図表では、5段階で評価した満足度を横軸、重要度を縦軸に設定した座標軸の中に、各取り組みを点数化してグラフに表しています。満足度と重要度の平均は、42の取り組みの満足度・重要度の平均（満足度：3.07点、重要度：3.87点）を中央に十字を配置した4つの範囲（象限）に分けています。

図表 南島原市の取り組み（満足度・重要度）



◎ 市が優先的に取り組むべき分野は、生活環境、基盤整備、保健・医療・福祉、子育て・教育環境に関する取り組みであると言えます。

- ・生活環境：不法投棄への対策・地域の環境美化、公園緑地・子どもの遊び場の整備
- ・基盤整備：市内の道路網・道路整備、市内の公共交通の本数・路線、港湾・海岸・河川の整備
- ・地域経済・産業振興：生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興、市内での雇用機会の拡充・創出、産業間の連携、新産業の創出・育成
- ・保健・医療・福祉：夜間・休日などの救急医療体制、障がいのある人への支援・環境の整備
- ・協働のまちづくり・行財政運営：行財政の適正な運営

■ 満足度による前回調査との比較

◎ 南島原市の取り組みについて、前回調査（平成 28 年度）の満足度と比較すると、生活環境の「(8) 災害に強いまちづくり・防災対策、(9) 防犯・交通安全など、地域の安全対策」、基盤整備の「(13) 情報通信基盤の整備」、子育て支援・教育環境の「(31) 小中学校での特色ある教育」等は前回調査を上回る満足度となっていますが、その他は前回調査の満足度を下回る結果となっています。

凡 例

令和 4 年度調査（2022）による満足度 平成 28 年度調査（2016）による満足度
 （回答数=1,164） （回答数=1,152）

※満足度：

（「満足している」＋「どちらかといえば満足している」の割合）÷ 回答数（無回答、「どちらともいえない」を除く）

図表 前回評価との満足度比較

[生活環境]

項 目	満 足 度	前回比
(1) 植栽活動によるまちなみ・景観	69.2% 69.8%	-0.6
(2) 自然環境の保全	75.6% 78.6%	-3.0
(3) ごみの収集・処理、リサイクル活動	84.8% 86.0%	-1.2
(4) 不法投棄への対策・地域の環境美化	53.2% 52.7%	0.5
(5) 上下水道・生活雑排水施設の整備	72.7% 71.7%	0.9
(6) 住環境の整備	70.6% 73.1%	-2.6
(7) 公園緑地・子どもの遊び場の整備	38.9% 44.1%	-5.1
(8) 災害に強いまちづくり・防災対策	64.3% 51.4%	13.0
(9) 防犯・交通安全など、地域の安全対策	83.4% 77.5%	5.9

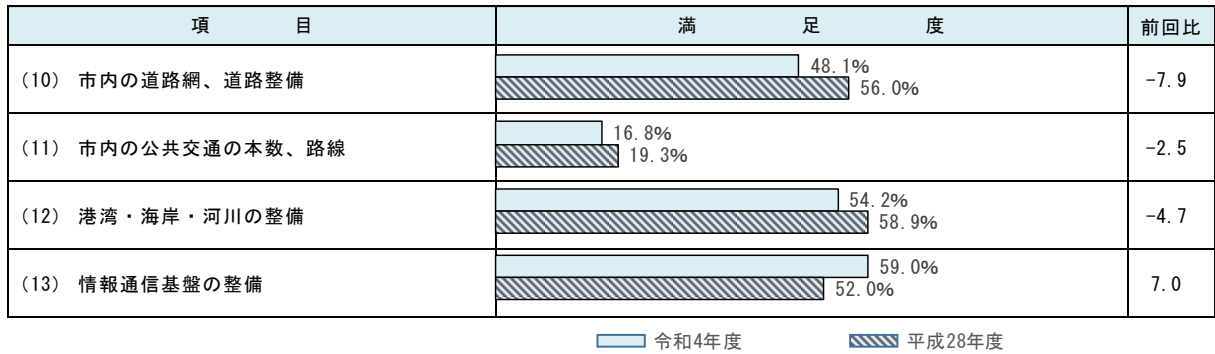
令和4年度

平成28年度

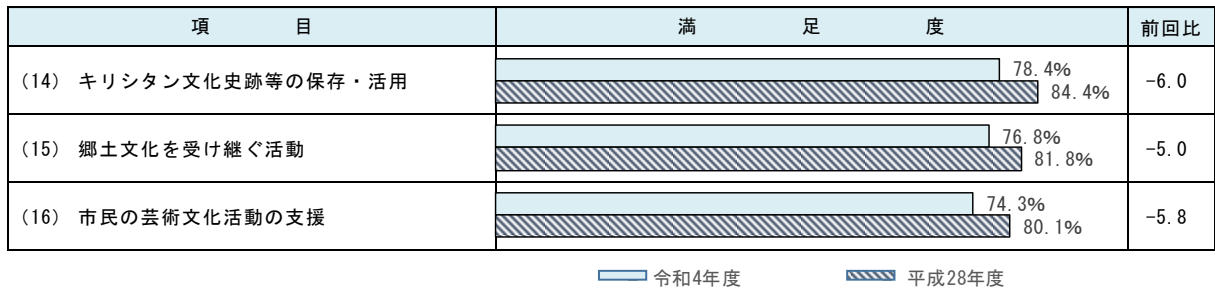
※小数第二位を四捨五入しています。

図表 前回評価との満足度比較

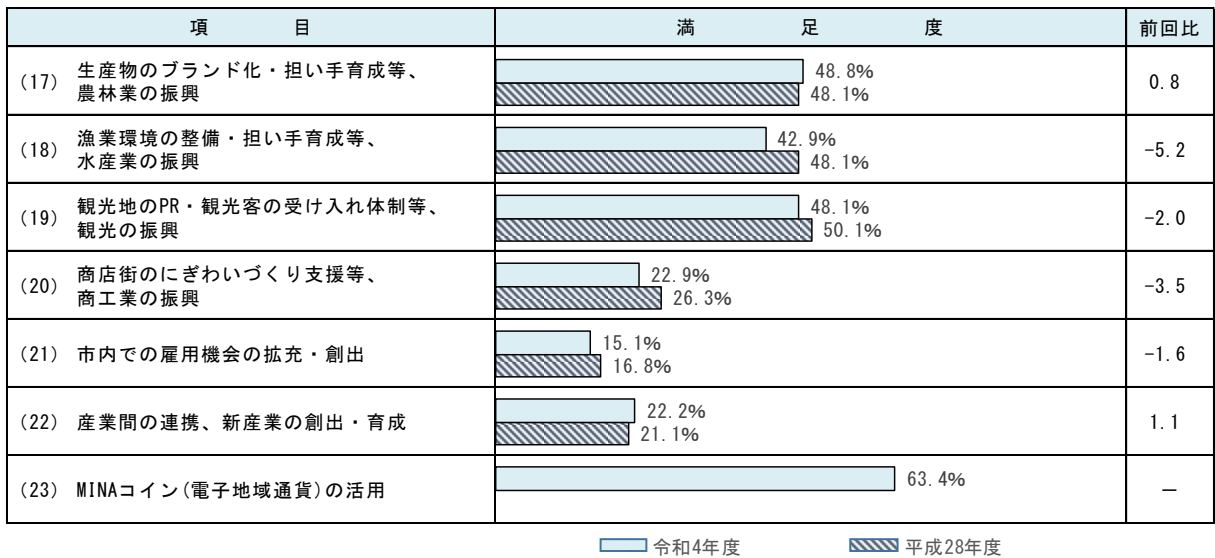
[基盤整備]



[歴史の継承・市民文化の醸成]



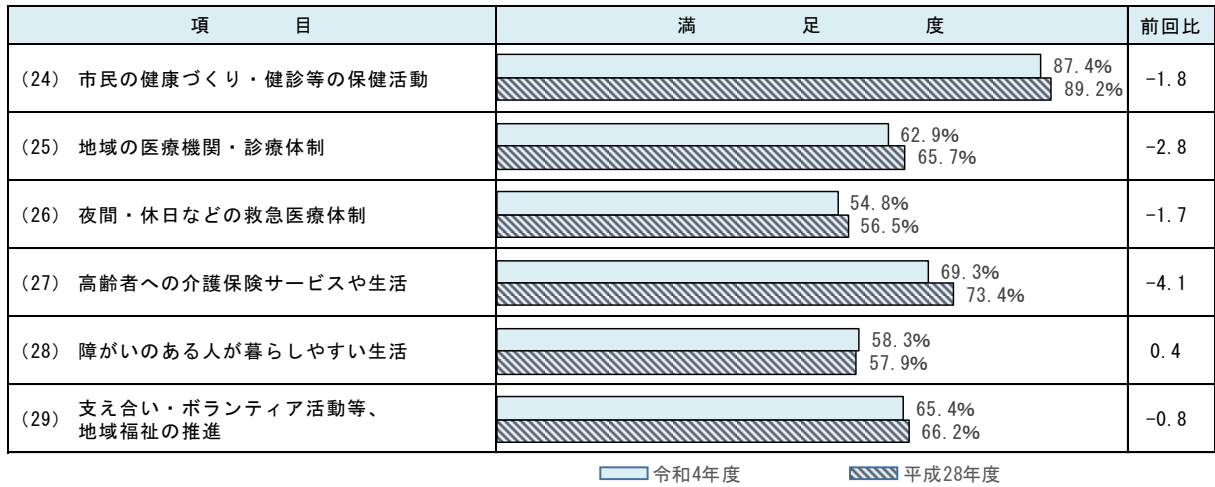
[地域経済・産業振興]



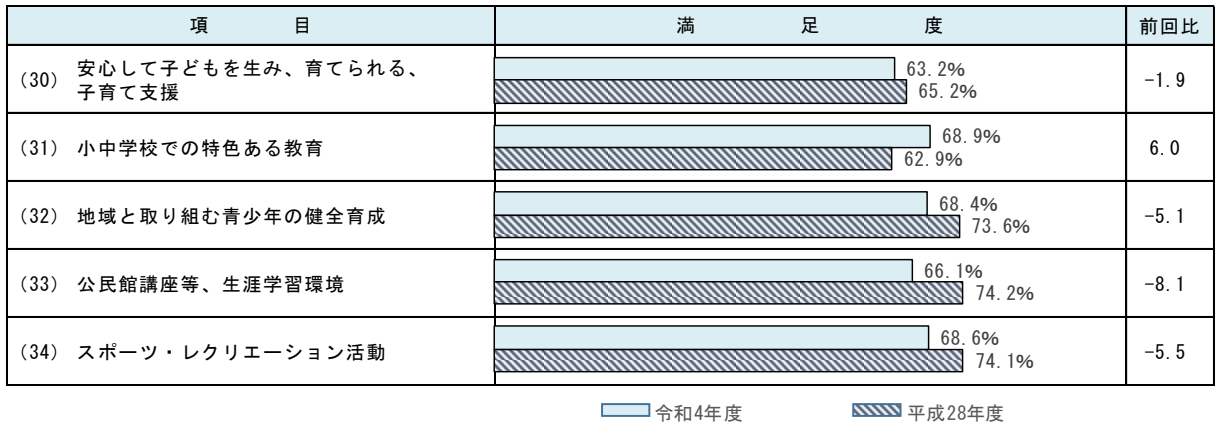
※小数第二位を四捨五入しています。

図表 前回評価との満足度比較

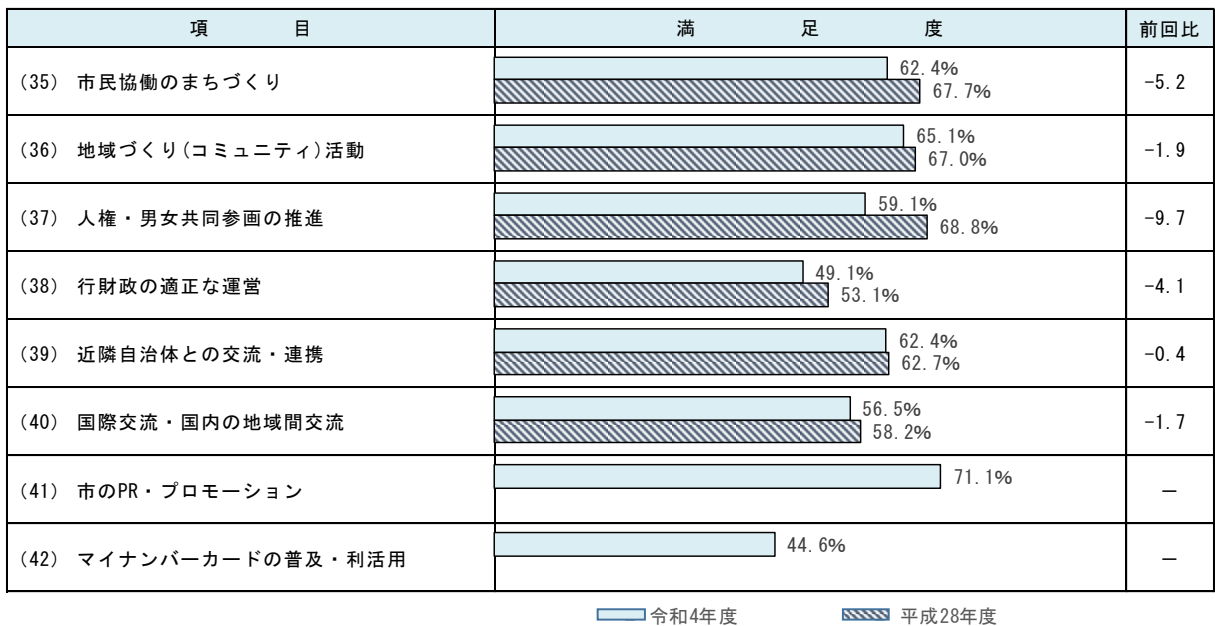
[保健・医療・福祉]



[子育て支援・教育環境]



[協働のまちづくり・行財政運営]



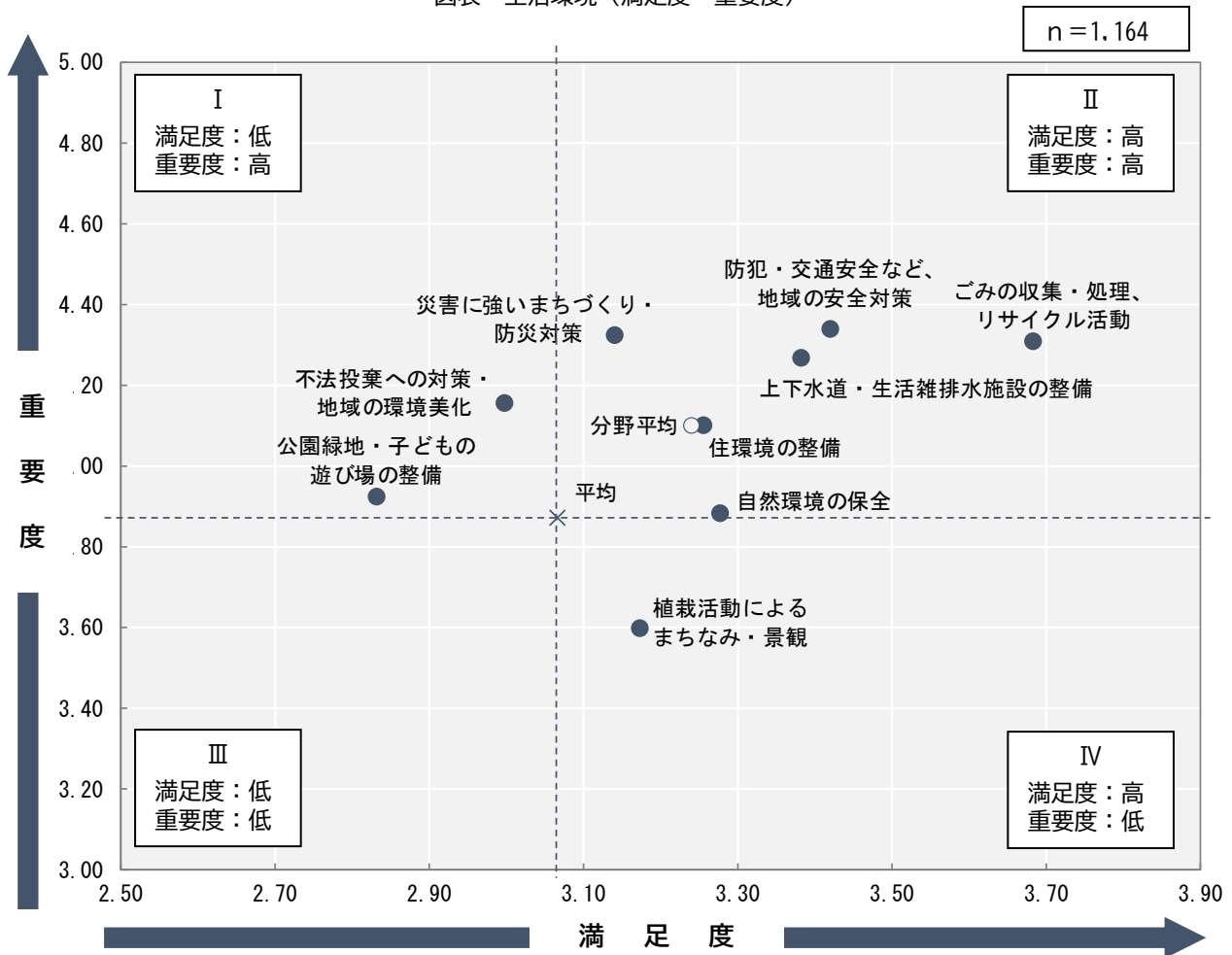
※小数第二位を四捨五入しています。

2 生活環境

■ 生活環境の満足度・重要度

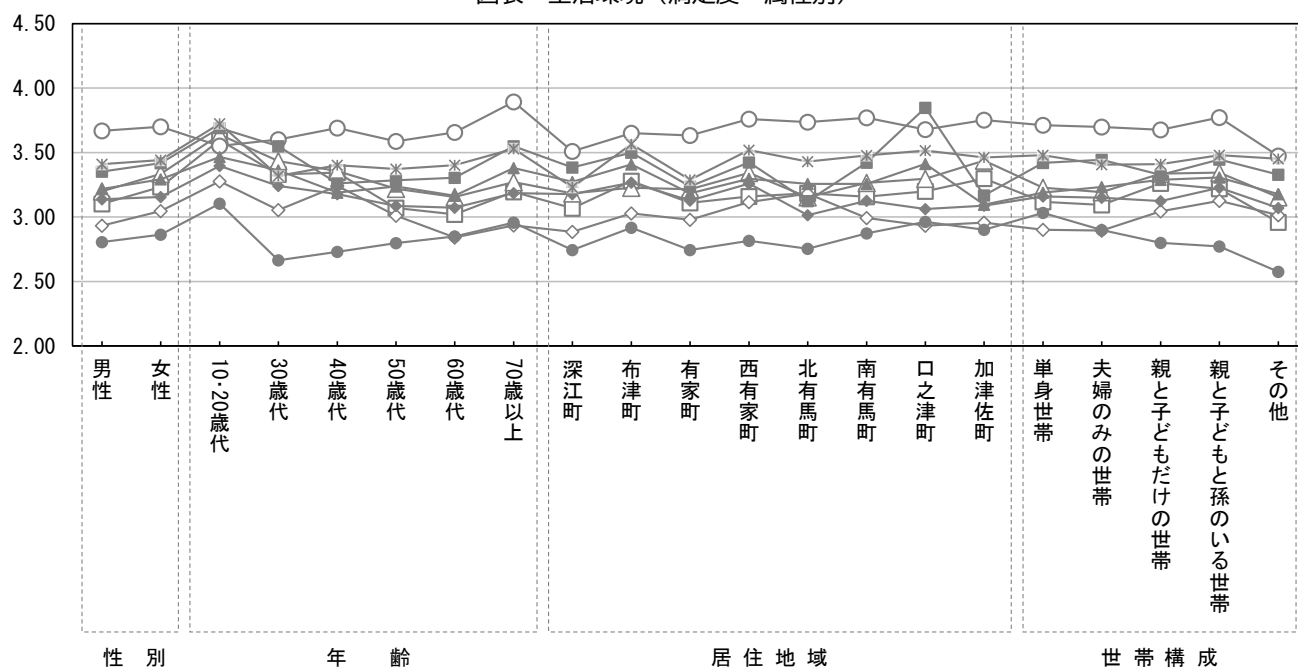
- ◎ 生活環境の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「不法投棄への対策・地域の環境美化」、「公園緑地・子どもの遊び場の整備」が挙がっています。
- ◎ 「公園緑地・子どもの遊び場の整備」は、特に30歳代で満足度が低くなっています。
- ◎ 「ごみの収集・処理、リサイクル活動」は70歳以上で満足度が高く、「上下水道・生活雑排水施設の整備」は口之津町で特に満足度が高くなっています。

図表 生活環境（満足度・重要度）

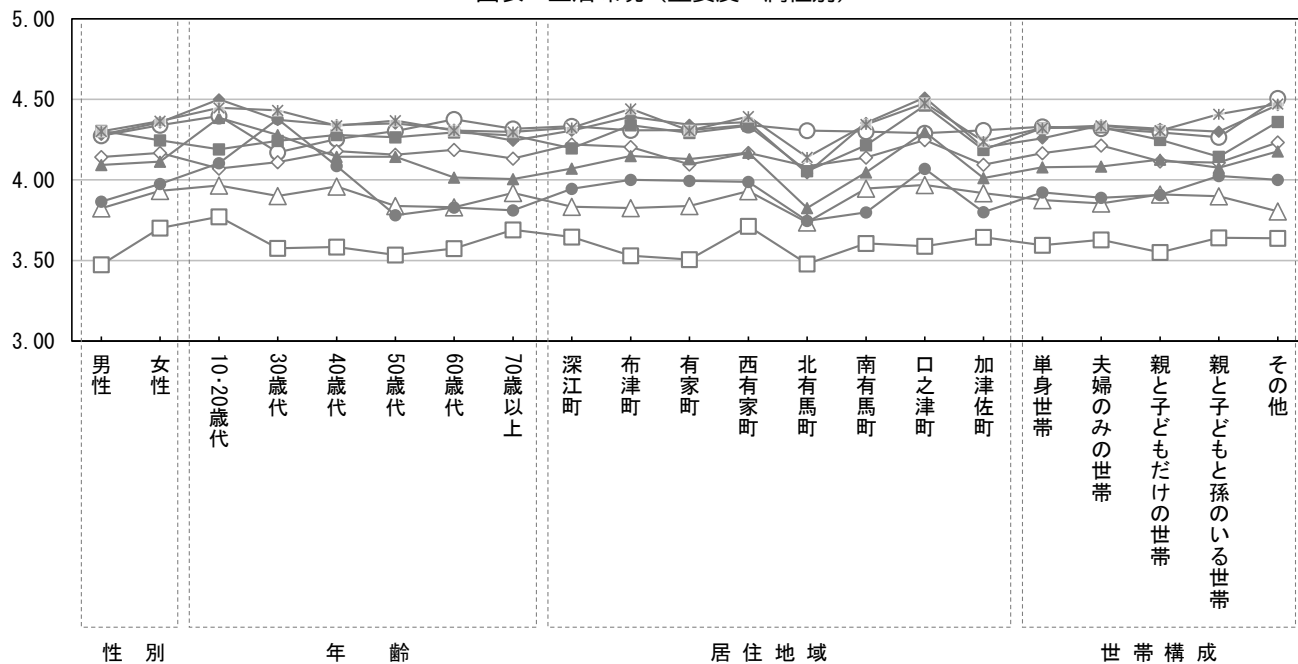


■ 属性別の満足度・重要度

図表 生活環境（満足度：属性別）



図表 生活環境（重要度：属性別）



- 植栽活動によるまちなみ・景観
- △ 自然環境の保全
- ごみの収集・処理、リサイクル活動
- ◇ 不法投棄への対策・地域の環境美化
- 上下水道・生活雑排水施設の整備
- ▲ 住環境の整備
- 公園緑地・子どもの遊び場の整備
- ◆ 災害に強いまちづくり・防災対策
- ✱ 防犯・交通安全など、地域の安全対策

■ 生活環境に関する意見・提案

図表 意見・提案

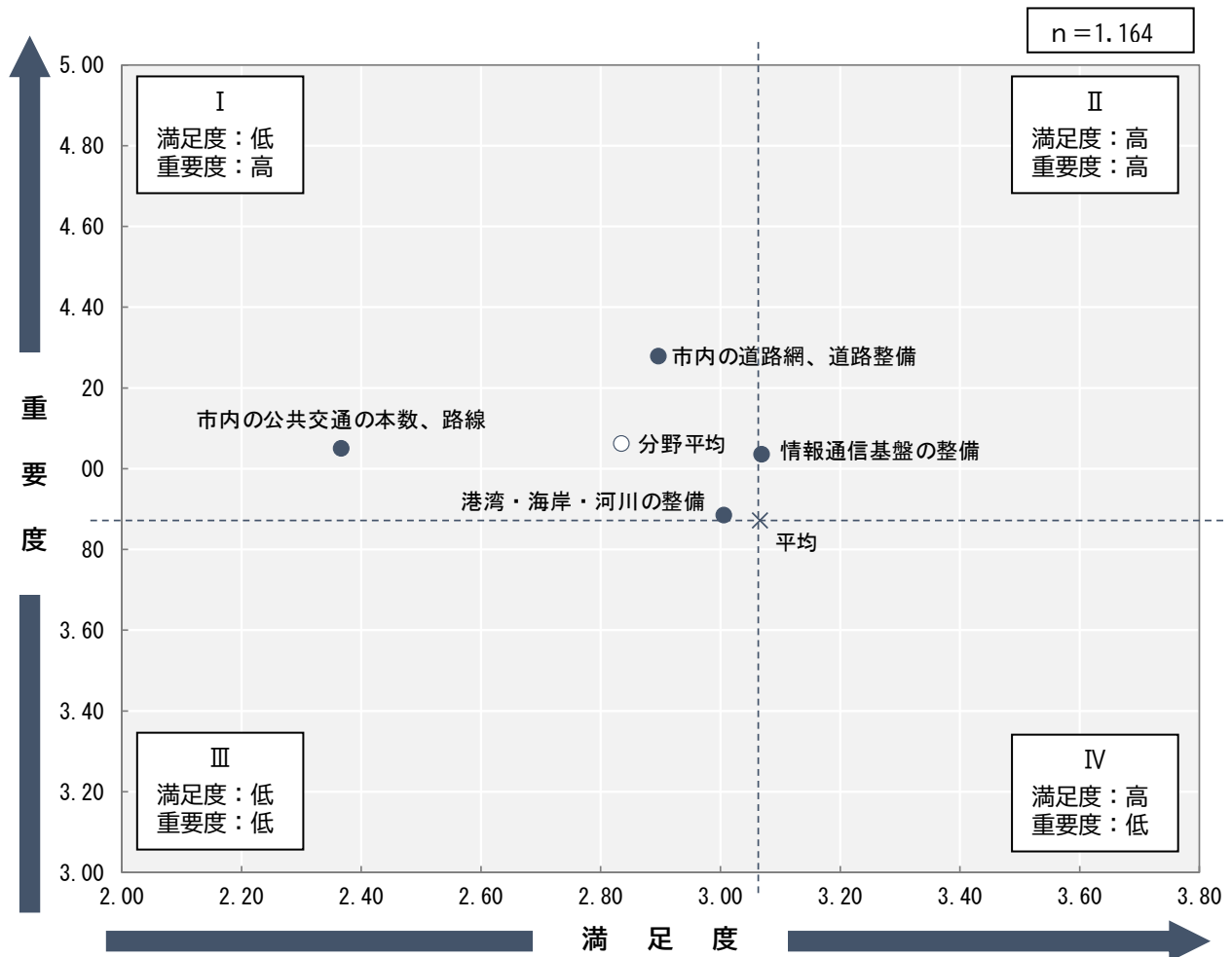
テーマ	主な意見
公園・緑地、景観	・公園に小さい子どもを連れて遊ばせたいが、遊具がひとつもないので考えてほしい。(60 歳代・女性) ・地域の空き地(道路沿い)に花を植えて住み良い環境にできればと思うが、水やり用の水栓がなくうまく栽培できない。(60 歳代・女性) ・河ロ一帯(付近)に河川公園として整備する。防災・憩い・学びの場となりそう。環境美化、景観もよくなる。(60 歳代・男性)
ごみ・不法投棄 環境美化	・不燃ゴミでも、出し方が曖昧なものもあるので、ゴミの出し方や環境活動についてのお知らせや勉強会などがあつたらいいと思います。(50 歳代・女性) ・ゴミを出さず豊かな自然を守ることは今求められている重要なことです。(70 歳以上・男性)
安全対策	・保育・幼稚園、学校周辺に速度 30 キロ以下ゾーンがあれば良いと思う。(30 歳代・女性) ・大雨が降った時に災害にならないように沈砂池をきれいにしたい。(50 歳代・女性) ・海の近くで近所何軒か浸水した。災害を想定して市内の下水・表水などの見直しをしてはどうか。(60 歳代・女性)
空き家対策	・空き家などを利用して人が集まって話せる場を作してほしい。(50 歳代・女性) ・空き家の放置が多く、朽ち果てた空き家があり危険で景観が悪い。(60 歳代・男性)
スマートシティ	・トヨタのウーブン・シティ(スマートシティ)のように企業とタイアップしに都市開発ができれば面白そうだと思う。(40 歳代・男性)

3 基盤整備

■ 基盤整備の満足度・重要度

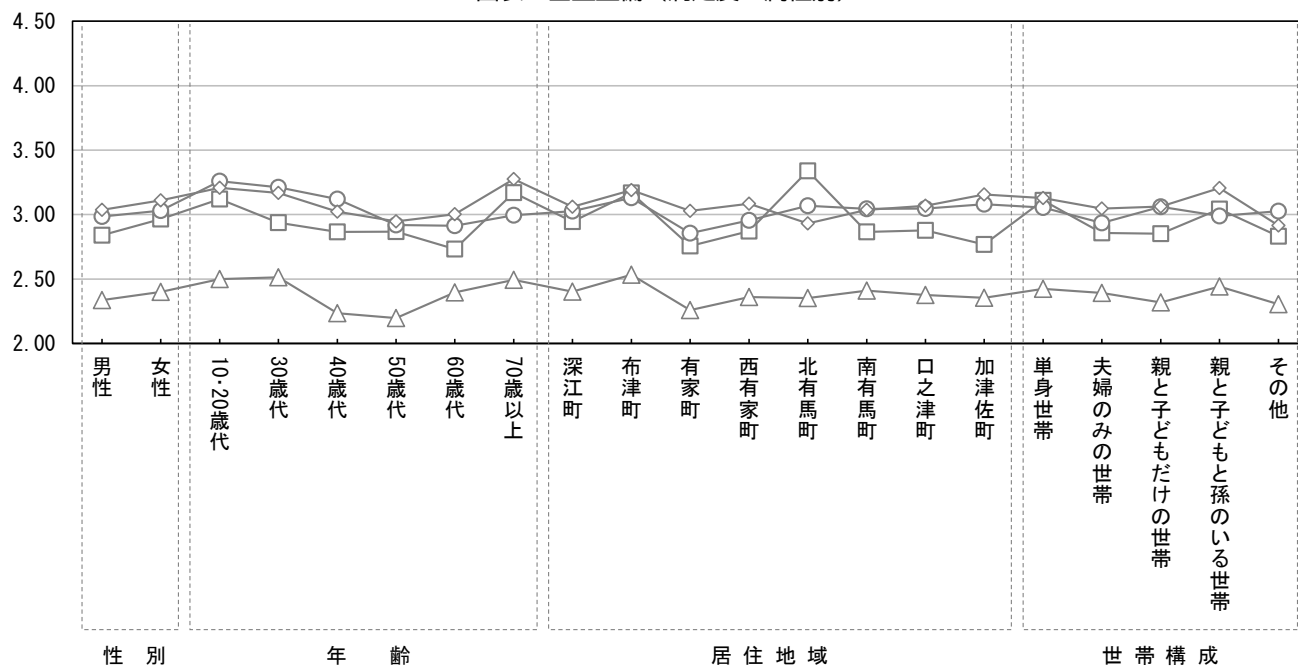
- ◎ 基盤整備の分野は、範囲Ⅰに位置する項目として、「市内の道路網、道路整備」、「市内の公共交通の本数、路線」、「港湾・海岸・河川の整備」が挙がっています。
- ◎ 属性別にみると、「市内の公共交通の本数、路線」は、属性全般（性別問わず全年齢・全地区）で満足度が低く、市域全般の課題とみられます。

図表 基盤整備（満足度・重要度）

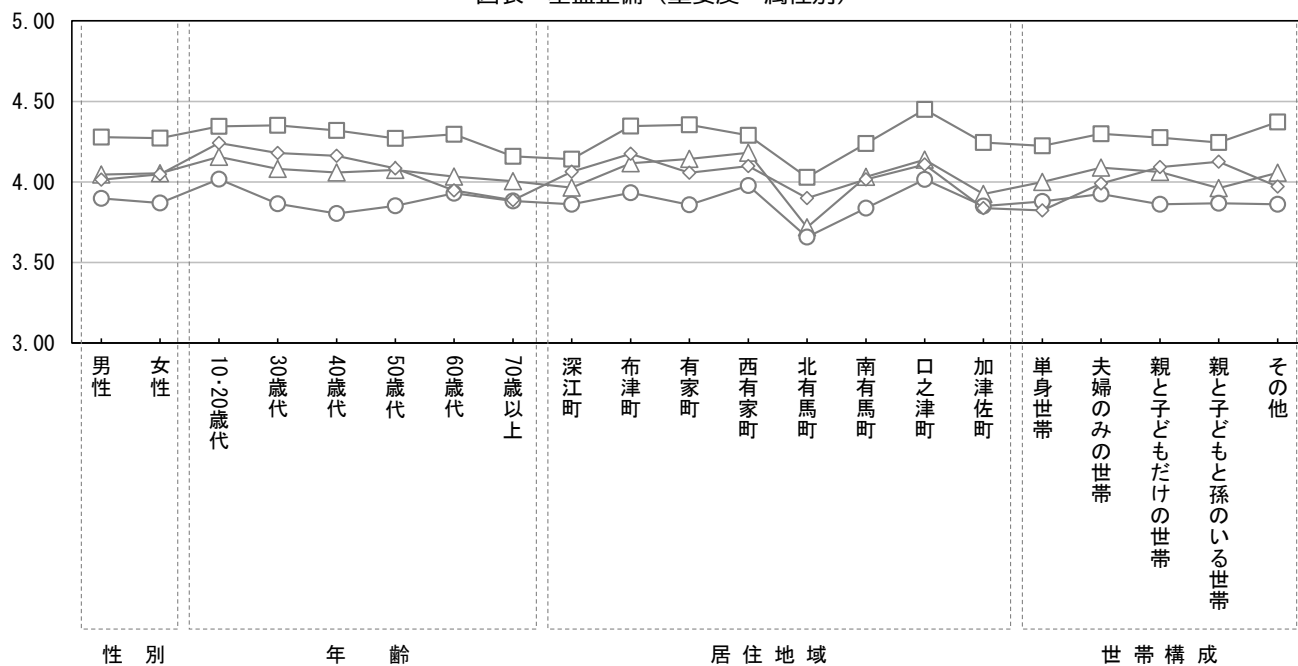


■ 属性別の満足度・重要度

図表 基盤整備（満足度：属性別）



図表 基盤整備（重要度：属性別）



□ 市内の道路網、道路整備 △ 市内の公共交通の本数、路線 ○ 港湾・海岸・河川の整備 ◇ 情報通信基盤の整備

■ 基盤整備に関する意見・提案

図表 意見・提案

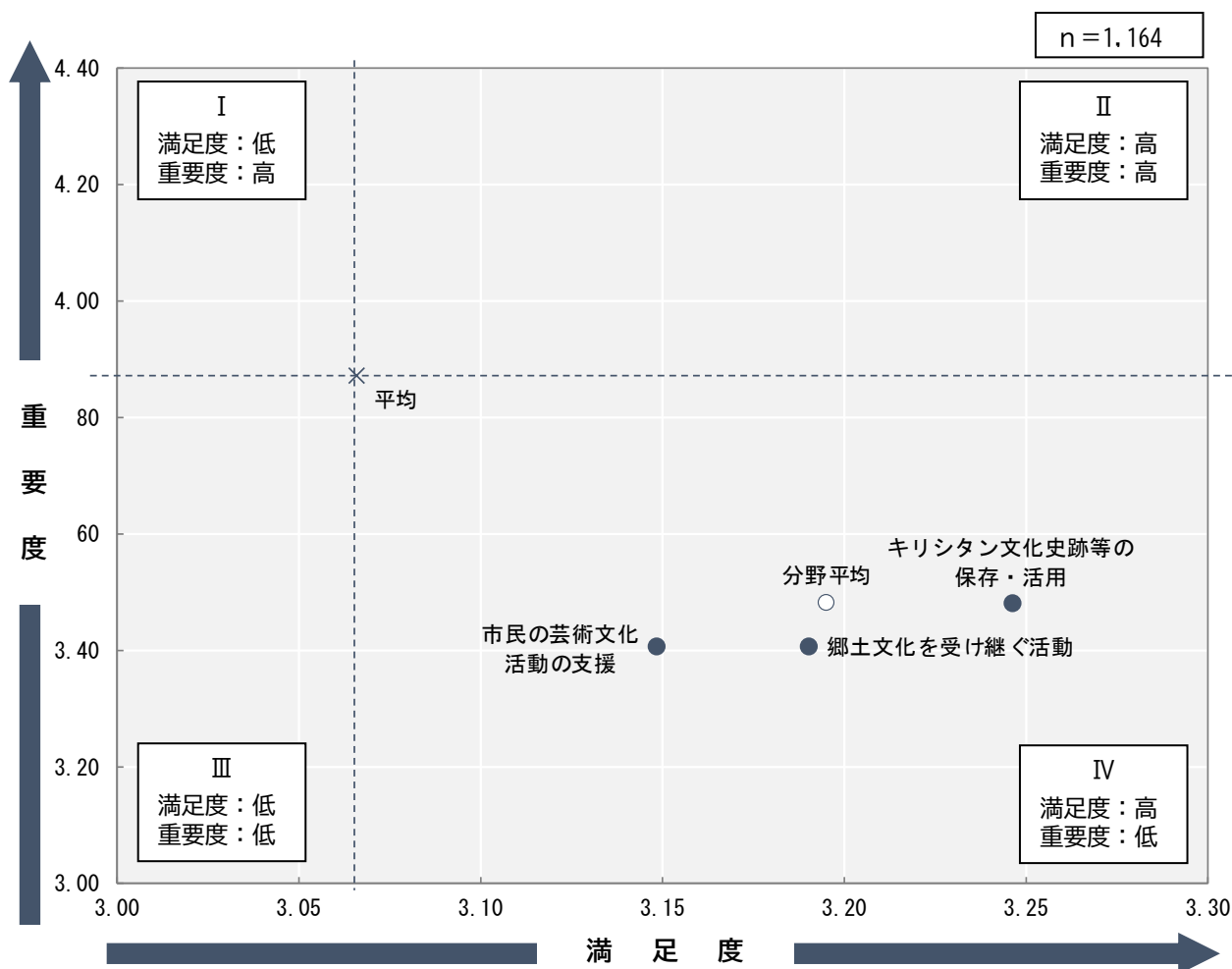
テーマ	主な意見
道路	・交通の便が悪いところで事業を繰り広げるのは困難であるため、島原・天草・長崎連絡道路の早期開通に向けて取り組んでほしい。(10・20 歳代・男性) ・道路を整備し、遠方からの人を呼んで気軽に来られる市になってほしい。(50 歳代・男性) ・救急車両が通れない道路(200m)がある。(60 歳代・男性) ・国道と旧道(狭い市道など)と結ぶ道路を広めてスムーズに行き来できるようにしてほしい。
公共交通	・コミュニティバスなどで良いのでバスの本数が少ない所をまわってほしい。バス停まで遠い家などに何かしらの配慮をしてほしい。(10・20 歳代・女性) ・「チョイソコみなみしまばら」良い取り組みだと思う。できれば電話しなくても時間を決めて送迎する仕組みになれば良い。(50 歳代・女性) ・自治体と病院・商店をつなぐバスを運行する事は地域の活性化にもつながるし、市内は1回乗る度ワンコインになると助かるのではないかな。(60 歳代・女性)
自転車道路 サイクルロード	・自転車道路の供用をできるところから速やかにすべし。(10・20 歳代・男性) ・サイクリングロードの整備はリピーターを増やす工夫を。旧駅舎にお店(食事やお土産)を作ったり、自転車レンタル→乗り捨て(市が回収)→バスで帰れる等。サイクリングロードを作って終わりにしないでほしい。(40 歳代・女性) ・サイクリングロードの整備が進められているが、サイクリングステーションやレンタサイクル、沿線の整備(休憩所・カフェや食事ができる場所、観光案内等)を行って経費を落としてもらう工夫が必要だと思う。(60 歳代・男性)
情報基盤	・通信 FREE 化、Wi-Fi 環境整備。(40 歳代・男性) ・ネット環境に格差が大きい早く整備してほしい。(40 歳代・女性)

4 歴史文化の継承・市民文化の醸成の満足度・重要度

■ 歴史文化の継承・市民文化の醸成の満足度・重要度

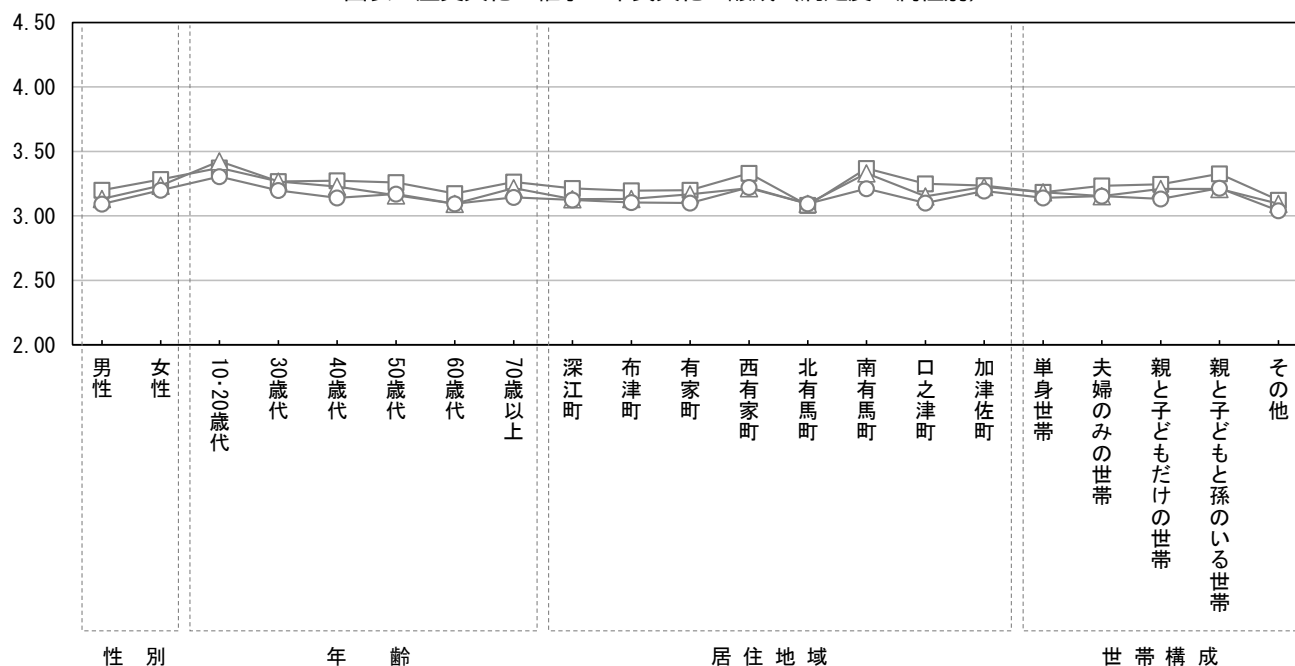
- ◎ 歴史文化の継承・市民文化の醸成の分野では、各項目とも範囲Ⅳに位置しています。
- ◎ 性別、年齢、居住地域、家族構成に関わらず、概ね同様の満足度を表しています。

図表 歴史文化の継承・市民文化の醸成（満足度・重要度）

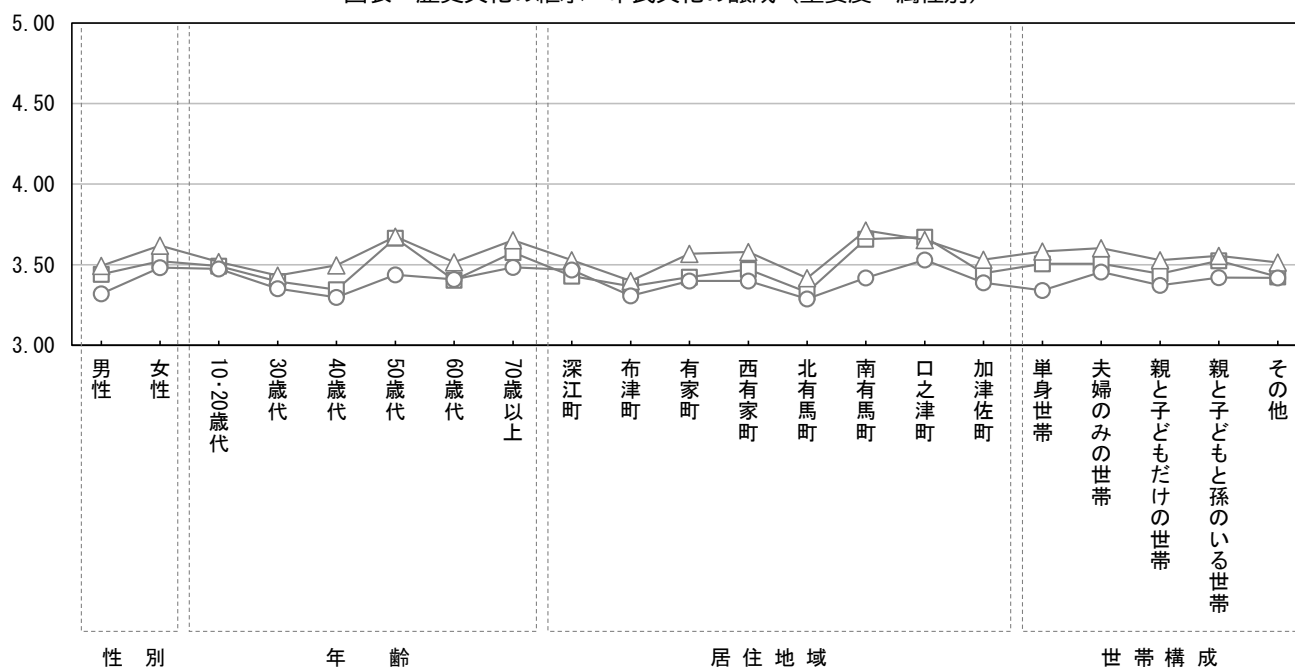


■ 属性別の満足度・重要度

図表 歴史文化の継承・市民文化の醸成（満足度：属性別）



図表 歴史文化の継承・市民文化の醸成（重要度：属性別）



□ キリシタン文化史跡等の保存・活用

△ 郷土文化を受け継ぐ活動

○ 市民の芸術文化活動の支援

■ 歴史文化の継承・市民文化の醸成に関する意見・提案

図表 意見・提案

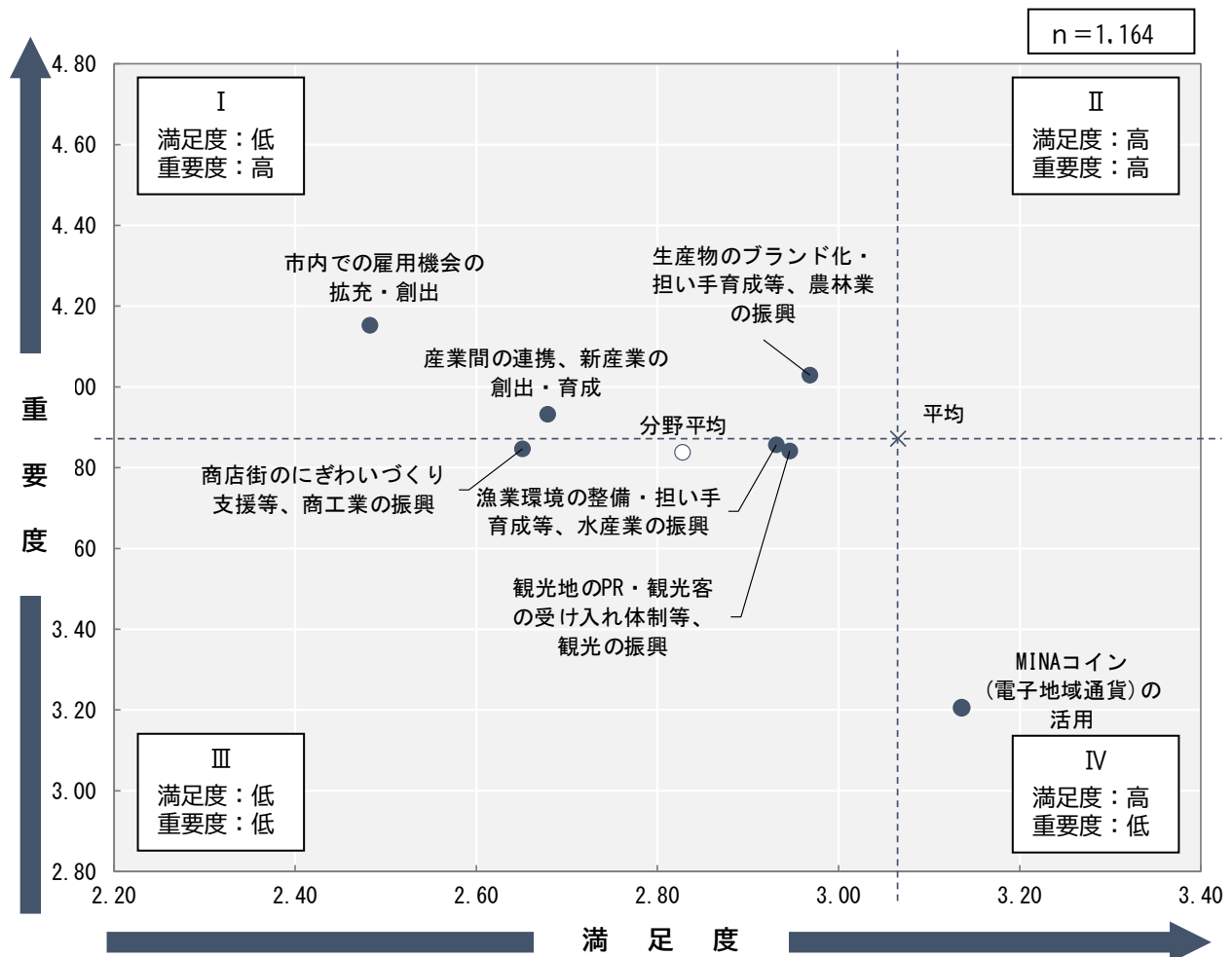
テーマ	主な意見
歴史文化	・雲仙・普賢岳の噴火から 30 年ですが、今の小学生達は知らないんじゃないかと思う。今からの子ども達に知ってもらう為に学校で話の場を設けることや旧大野木場小学校の見学などをするのもいいかと思う。(30 歳代・女性) ・教科書にも載るような歴史的遺産（セミナリヨ跡や日ノ江城原城跡）があるのに、市民はあまり知らないという現状がある。せめて子ども達には南島原市の歴史をしっかりと学んでほしい。(50 歳代・女性) ・南島原市の歴史や文化を知るために、子どもも大人も参加できるような、南島原市検定があると面白い。(50 歳代・女性) ・歴史の掘り起こし（オリエンテーション等に利用できるのでは）。(例) 岩戸山・大智禅師・口之津港（南蛮船）・原城・日野江城・南北朝の動乱期・温泉（うんぜん）神社・深江の武家屋敷通り等々。(60 歳代・男性)
世界遺産	・世界遺産群を活用するのはいいが、ターゲットが少しズレているのでは？全世代ではなく、ゆっくりスローな生活スタイルをされる方をターゲットとすればもう少し来ていただけるのでは？(40 歳代・男性) ・世界遺産原城を南島原の市民に周知してもらう必要がある。子どもが学校で学ぶことを親・祖父母世代が知らないので、まずは南島原市民への観光地としての原城をもっと歴史的視点から PR してほしい。(40 歳代・女性) ・世界遺産や歴史に関して子供が学ぶ機会が増えれば良いと思う。(40 歳代・女性)
芸術・文化	・文化面での活性化（向上）。コンサートや講演会をたくさん身近で経験したい。(50 歳代・男性)

5 地域経済・産業振興の満足度・重要度

■ 地域経済・産業振興の満足度・重要度

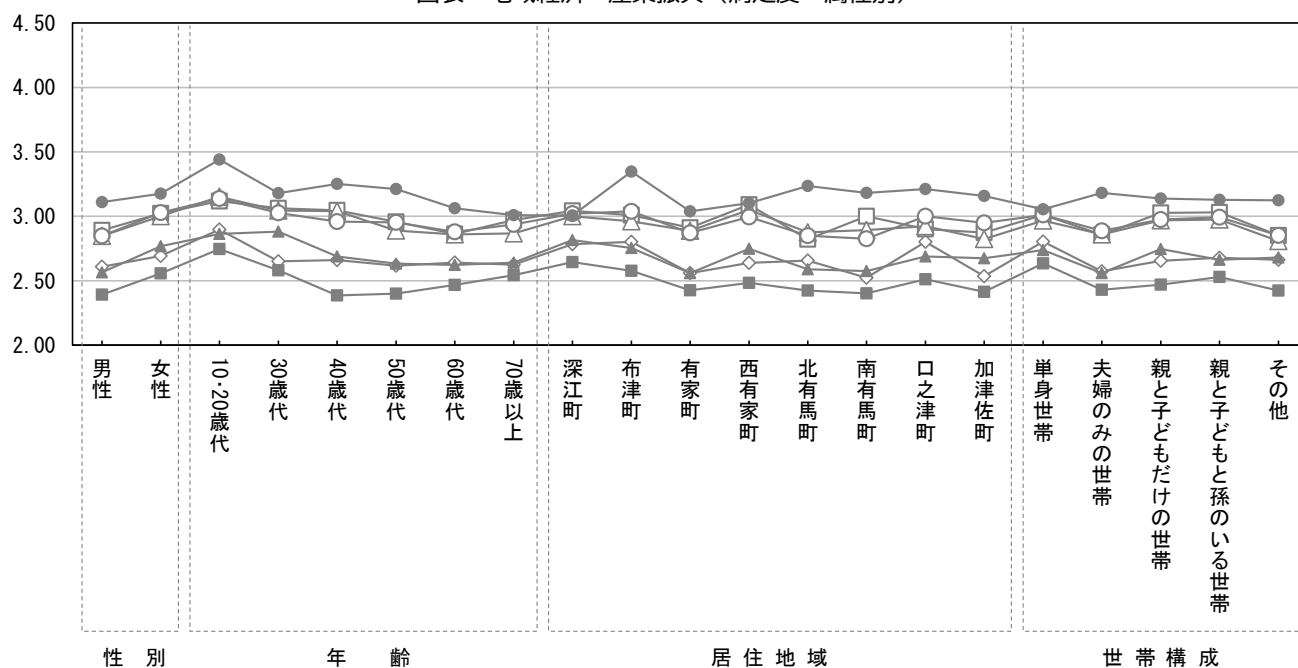
- ◎ 地域経済・産業振興の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「市内での雇用機会の拡充・創出」、「産業間の連携、新産業の創出・育成」、「生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興」が挙げられています。
- ◎ 「市内での雇用機会の拡充・創出」の項目では、年代で見ると40歳代、50歳代、60歳代、地区別で見ると有家町、北有馬町、南有馬町、加津佐町の方が特に低い満足度（2.5点以下）を挙げています。

図表 地域経済・産業振興（満足度・重要度）

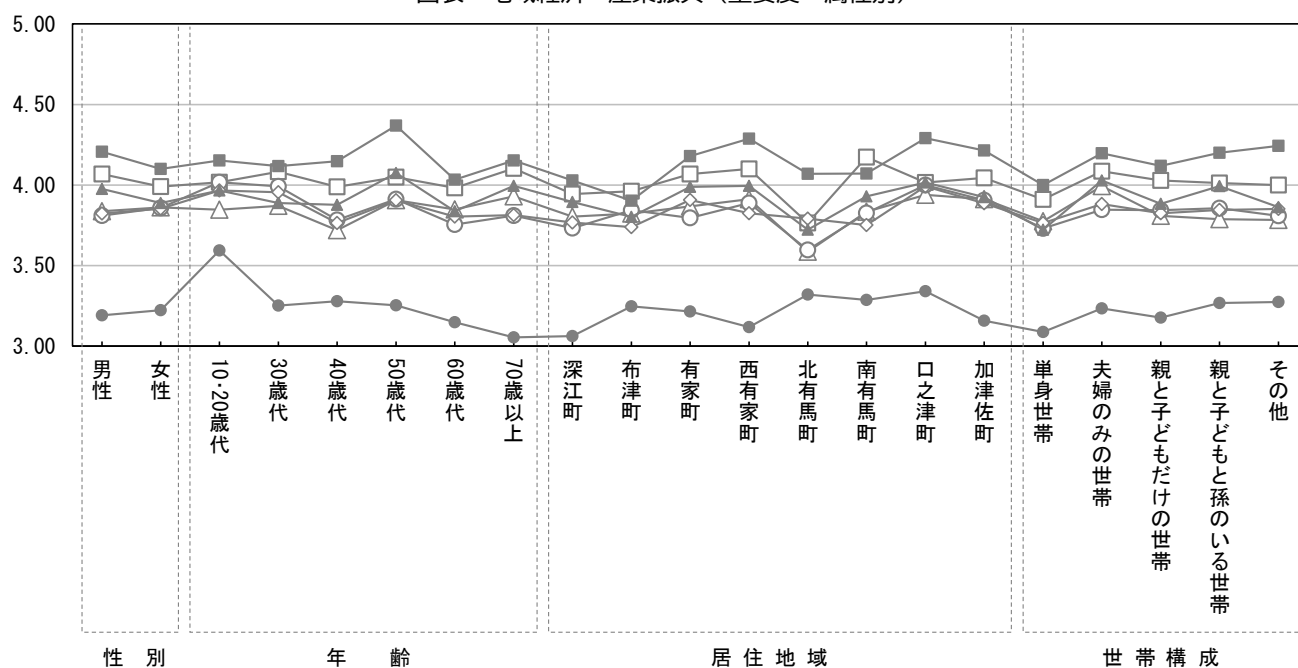


■ 属性別の満足度・重要度

図表 地域経済・産業振興（満足度：属性別）



図表 地域経済・産業振興（重要度：属性別）



- 生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興
- 観光地のPR・観光客の受け入れ体制等、観光の振興
- 市内での雇用機会の拡充・創出
- MINAコイン（電子地域通貨）の活用
- △ 漁業環境の整備・担い手育成等、水産業の振興
- ◇ 商店街のにぎわいづくり支援等、商工業の振興
- ▲ 産業間の連携、新産業の創出・育成

■ 地域経済・産業振興に関する意見・提案

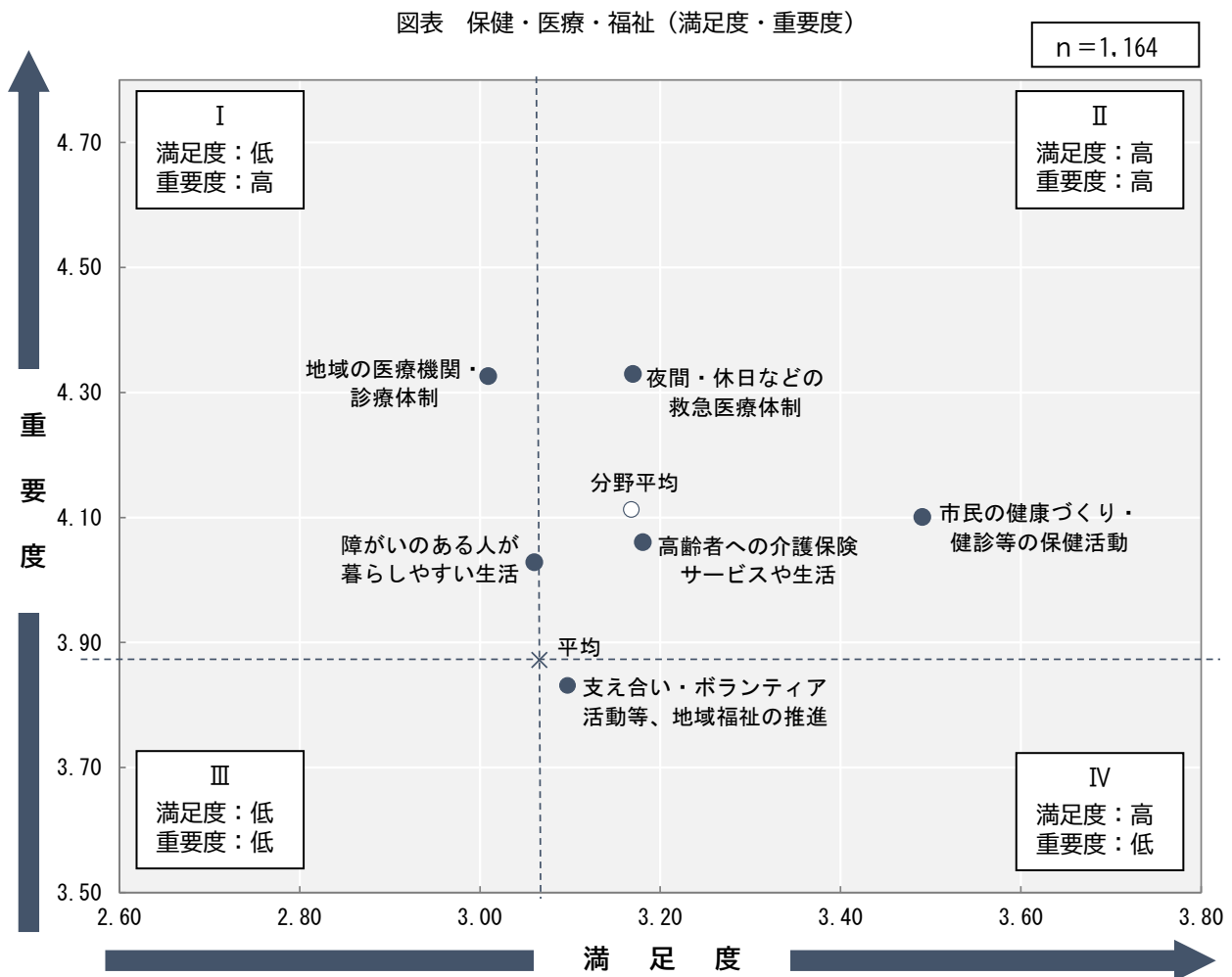
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
市の PR	・とてもおいしい食べ物がたくさんあるのにブランディングがなされていないため、とても残念。(30 歳代・男性) ・地元のいい所、珍しい所をもっとアピールし、地元の人のが作った商品を応援できたらいいと思う。(60 歳代・男性)
農業・水産業	・農業や漁業等への自営業の後継者への支援金制度の拡充。(10・20 歳代・男性) ・農業・漁業などの新規参入者を増やして欲しい。後継者不足の為、地元産で安心安全な食べ物を食べたい。(30 歳代・女性) ・耕作放棄地が年々増えることが予想される。虫や害獣、景観でも良くない。必要とする人に貸す為に手は打てないだろうか。(40 歳代・男性) ・一次産業が主な地域だが、特産品に付加価値を付け出荷すれば、市場に左右されず安定収入が得られるのではないか。(70 歳代・男性)
観光・商業	・個人素麺業への販売のノウハウの研修の場をつくり、個人経営でも消費者と繋がり作る喜びを感じてほしい。(10・20 歳代・男性) ・若者が残るような仕事の確保、豊かな自然環境を活かした民間主導の宿泊施設運営などに補助を行い、観光業の誘致を行う。(50 歳代・男性)
企業誘致・起業・雇用	・ネットワーク環境の整備促進に対する補助を行い、IT 企業の誘致・廃校等の有効利用。(40 歳代・女性) ・アニメーションスタジオやデザイン事務所、または芸術家等を誘致、または地元のクリエイターの養成。(40 歳代・女性) ・労働力不足、パートさんが足りない。ハローワークはあるが、市独自の取り組みはできないか。(60 歳代・女性)

6 保健・医療・福祉の満足度・重要度

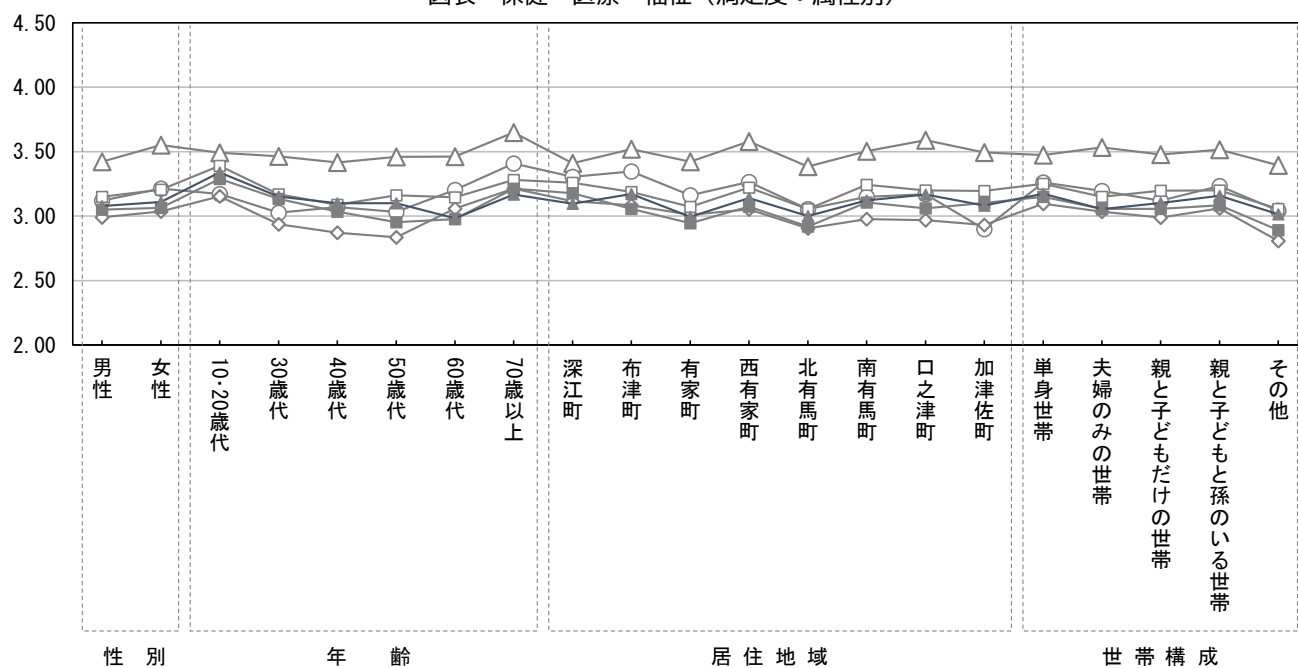
■ 保健・医療・福祉の満足度・重要度

- ◎ 保健・医療・福祉の分野では、相対的に満足度が低く、重要度の高い取り組み（範囲Ⅰ）として、「地域の医療機関・診療体制」、「障がいのある人が暮らしやすい生活」の項目が挙がっています。
- ◎ 「夜間・休日などの救急医療体制」は、市全体としては範囲Ⅱに位置するものの、30歳代、40歳代、50歳代では満足度が3.0点を下回っており、他の世代と比較して特に低くなっています。

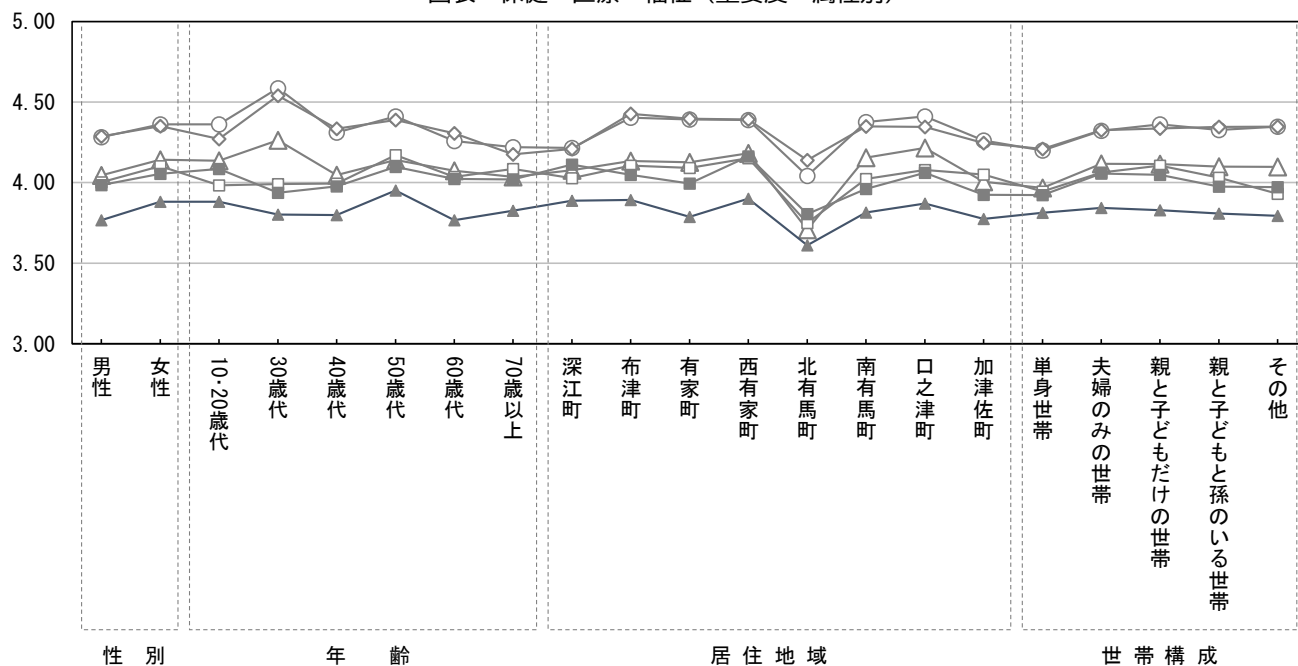


■ 属性別の満足度・重要度

図表 保健・医療・福祉（満足度：属性別）



図表 保健・医療・福祉（重要度：属性別）



- △— 市民の健康づくり・健診等の保健活動
- ◇— 夜間・休日などの救急医療体制
- 障がいのある人が暮らしやすい生活

- 地域の医療機関・診療体制
- 高齢者への介護保険サービスや生活
- ▲— 支え合い・ボランティア活動等、地域福祉の推進

■ 保健・医療・福祉に関する意見・提案

図表 意見・提案

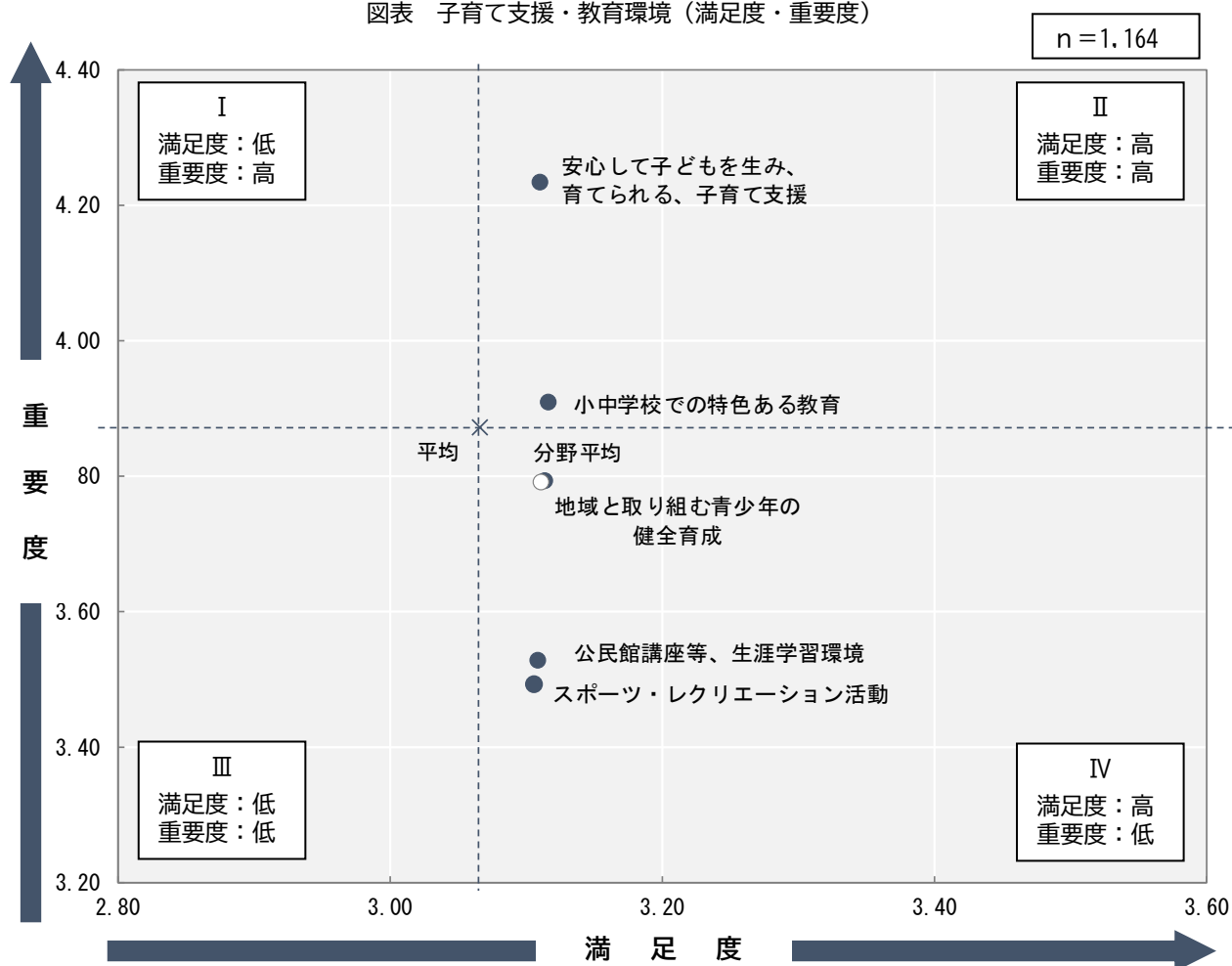
テーマ	主な意見
医療	・年齢に関係なく病院にかかるとき、診察はすぐ終わるのに待ち時間が長い。少しでも改善してもらえたらと思う。(30 歳代・男性) ・自分で病院を探して受診するのではなく、所見してどの専門医療機関に行ったらいいか教えてもらえる所をつくってほしい。(50 歳代・男性)
健康づくり	・地域での健康教室などを実施し、より健康で長生きできるまちづくりを行ってほしい。(10・20 歳代・女性) ・アプリを作り歩行数をまとめてミナコインを景品として出す。企業から参加してもらい、商品を出すのも良い。(60 歳代・女性) ・自分の健康を自分で守る。そのような考えを小児期から育ててほしい。(70 歳以上・女性)
移動手段	・高齢者が免許（運転）証を返納した後、生活の基盤が崩れる。何かしらのサポートが必要。(40 歳代・女性) ・高齢者、免許のない人等の交通手段をさらに取り組んでほしい。タクシーを負担が少ない範囲で利用できるような方法を考えてほしい。(70 歳以上・男性)
高齢者	・高齢者、その家族がより利用しやすい、わかりやすい方法などを各事業所だけに任せたりせず、行政が積極的にもっと関わると良い。(40 歳代・女性) ・孤独死など、ひとり暮らし家庭をどうしたらいいか？改善策は？(60 歳代・男性)
その他	・あらゆる世代に生きる人がその時必要と思う、保健・福祉・医療を適切に受けられるようにと思う。健康推進以外の活動など、どのような事をされているのか分かりやすければ良いと思う。(60 歳代・女性)

7 子育て支援・教育環境の満足度・重要度

■ 子育て支援・教育環境の満足度・重要度

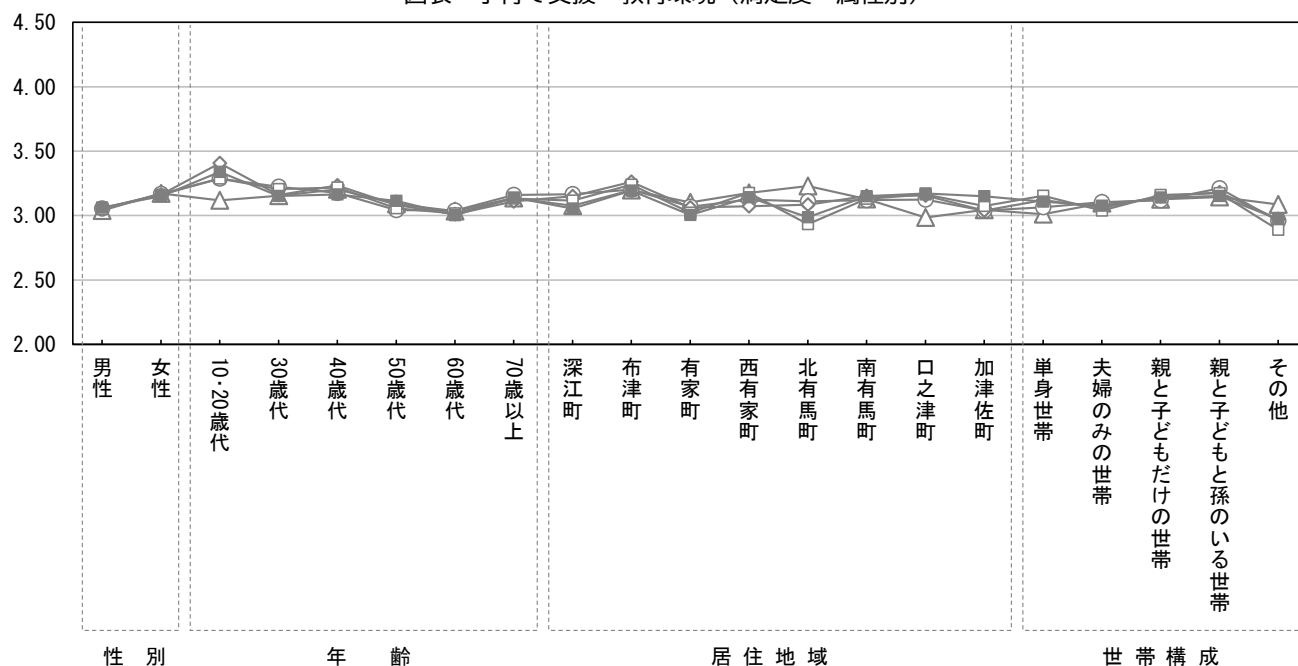
- ◎ 子育て支援・教育環境の分野では、範囲Ⅰに位置する施策はなく、一般的に満足度が高い範囲である範囲Ⅱ・Ⅳに位置しています。
- ◎ 属性別にみると、性別、年齢、居住地域、家族構成ともに、概ね同様の満足度を表しています。

図表 子育て支援・教育環境（満足度・重要度）

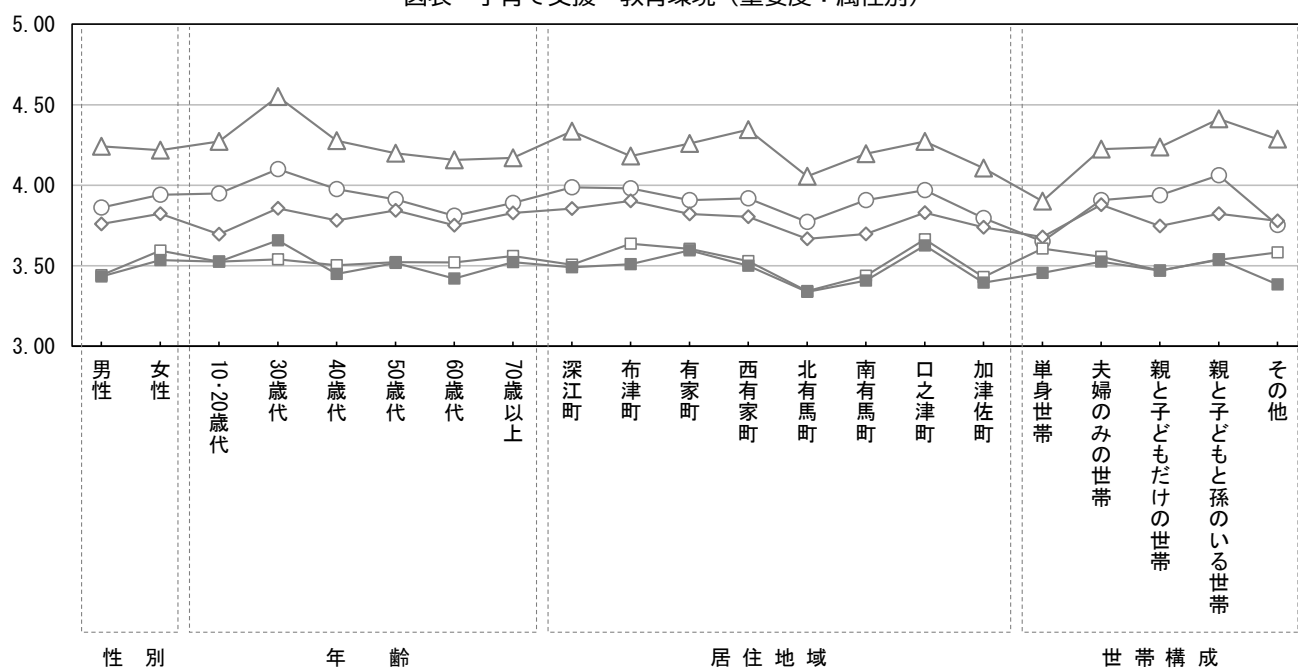


■ 属性別の満足度・重要度

図表 子育て支援・教育環境（満足度：属性別）



図表 子育て支援・教育環境（重要度：属性別）



—△— 安心して子どもを生み、育てられる、子育て支援

—○— 小中学校での特色ある教育

—◇— 地域と取り組む青少年の健全育成

—□— 公民館講座等、生涯学習環境

—■— スポーツ・レクリエーション活動

■ 子育て支援・教育環境に関する意見・提案

図表 意見・提案

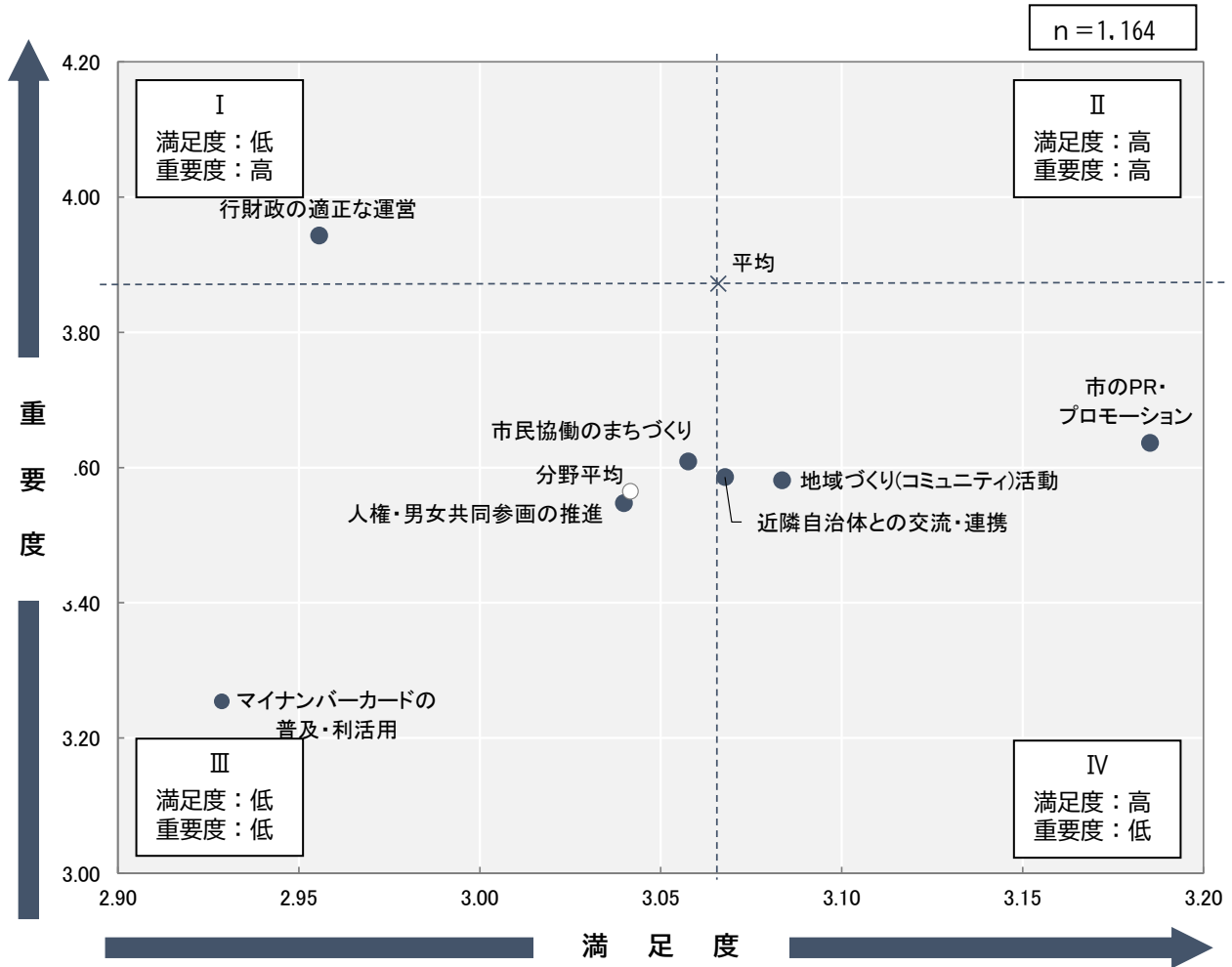
テーマ	主な意見
子育て	・子育て支援の充実（オムツ２年間無料、１人親に対する子育て必需品の宅配化、高校生までの医療費無料化）（１０・２０歳代男性） ・高校生のバス通学を免除してほしい。（３０歳代・女性） ・小、中、高校生の医療費の現物給付。（３０歳代・女性） ・半島内では不妊治療専門の病院がなく、目的の病院に行くまでにお金がかかるため、交通費が出るようにするなどの対策をしてほしい。（３０歳代・女性） ・寺子屋のような、地域全体で子育てをする機会を増やしてほしい。（３０歳代・女性） ・子どもが緊急で受診したい場合の受診先がわからない。夜間や緊急の受診対応してもらえる機関があれば安心できる（３０歳代・女性）
学校教育	・地元の子どもたち、高校生たちにスタートアップやベンチャーなどの仕事を”創る”教育を行い、地元を地盤としたビジネスチャンスを創造させるのが良いのではない。（４０歳代・女性） ・小さな時から命の大切さなど教育を充実させてもらいたい。（５０歳代・女性） ・不登校の児童生徒をなくす。フリースクールを充実させる。（６０歳代・女性）
生涯学習	・もっと自然に触れさせて良いのではない？ケガ等のリスクある事も自然と共に学ばせて良いのではない。（１０・２０歳代・女性） ・今、デジタル化といろいろ言われていますが、高齢者にはまだまだ難しい所がたくさんあると思うので、講習会など増やしてほしい。（３０歳代・男性） ・プログラミング等、先のことを考えて新しいスキルを子ども達が身につけられるよう、市で講座等設け、子ども達の能力を伸ばして欲しい。（６０歳代・女性） ・文化祭があるのはとっても良い。見ていて楽しい。（７０歳以上・女性）
スポーツ活動	・市内中学校では生徒数減少により、部員不足の部活動が急増している。学校に任せるのではなく、まずは市が中心となったスポーツクラブを創設してほしい。（４０歳代・男性） ・児童の部活等の指導者確保に努めてもらいたい。（６０歳代・女性）

8 協働のまちづくり・行財政運営の満足度・重要度

■ 協働のまちづくり・行財政運営の満足度・重要度

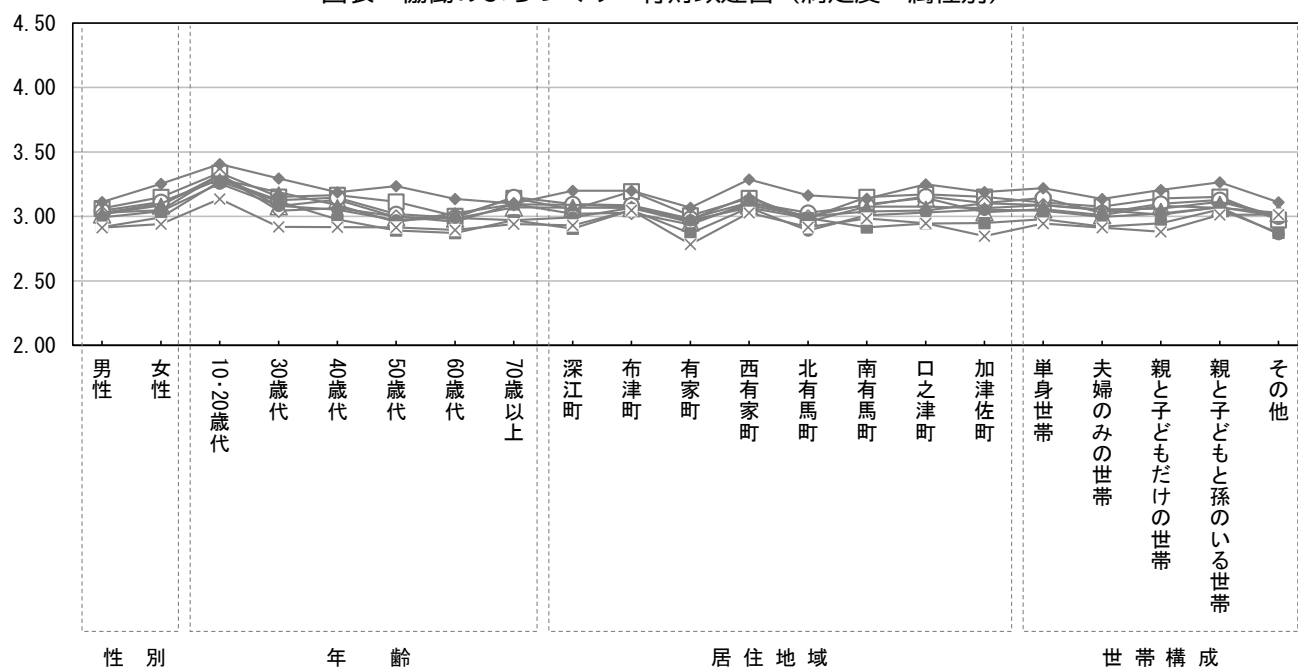
- ◎ 協働のまちづくり・行財政運営の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「行財政の適正な運営」が挙がっています。それ以外の取組は、重要度が低い範囲Ⅲ・Ⅳに位置しています。
- ◎ 性別、年齢、居住地域、家族構成に関わらず、概ね同様の満足度となっています。
- ◎ 「マイナンバーカードの普及・利活用について」は、年齢層や地区によって重要度が異なっており、施策への理解を図る必要があると考えられます。

図表 協働のまちづくり・行財政運営（満足度・重要度）

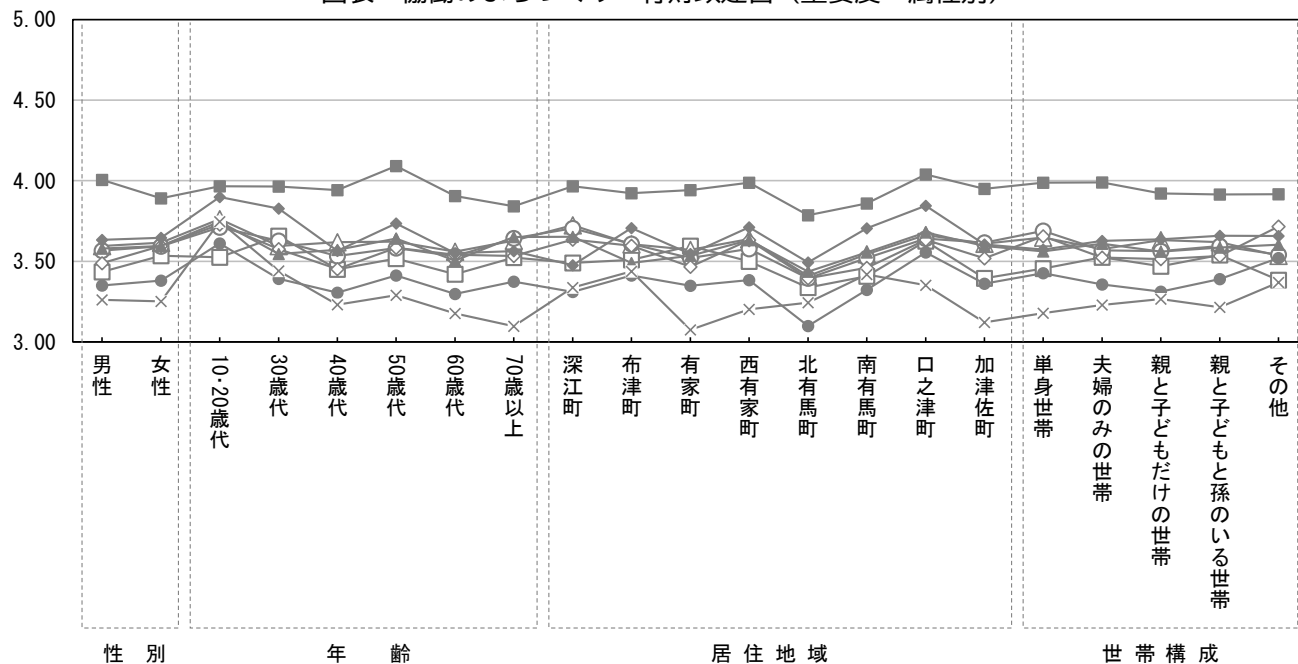


■ 属性別の満足度・重要度

図表 協働のまちづくり・行財政運営（満足度：属性別）



図表 協働のまちづくり・行財政運営（重要度：属性別）



□ スポーツ・レクリエーション活動

△ 市民協働のまちづくり

○ 地域づくり(コミュニティ)活動

◇ 人権・男女共同参画の推進

■ 行財政の適正な運営

▲ 近隣自治体との交流・連携

● 国際交流・国内の地域間交流

◆ 市のPR・プロモーション

× マイナンバーカードの普及・利活用

■ 協働のまちづくり・行財政運営に関する意見・提案

図表 意見・提案

テーマ	主な意見
広聴機会	・市民が専門的に取り組んでいる分野ごとに少人数を公募(応募多数の場合は抽選)で集め、市長と軽食を取りながらの懇談会を定期的に開くと、より開かれた意見が出ると思う。(10・20 歳代・女性) ・若者の意見を聞くイベント開催。将来の南島原市に対して意見を聞くイベントを企画する。(60 歳・男性)
自治会活動	・人間関係が稀薄になってきている現状を、より良き方向に向けるため、自治会の活動をより活性化するための行財政支援をしてほしい。(60 歳代・女性)
公共施設の有効活用	・日曜・雨天時の子どもが遊べる場所(廃校利用等)。(60 歳代・女性)
窓口対応	・各町に支所があるので、その各支所ですべてのことができれば便利。曜日を決めて、19 時くらいまで窓口で手続きができれば良い。(10・20 歳代・女性) ・病院など行くときに使えるよう、公用車をレンタルする。(50 歳代・男性) ・市の人口も高齢化が進み、窓口での手続きも困難となる人も多い。高齢者向けの文字の大きい説明書や記入方法も必要。(70 歳以上・男性)
デジタル化	・デジタル化が進み高齢者が対応できず不安を感じる。特に独居の方、電話や訪問しでの支援などであればありがたい。(40 歳代・女性) ・各種手続きがお知らせの(個人あて)の中に QR コードを入れてもらって、スマホやパソコンでできるようにしてほしい。(50 歳代・女性) ・マイナンバー登録したが住民票等書類を交付を早くコンビニで実施してほしい。(50 歳代・男性)

II 基礎調查結果

Ⅱ 基礎調査結果

Ⅱ-1 人口推移

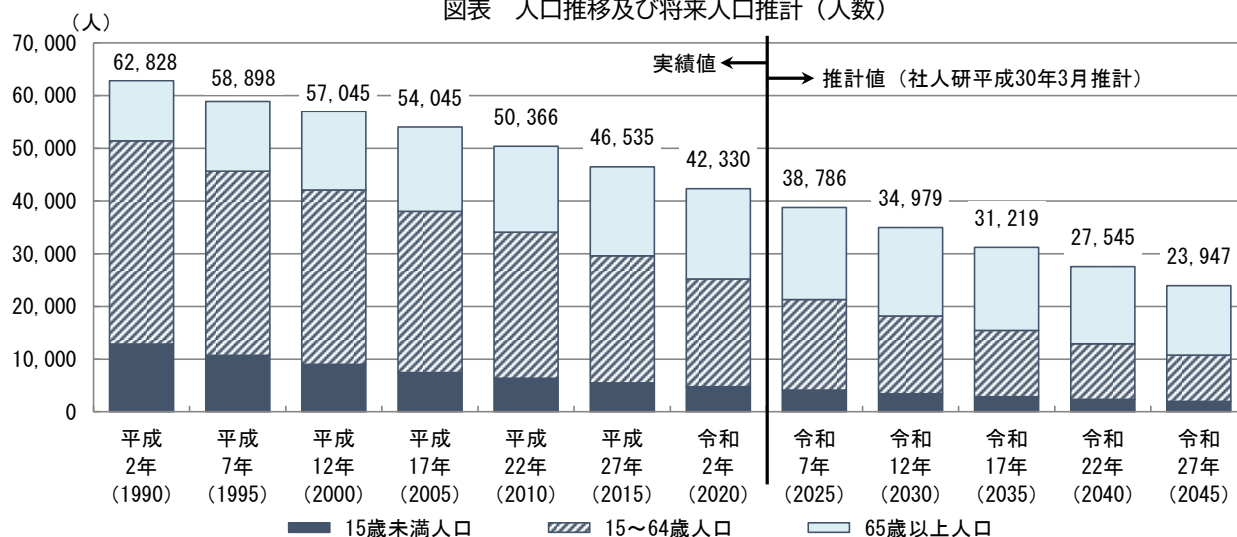
1 人口

■ 人口及び将来人口推計の推移

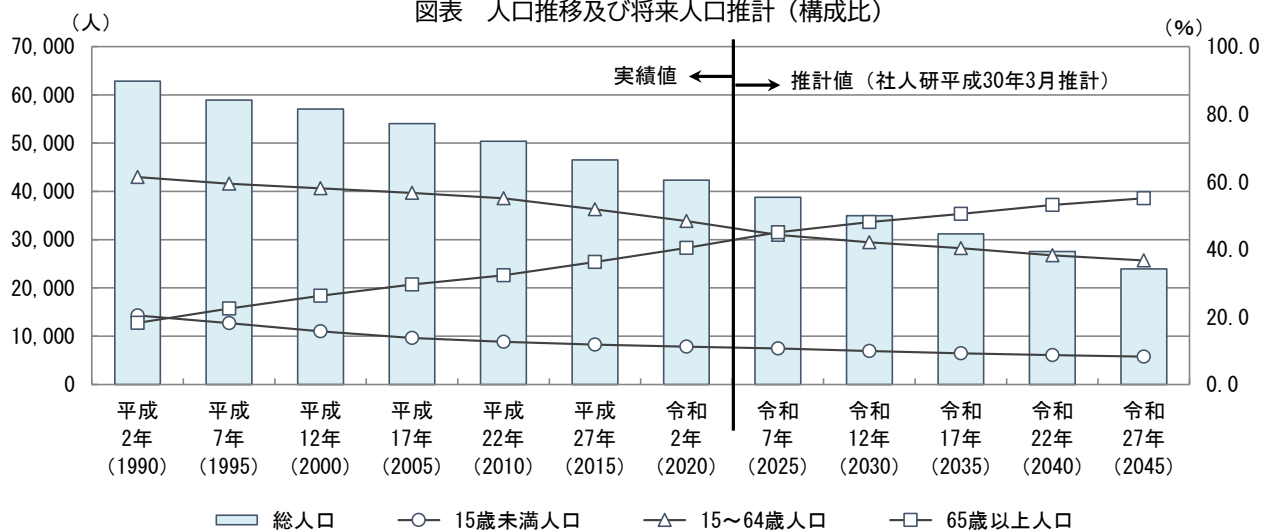
◎ 少子高齢化とともに、各地区で人口減少が進行しています。

- ・各地区で人口減少傾向がみられるほか、少子高齢化が進んでおり、国勢調査による令和2年の総人口は42,330人でした。
- ・平成2年（1990）を100とした場合の推移からも高齢化率の増加推移がみられ、将来推計では令和7年には15～64歳の人口割合を上回るとみられます。

図表 人口推移及び将来人口推計（人数）



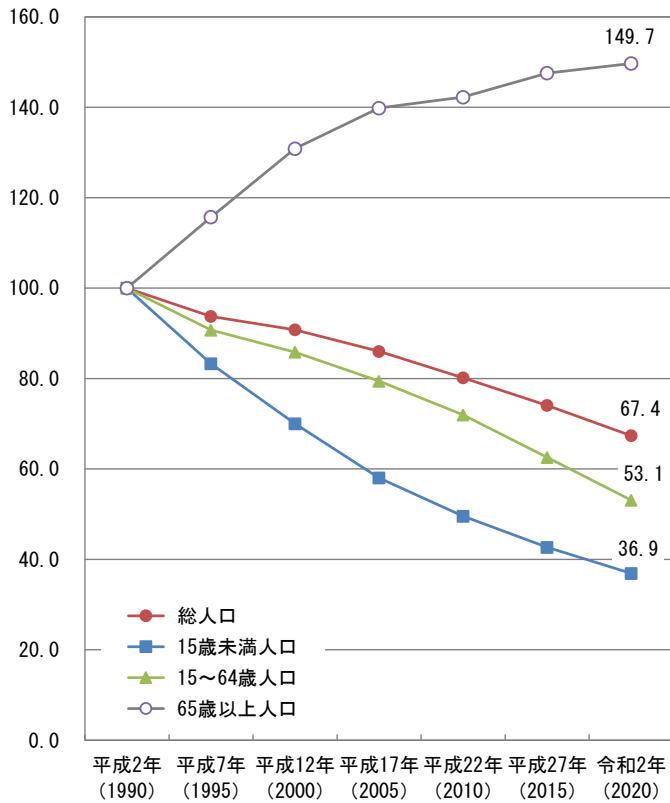
図表 人口推移及び将来人口推計（構成比）



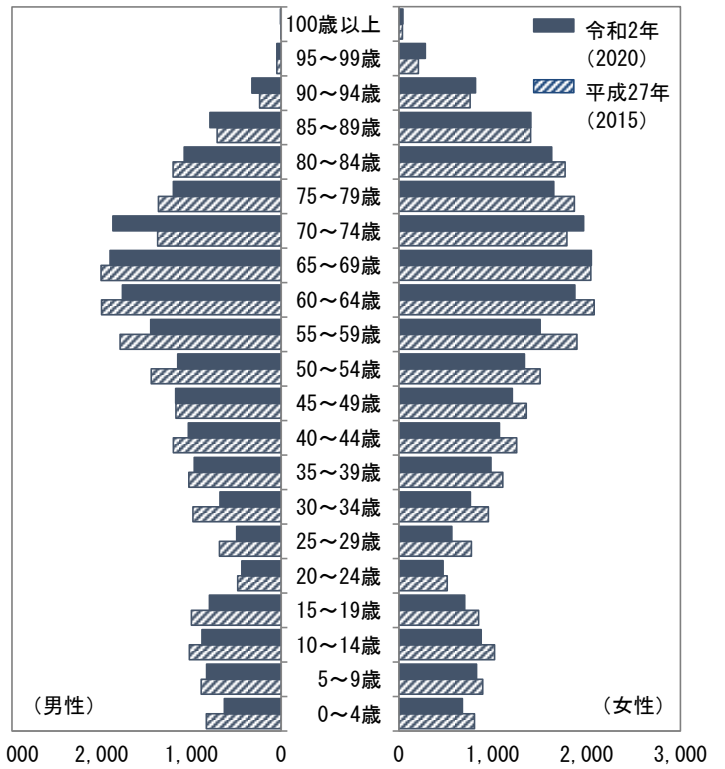
※平成2年～令和2年は国勢調査人口（総人口は年齢不詳を含みます）

資料 平成2年～令和2年国勢調査・令和7年以降社人研平成30年3月推計

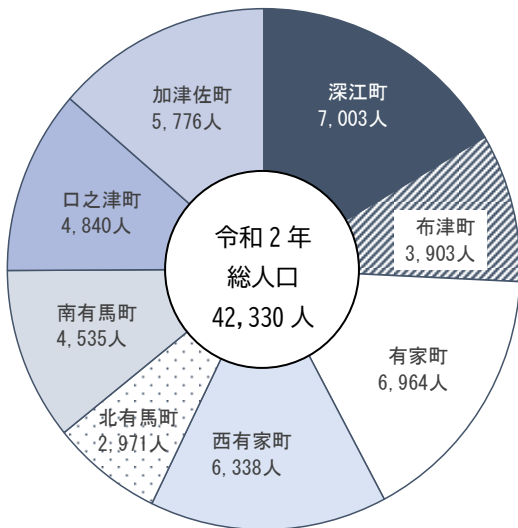
図表 平成2年（1990）を100とした場合の
年齢3区分別人口推移



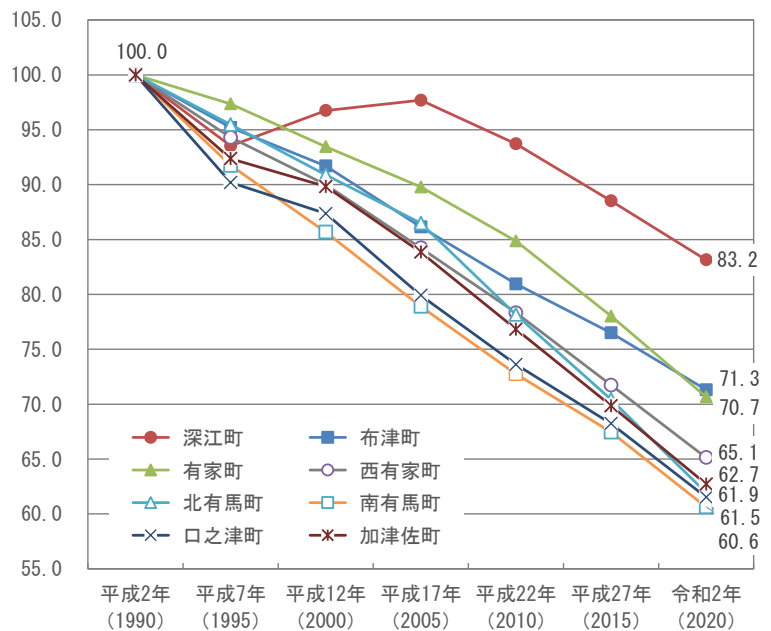
図表 年齢5歳階級別人口推移
(人口ピラミッド)



図表 地区別人口の内訳



図表 平成2年（1990）を100とした場合の人口推移



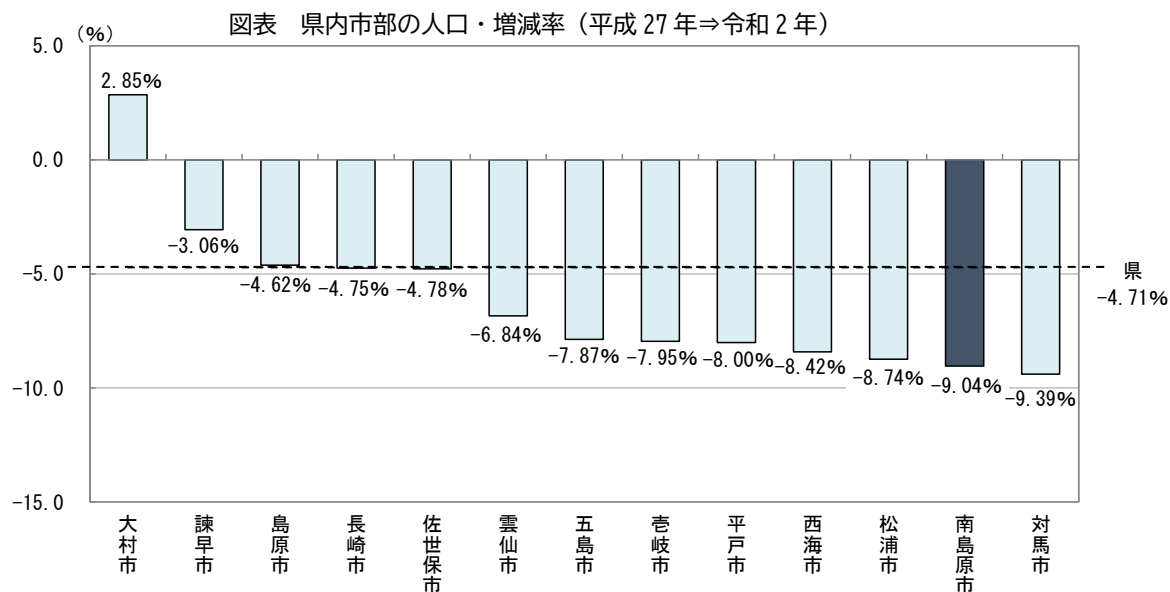
資料 平成2年～令和2年国勢調査

2 人口増減率

■ 県内市部の人口

◎ 市の人口減少率は-9.04%。県内市部（本土部）では最も減少率が高くなっています。

- ・南島原市の人口減少率は、平成22年～平成27年では-7.60%（-3,828人）でしたが、平成27年～令和2年には-9.04%（-4,205人）となっており、人口減少が加速しています。
- ・平成27年～令和2年の県内市部との比較では、増減率は13市内で12位、本土部では最も減少率が高くなっています。



図表 県内市部の人口・増減率
(平成22年⇒平成27年・平成27年⇒令和2年：上位順)

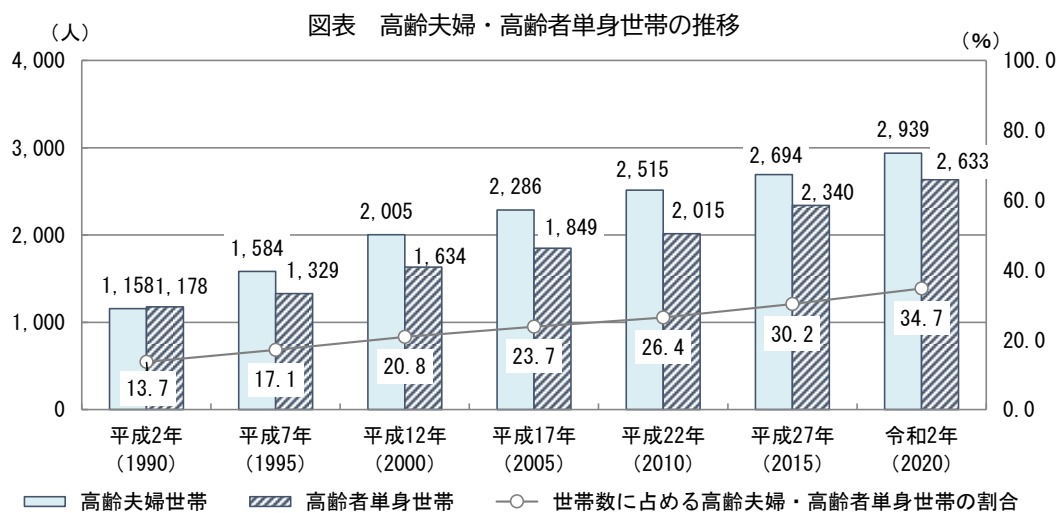
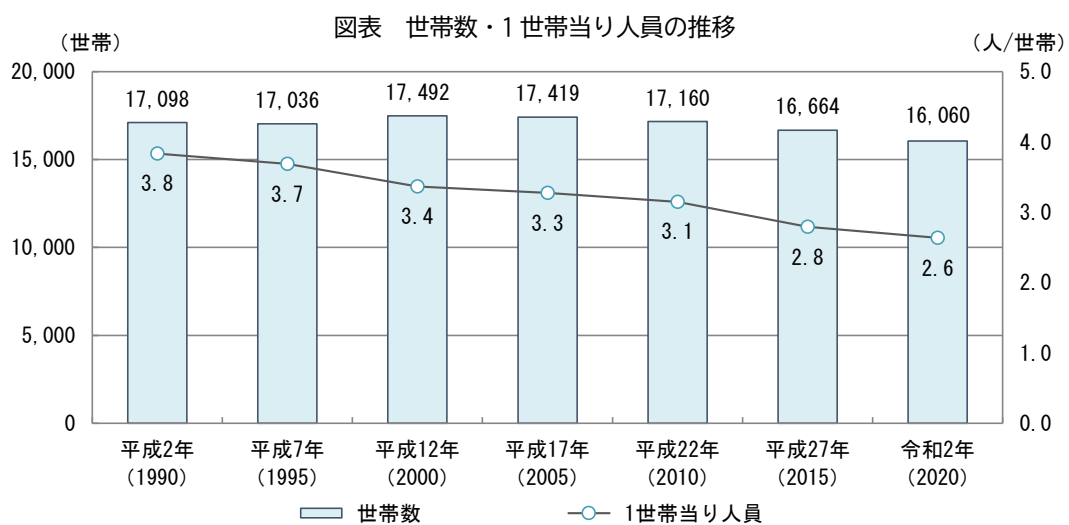
平成22年～平成27年			平成27年～令和2年		
県・市名	平成27年人口	人口増減率	県・市名	令和2年人口	人口増減率
長崎県	1,377,187人	-3.48%	長崎県	1,312,317人	-4.71%
大村市	92,757人	2.47%	大村市	95,397人	2.85%
諫早市	138,078人	-1.90%	諫早市	133,852人	-3.06%
佐世保市	255,439人	-2.17%	島原市	43,338人	-4.62%
長崎市	429,508人	-3.21%	長崎市	409,118人	-4.75%
島原市	45,436人	-4.25%	佐世保市	243,223人	-4.78%
雲仙市	44,115人	-6.63%	雲仙市	41,096人	-6.84%
松浦市	23,309人	-7.30%	五島市	34,391人	-7.87%
南島原市	46,535人	-7.60%	壱岐市	24,948人	-7.95%
壱岐市	27,103人	-7.74%	平戸市	29,365人	-8.00%
西海市	28,691人	-7.97%	西海市	26,275人	-8.42%
五島市	37,327人	-8.11%	松浦市	21,271人	-8.74%
平戸市	31,920人	-8.55%	南島原市	42,330人	-9.04%
対馬市	31,457人	-8.57%	対馬市	28,502人	-9.39%

資料 平成27年・令和2年国勢調査

3 世帯数

■ 世帯数の推移

- ◎ 平成12年以降は世帯数が減少、1世帯当り人員も減少しています。
- ◎ 高齢夫婦世帯数・高齢者の単身世帯が増加しており、高齢化の進行がうかがえます。
 - ・ 国勢調査による令和2年の世帯数は16,060世帯であり、1世帯当たり人員は2.6人となっています。
 - ・ 令和2年の高齢夫婦世帯数は2,939世帯・高齢者の単身世帯は2,633世帯となっており、世帯数が減少する一方で高齢世帯の増加がみられ、世帯数に占める高齢夫婦・高齢者単身世帯の割合は、34.7%となっています。



資料 令和2年国勢調査

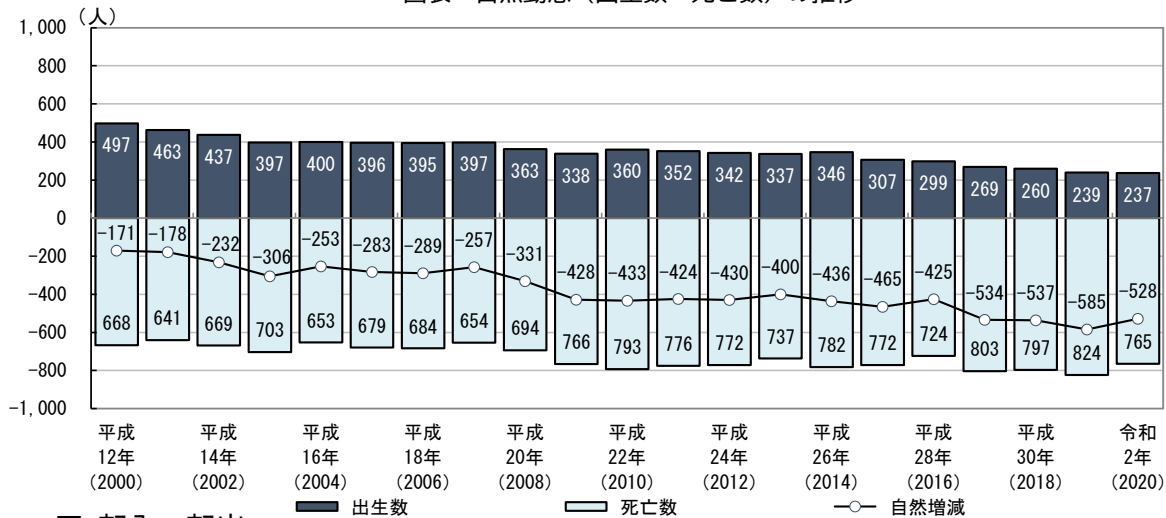
Ⅱ-2 人口移動状況

1 自然動態・社会動態

■ 出生・死亡

- ◎ 平成12年以降、死亡数が出生数を上回る推移となっており、減少数が増加しています。
- ・出生数・死亡数の推移は、平成12～20年の自然増減（出生数-死亡数）が200～300人の減であったのに対し、令和2年の自然増減は528人の減となっており、出生数の減少により減少数の増加が加速しています。

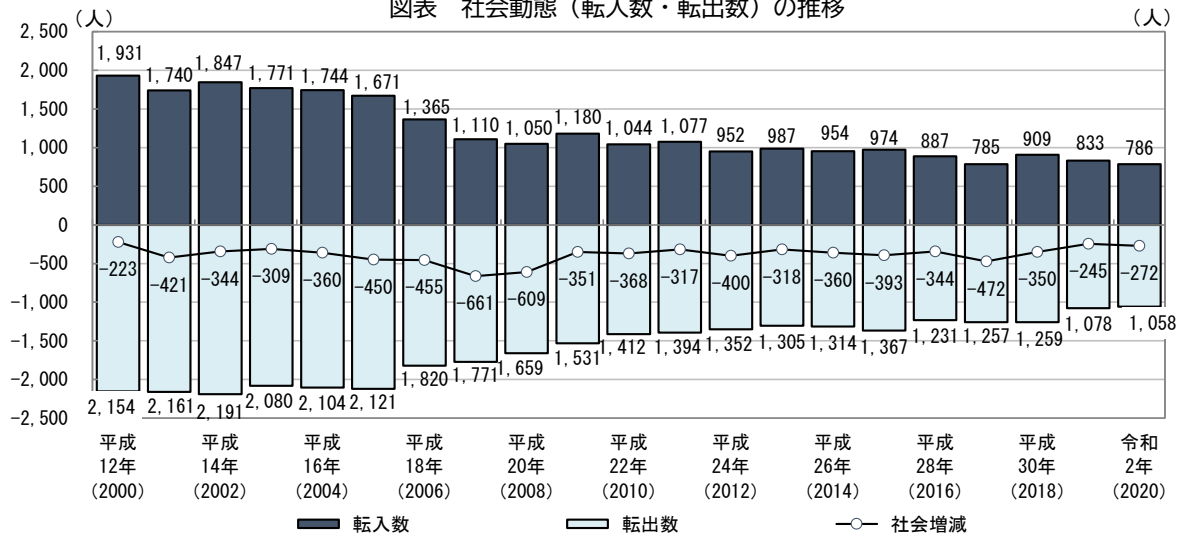
図表 自然動態（出生数・死亡数）の推移



■ 転入・転出

- ◎ 転入・転出による人口移動は減少傾向がみられます。
- ・平成12年以降の推移をみると、転入・転出による人口移動（社会増減）は、各年で増減がみられますが、平成22年以降は概ね300～400人程度で推移しています。
 - ・転入、転出数は減少傾向にあり、社会増減に大幅な変化ありませんが、移動の規模は減少傾向にあるとみられます。

図表 社会動態（転入数・転出数）の推移

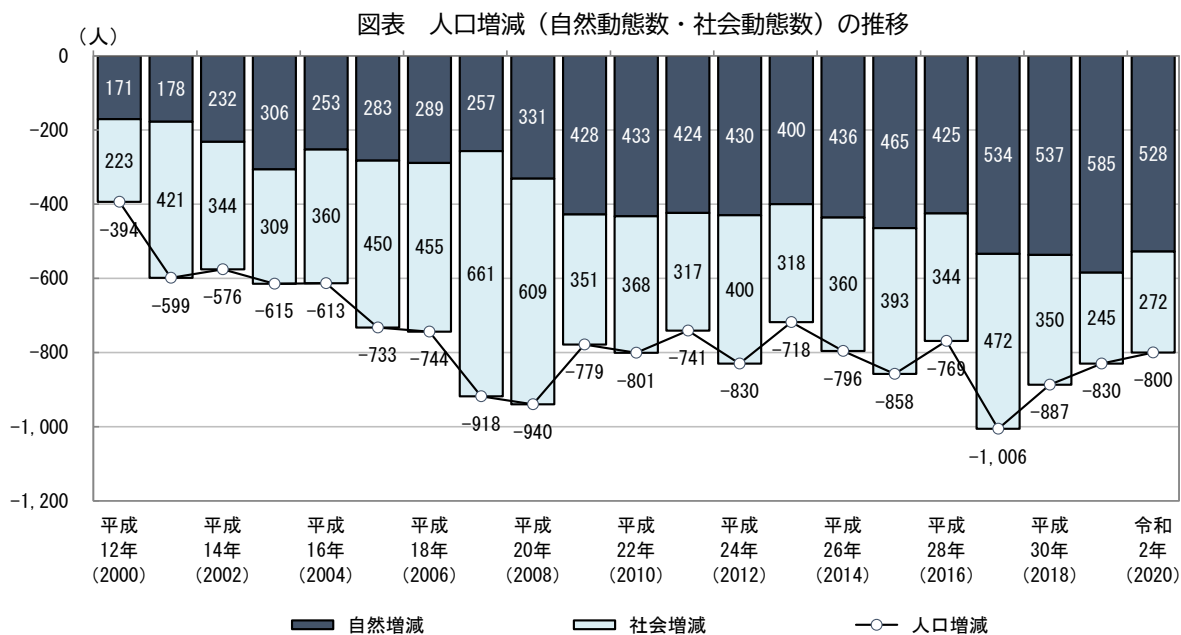


資料 人口動態統計（日本人移動）

■ 自然動態・社会動態による人口減少推移

◎ 自然動態（出生数・死亡数）、社会動態（転入数・転出数）ともに減少推移あるため、人口減少が進行しています。

・平成 20 年までは、社会動態が自然動態を上回る推移となっていました。平成 21 年以降は、自然動態が社会動態を上回り、人口減少の抑制にあたっては、移住・定住対策とともに、健康寿命の延伸や少子化対策等の取り組みが、ますます重要となります。



資料 人口動態統計（日本人移動）

2（参考）県移動理由アンケート（令和3年3月～12月分）

- ◎ 転入では、県外移動は「退職」「就職」、県内移動は「転勤」が移動理由の上位に挙がっています。
- ◎ 転出では、県外移動は「就職」、県内移動は「就職」、「進学」が移動理由の上位に挙がっています。
- ◎ 南島原市の転入・転出先について、転入先は「雲仙市」、転出先は「諫早市」が最も多くなっています。

図表 （参考）転入・転出先（上位5地域）

転 入			転 出		
第1位	雲仙市	68人	第1位	諫早市	103人
第2位	長崎市	54人	第2位	島原市	95人
第3位	諫早市	53人	第3位	長崎市	82人
第4位	大村市	36人	第4位	大村市	71人
第5位	島原市	29人	第5位	雲仙市	62人

資料 県統計課「移動理由アンケート」（令和3年3月～12月分）

図表 転入（移動理由）

単位：人、%

区分	回答数						割合						実数	割合
	01:県外移動			02:県内移動			01:県外移動			02:県内移動			県外・県内移動	
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	計	
01:就職	12	6	18	4	5	9	14.3%	12.0%	13.4%	4.0%	5.2%	4.6%	27	8.2%
02:転勤	13	7	20	40	30	70	15.5%	14.0%	14.9%	40.4%	30.9%	35.7%	90	27.3%
03:転職	12	10	22	8	5	13	14.3%	20.0%	16.4%	8.1%	5.2%	6.6%	35	10.6%
04:退職	22	8	30	11	8	19	26.2%	16.0%	22.4%	11.1%	8.2%	9.7%	49	14.8%
05:進学	13	1	14	5	1	6	15.5%	2.0%	10.4%	5.1%	1.0%	3.1%	20	6.1%
06:結婚	0	3	3	3	4	7	0.0%	6.0%	2.2%	3.0%	4.1%	3.6%	10	3.0%
07:療養入所	0	0	0	1	1	2	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	1.0%	2	0.6%
08:介護看護	0	2	2	1	1	2	0.0%	4.0%	1.5%	1.0%	1.0%	1.0%	4	1.2%
09:住宅都合	2	2	4	16	23	39	2.4%	4.0%	3.0%	16.2%	23.7%	19.9%	43	13.0%
10:その他	10	11	21	10	19	29	11.9%	22.0%	15.7%	10.1%	19.6%	14.8%	50	15.2%
99:未記入	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%
総計	84	50	134	99	97	196	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	330	100.0%

図表 転出（移動理由）

単位：人、%

	回答数						割合						実数	割合
	01:県外移動			02:県内移動			01:県外移動			02:県内移動				
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	計	
01:就職	44	35	79	36	18	54	44.4%	43.2%	43.9%	28.8%	14.4%	21.6%	133	30.9%
02:転勤	12	6	18	42	27	69	12.1%	7.4%	10.0%	33.6%	21.6%	27.6%	87	20.2%
03:転職	12	5	17	10	13	23	12.1%	6.2%	9.4%	8.0%	10.4%	9.2%	40	9.3%
04:退職	3	1	4	0	1	1	3.0%	1.2%	2.2%	0.0%	0.8%	0.4%	5	1.2%
05:進学	17	14	31	2	4	6	17.2%	17.3%	17.2%	1.6%	3.2%	2.4%	37	8.6%
06:結婚	3	7	10	11	18	29	3.0%	8.6%	5.6%	8.8%	14.4%	11.6%	39	9.1%
07:療養入所	0	0	0	0	3	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	1.2%	3	0.7%
08:介護看護	0	0	0	0	2	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.8%	2	0.5%
09:住宅都合	0	1	1	10	9	19	0.0%	1.2%	0.6%	8.0%	7.2%	7.6%	20	4.7%
10:その他	8	12	20	14	30	44	8.1%	14.8%	11.1%	11.2%	24.0%	17.6%	64	14.9%
99:未記入	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%
総計	99	81	180	125	125	250	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	430	100.0%

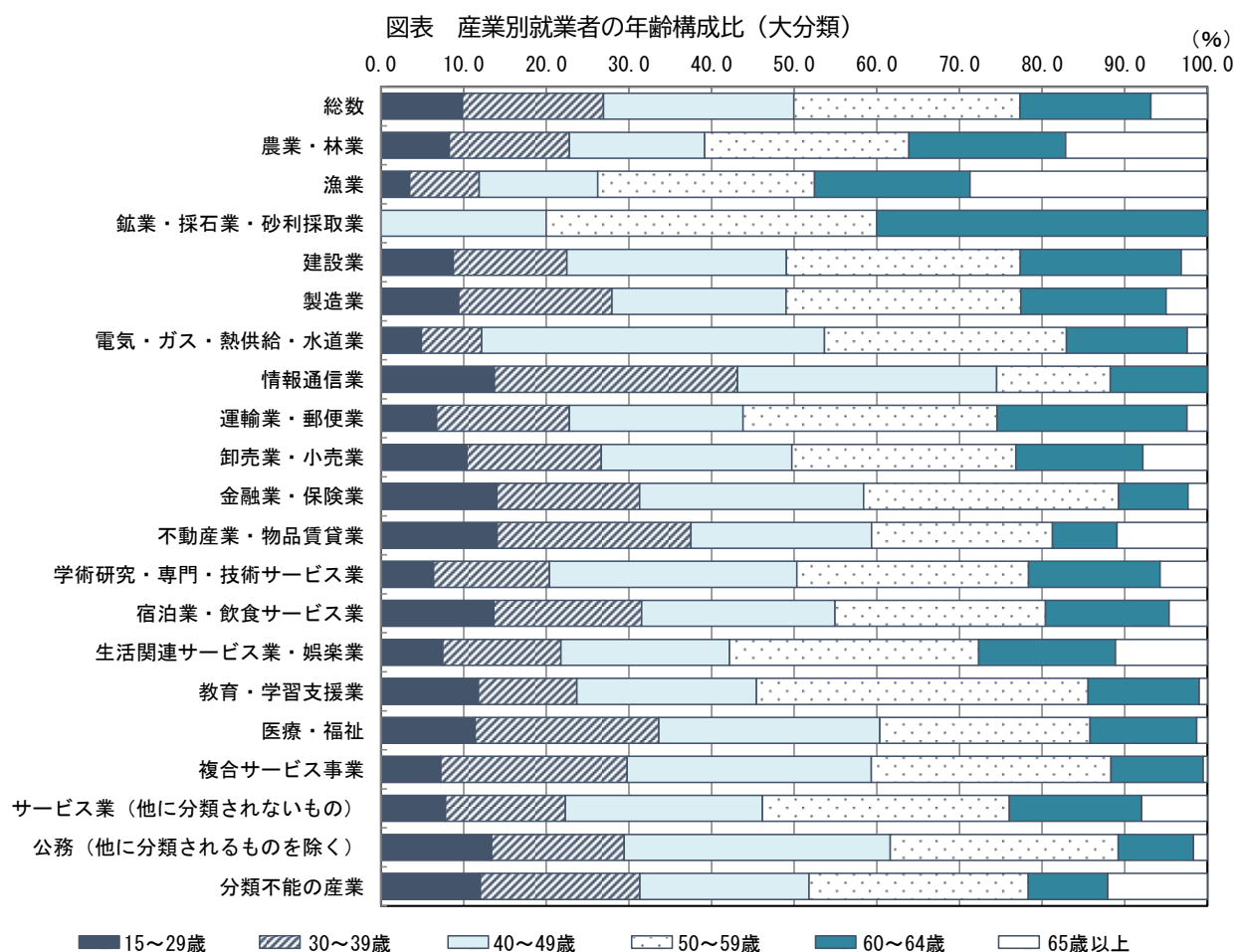
資料 県統計課「移動理由アンケート」（令和3年3月～12月分）

Ⅱ-3 産業・雇用・地域経済

1 産業構造・就業状況

■ 産業別就業者

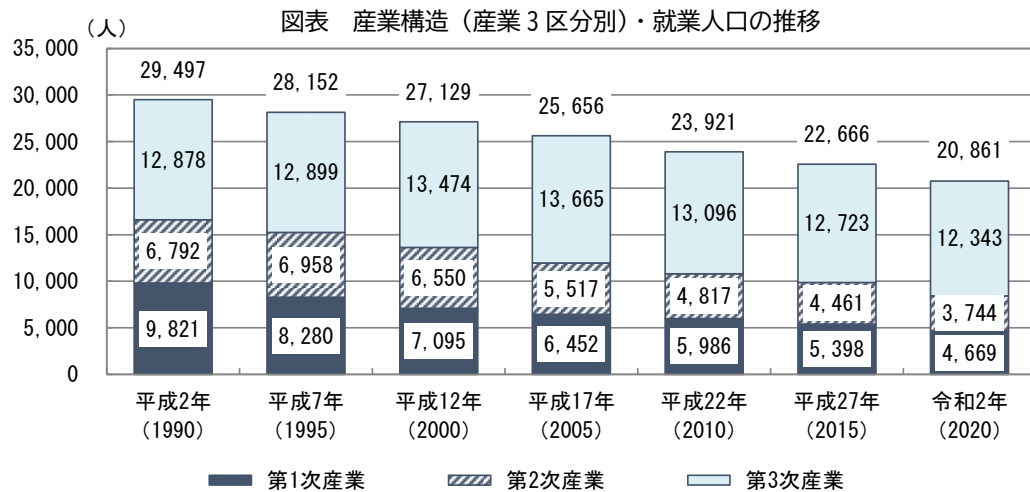
- ◎ 人口減少とともに就業人口、労働人口も減少しています。
- ◎ 本市の基幹産業である第1次産業のほか、多くの産業において就業者の半数以上が50歳以上となっています。
- ・国勢調査による産業3区分別就業人口は、各区分で減少傾向にあり、産業全体に占める50歳未満の就業者は50.0%となっています。
 - ・特に農林業・漁業の50歳未満の就業者は、3～4割となっており、このままでは担い手を十分に確保できず、衰退が懸念される状況にあります。



図表 （参考）男女別産業分類別人口（上位5産業）

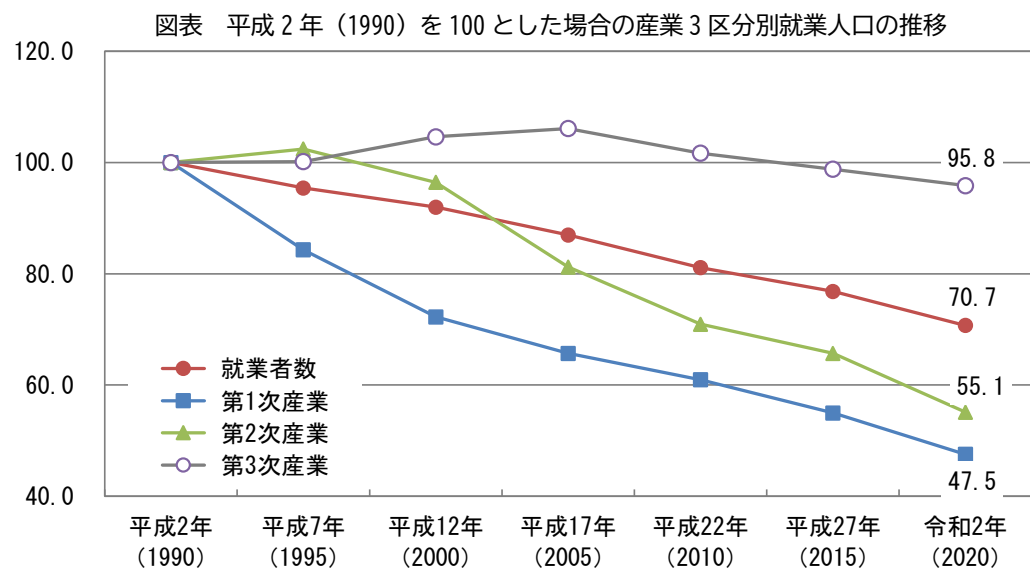
男 性			女 性		
第1位	農業・林業	2,530人	第1位	医療・福祉	3,010人
第2位	建設業	1,336人	第2位	農業・林業	1,869人
第3位	卸売業・小売業	1,313人	第3位	卸売業・小売業	1,469人
第4位	製造業	1,097人	第4位	製造業	1,123人
第5位	医療・福祉	959人	第5位	宿泊業・飲食サービス業	538人

資料 令和2年国勢調査

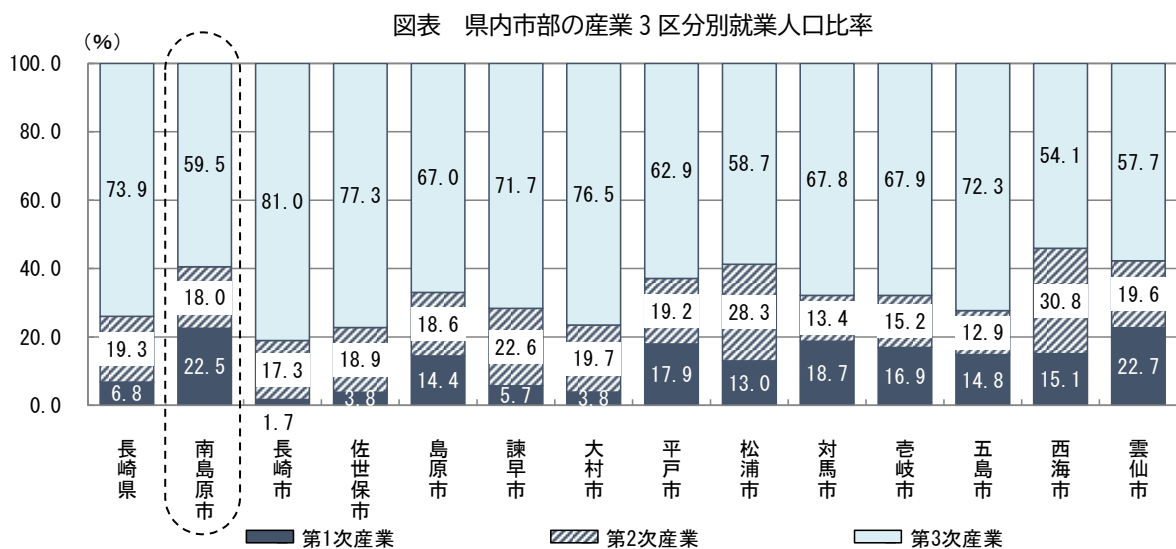


※就業人口の合計は分類不能を含みます

資料：平成2年～令和2年国勢調査



資料 資料：平成2年～令和2年国勢調査

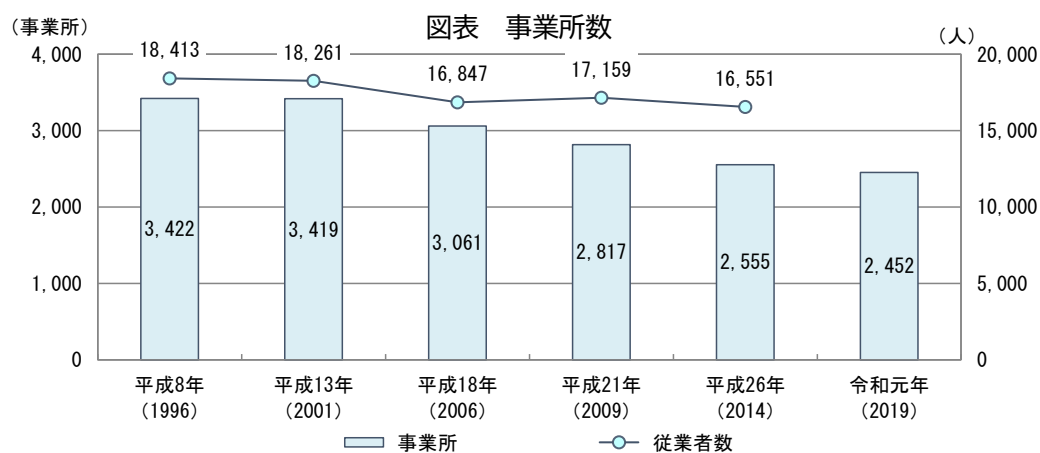


資料 資料：令和2年国勢調査

■ 事業所数

◎ 事業所数・従業者数ともに減少しています。

・令和元年の事業所数は、平成8年の3,422事業所から、2,452事業所となり、約1,000事業所の減少となっています。



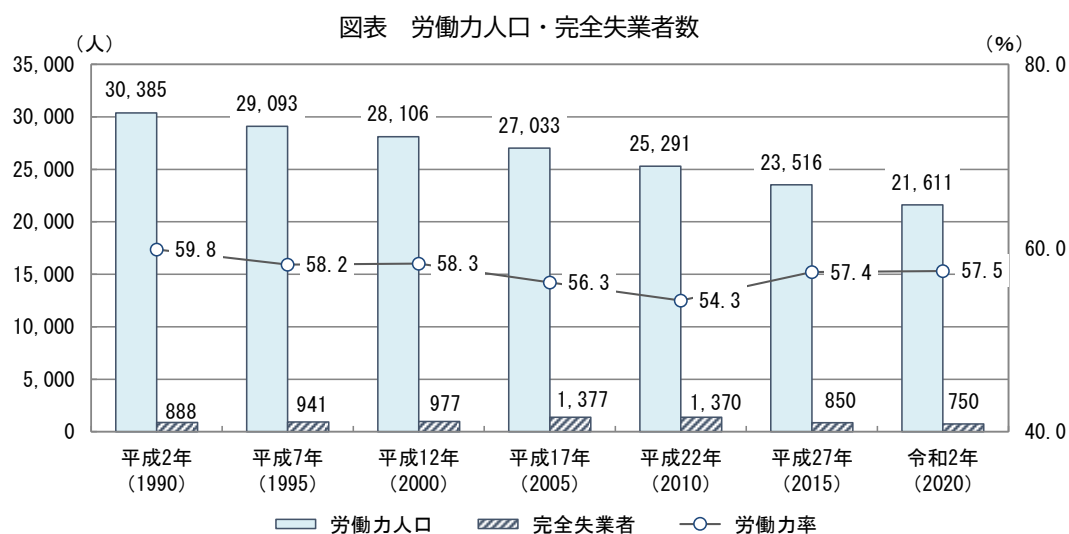
資料 事業所・企業統計調査、平成21・26年、令和元年経済センサス

2 労働力・雇用状況

■ 労働力人口・完全失業者数

◎ 労働力人口は減少しています。

・令和2年の労働力人口は21,611人、平成2年よりも3割程度減少しています。
 ・完全失業者数は平成17年・平成22年に1,000人を上回りましたが、その後は減少しています。

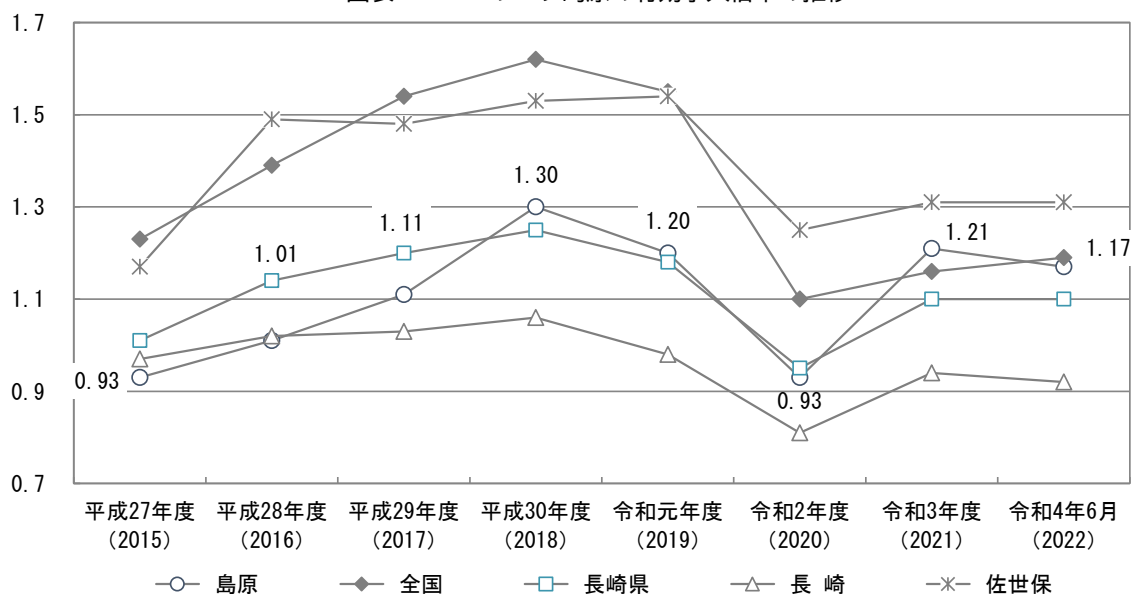


資料 事業所・企業統計調査、平成21・26年・令和元年経済センサス

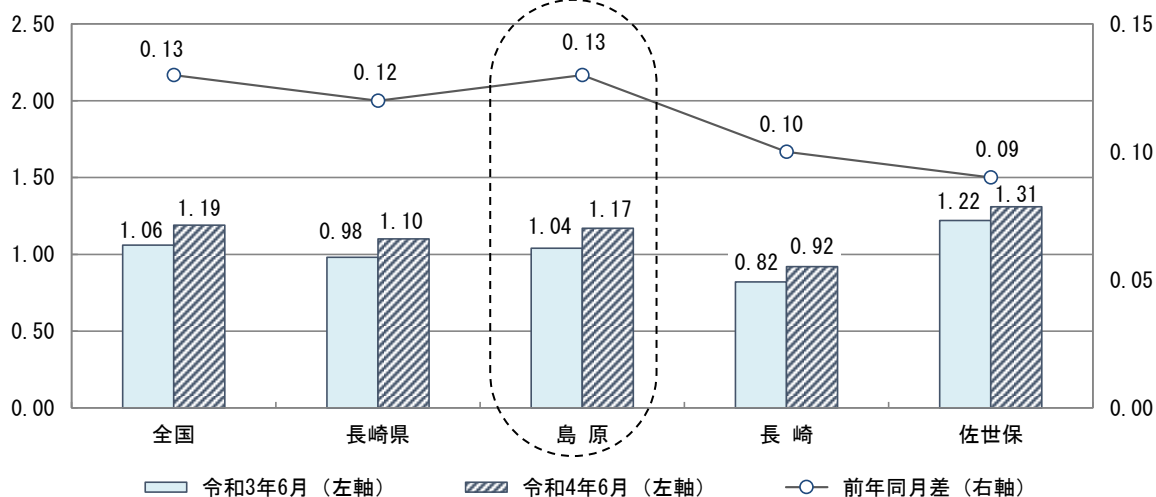
■ 有効求人倍率

- ◎ 有効求人倍率は令和2年度に1.0を下回り、以降は1.0を上回る推移となっています。
- ・平成27年度以降の有効求人倍率は、平成27年度より平成30年度にかけて増加推移にありましたが令和2年度に1.0を下回り、以降は1.0を超える回復をしています。
 - ・ハローワーク島原の有効求人倍率（原数値）は1.17倍（前年度同月より0.13増加）となり、令和4年6月の有効求人倍率は、長崎県よりも0.07ポイント、前年同月を0.13ポイント上回っています。

図表 ハローワーク島原の有効求人倍率の推移



図表 安定所別有効求人倍率（原数値）の推移（対前年同月）



※有効求人倍率：求職者に対し何件の求人が募集されているのかを示した数値のことです。

この数値が1.0より高いと求職者より求人数のほうが多いことを示し、1.0より低いと求人数より求職者のほうが多いことを示します。そのため有効求人倍率は雇用・失業動向を敏感に反映するため景気を判断する重要な指標の1つとなっています。

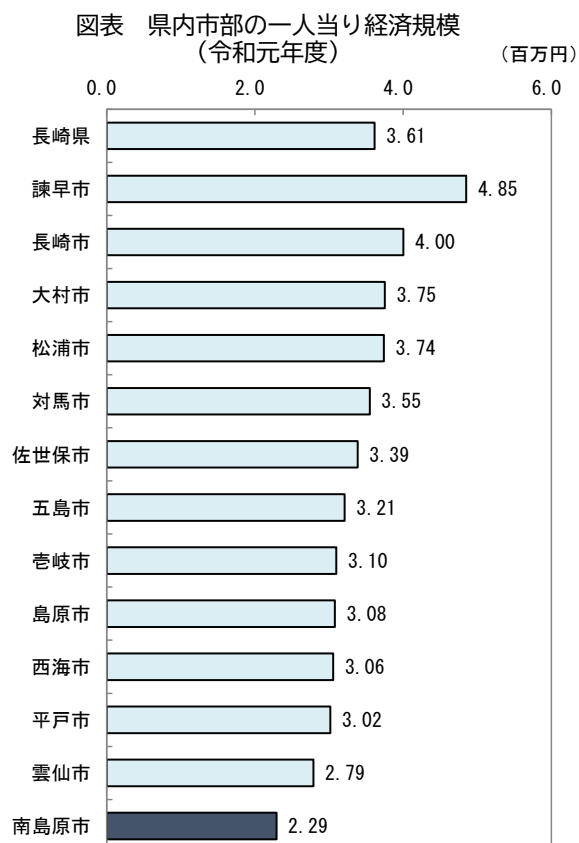
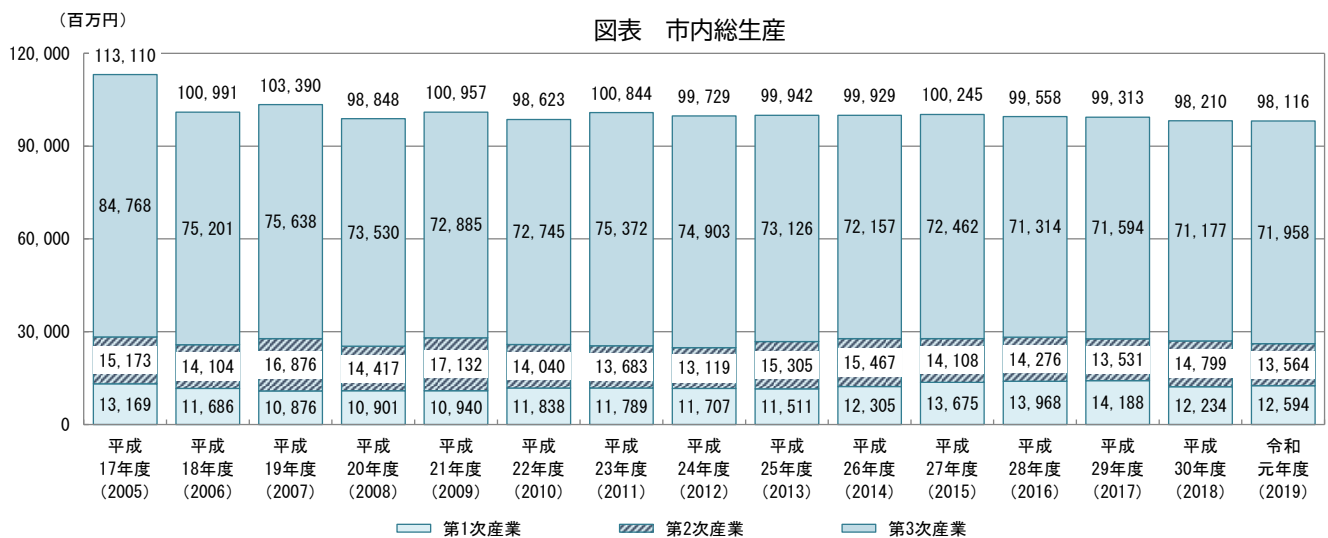
資料 長崎県労働局 長崎県の雇用失業情勢（令和4年6月分）

3 地域経済状況

■ 市内総生産・経済規模

◎ 市内総生産は緩やかに減少しています。

- ・市内総生産は、平成 20 年度以降 98,000～100,000 百万円代で推移しています。平成 28 年度より緩やかに減少し、令和元年度の市内総生産は 98,518 百万円となっています。
- ・令和元年度の一人当り経済規模は 2.29 百万円と県を下回る推移となっており、市部では最も低くなっています。



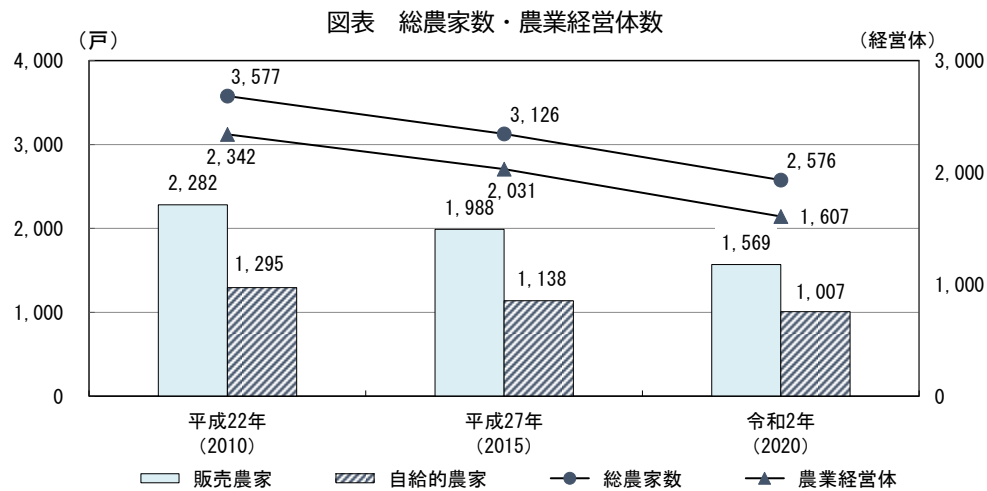
資料 令和元年度市町民経済計算書 (※平成 17～22 年度は過去の市町民経済計算書より引用)

4 農業

■ 総農家数・農業経営体数

◎ 総農家数・農業経営体数ともに減少しています。

・令和2年の総農家数は2,576戸、経営体数は1,607経営体であり、平成22年時と比較するといずれも3割程度減少しています。

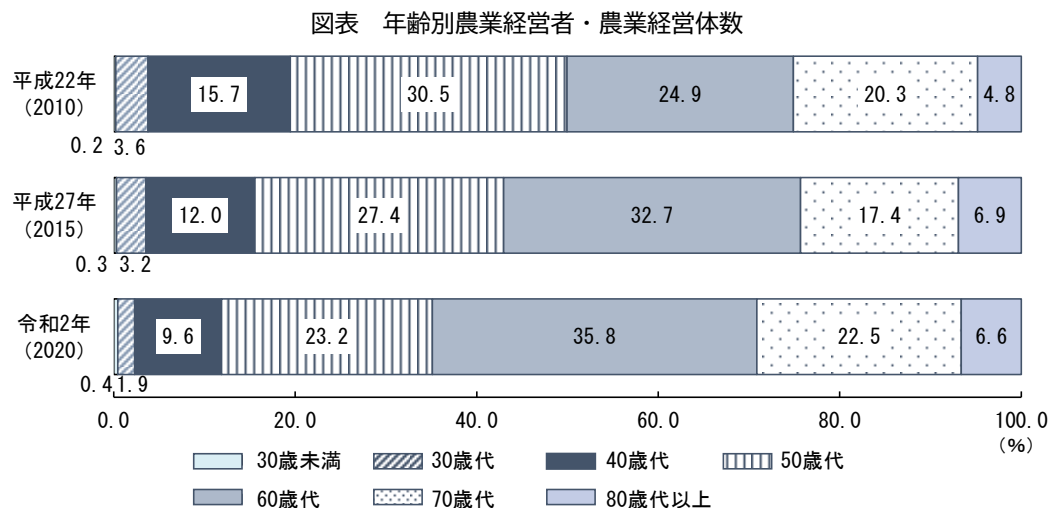


資料 事資料 平成22・27年、令和2年農業センサス

■ 年齢別農業経営者・農業経営体数 (※2020年は農業経営体数より算出)

◎ 農業経営者の高齢化が進行しています。

・年齢別農業経営者(経営体)数では、50歳代までは減少、60歳代以上は増加傾向にあり、高齢化の進行がみられ、令和2年では60歳代以上が、64.9%を占めています。

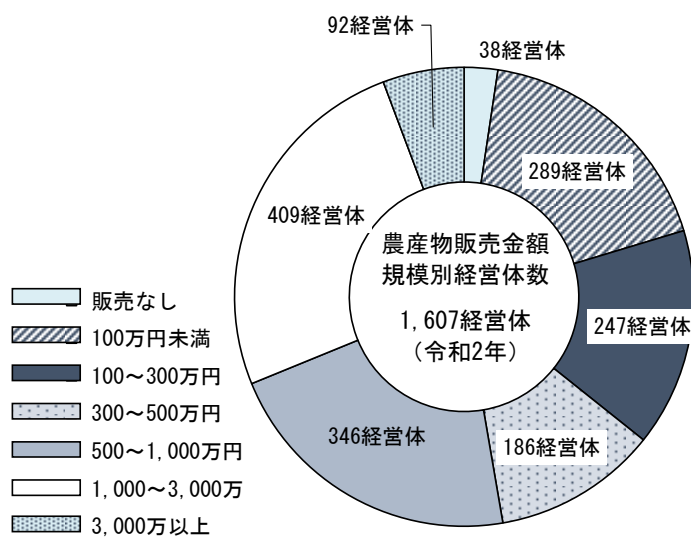


資料 平成22・27年、令和2年農業センサス

■ 農産物販売金額規模別経営体数

◎ 農業経営体の農産物販売金額規模は、500～1,000 万円、1,000～3,000 万円規模の経営体が多くみられます。

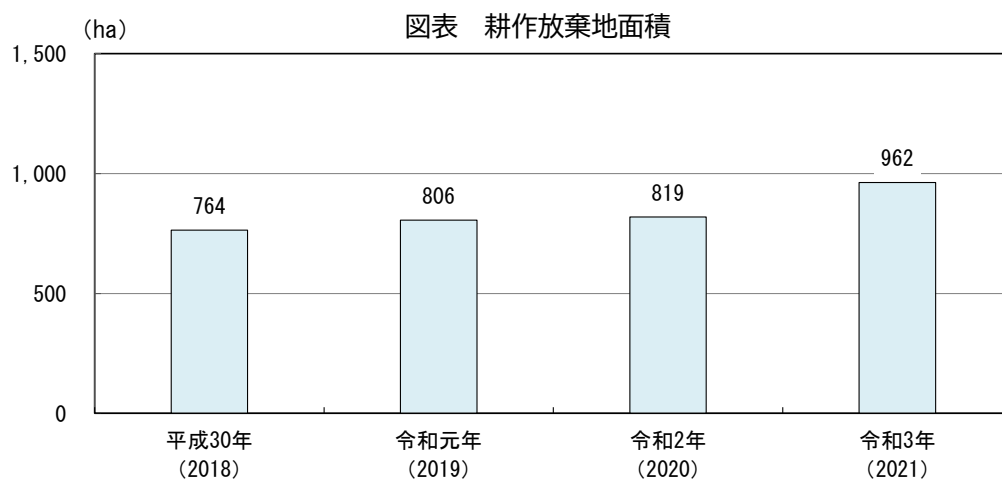
図表 農産物販売金額規模別経営体数（令和2年）



資料 令和2年農業センサス

■ 耕作放棄地面積

◎ 令和3年の耕作放棄地面積は962haであり、年々増加しています。



資料 南島原市農林水産部農林課調べ

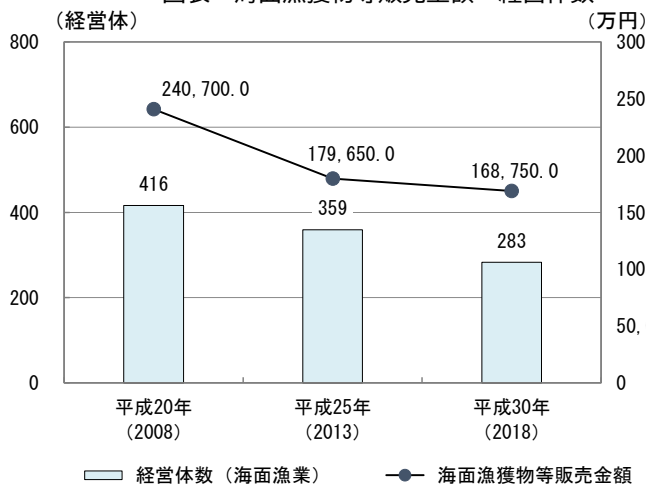
5 水産業

■ 漁獲物等販売金額・経営体数

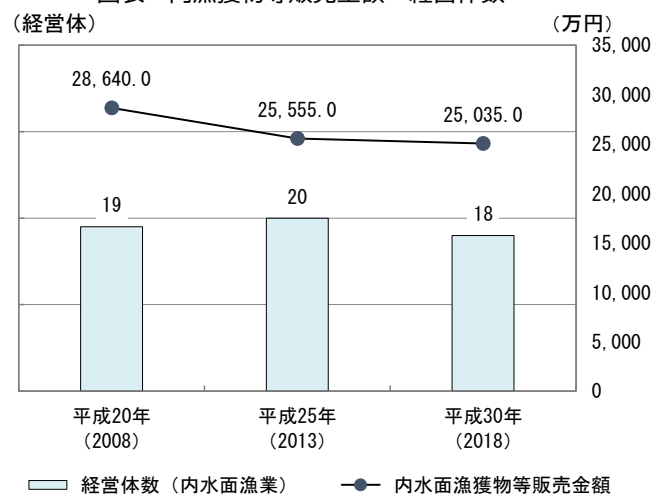
◎ 水産業は漁獲物等販売金額が海面漁業、内水漁業ともに減少しています。

- ・漁獲物等販売金額については、海面漁、内水漁ともに減少しており、平成25年と比較して海面漁業では約10,900万円(6.07%)減少、内水漁業では約520万円(2.03%)減少しています。
- ・平成30年において、最も増加している海面漁獲物等販売金額帯別の経営体割合は「100万円以上1,000万円未満」であり、平成25年と比較して6.9ポイント増加しています。

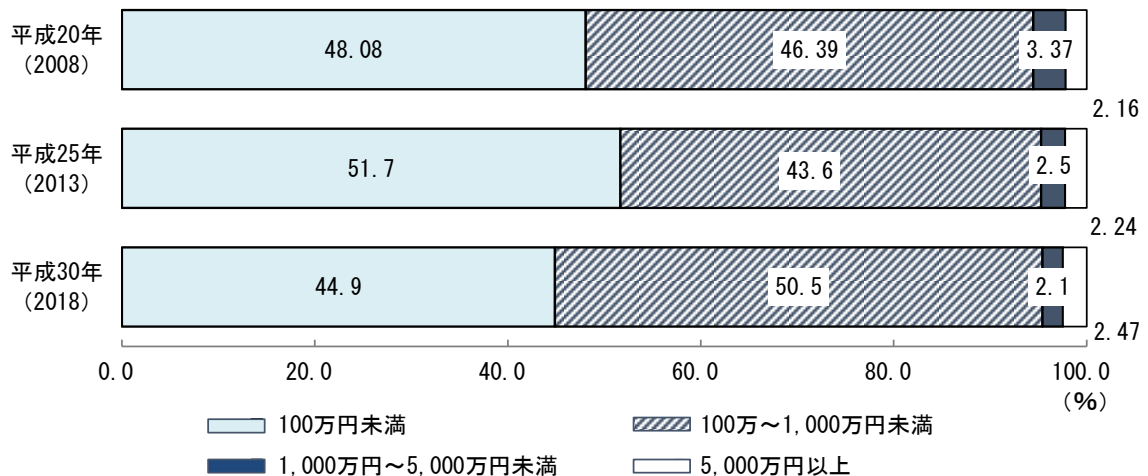
図表 海面漁獲物等販売金額・経営体数



図表 内水漁獲物等販売金額・経営体数



図表 漁獲物等販売金額帯別経営体割合
(海面漁獲物)



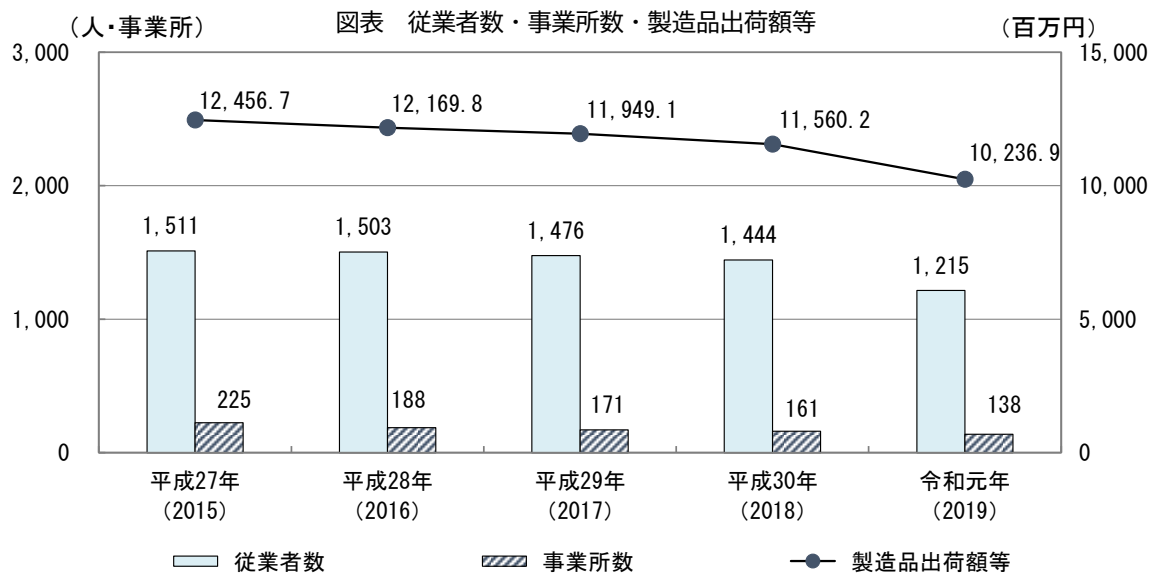
資料 平成20・25・30年漁業センサス

6 製造業・小売業

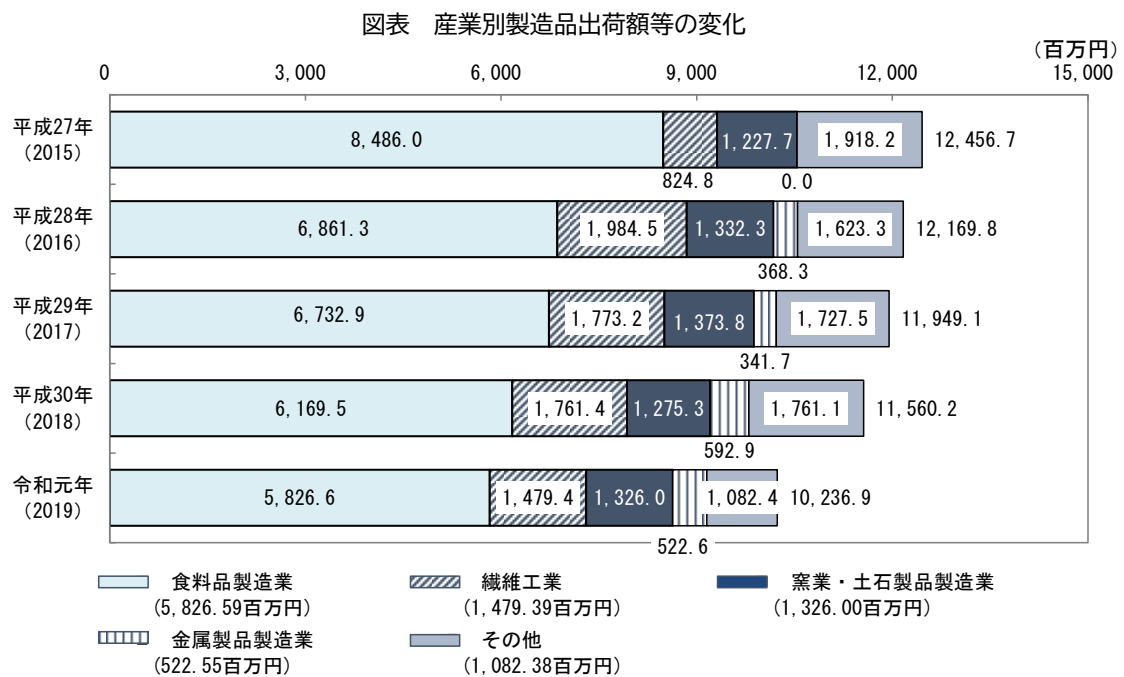
■ 製造業

◎ 製造業は、従業者、事業所数の減少とともに、製造品出荷額等も減少しています。

- ・令和元年の製造品出荷額等は10,236.9百万円であり、平成27年より2割減少しています。
- ・産業別の製造品出荷額等では、そうめんをはじめとする食料品製造業が中心となっていますが、令和元年の食料品製造業の製造品出荷額等は、5,826.59百万円であり、平成27年より3割減少しています。



資料 平成27年～平成30年工業統計調査・平成元年経済センサス

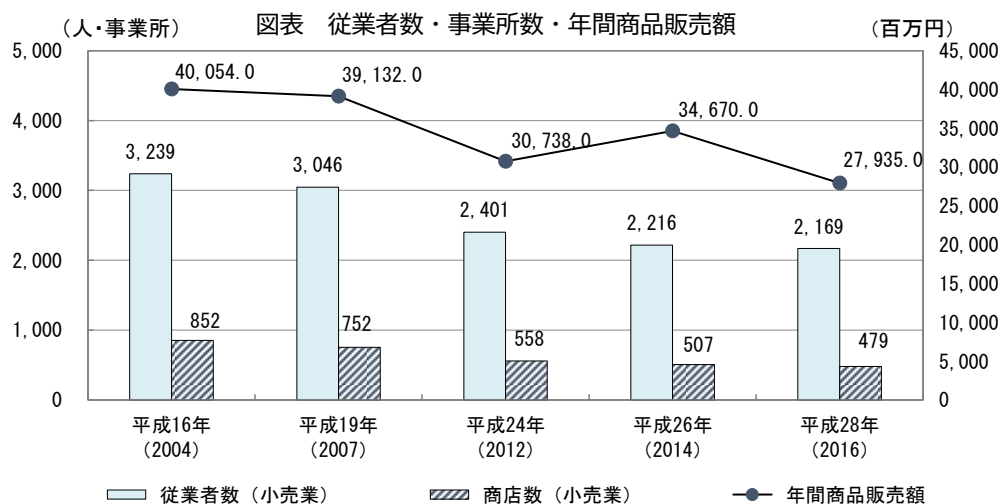


資料 平成27年～平成30年工業統計調査・平成元年経済センサス

■ 小売業

◎ 小売業の従業者、事業所数は減少し、年間商品販売額も減少傾向にあります。

- ・平成 28 年の小売業における年間商品販売額は 27,935.0 百万円であり、平成 24 年に大きく減少するなど、減少傾向で推移しています。
- ・従業者、事業所数ともに減少しており、商業の衰退が懸念されます。



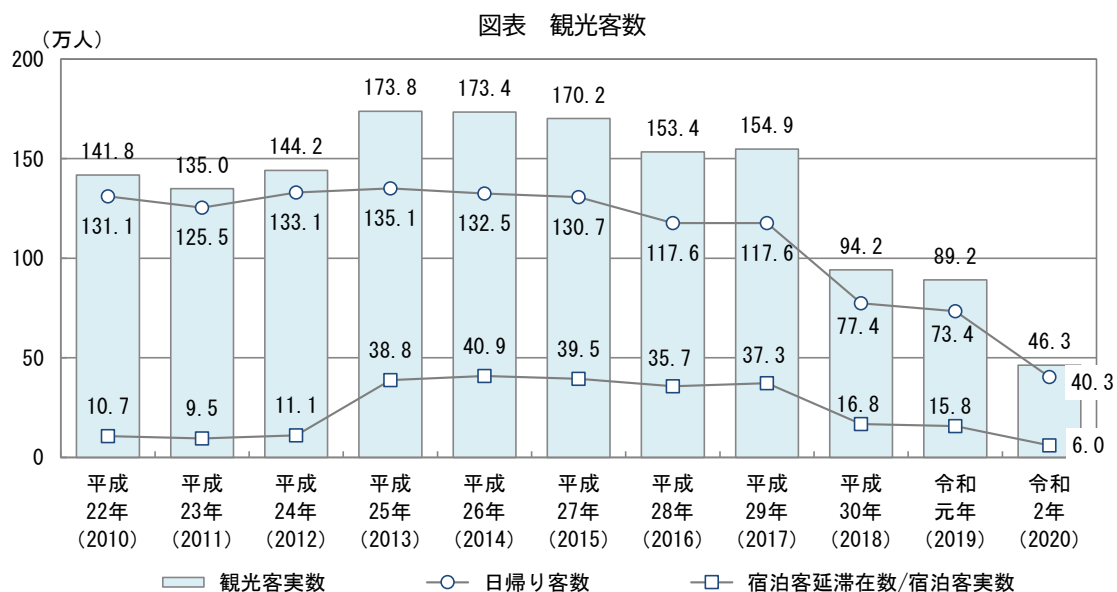
資料 平成 16・19・26 年商業統計調査・平成 24・28 年経済センサス

7 観光業

■ 観光客数

◎ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、観光客数の大幅な減少がみられます。

- ・平成 25～29 年にかけては年間 150 万人を超える観光客がありましたが、平成 30 年より観光客数の大幅な減少がみられ、令和 2 年の観光客実数は 46.3 万人となっています。



※平成 30 年より宿泊客延滞在数は宿泊客実数を計上

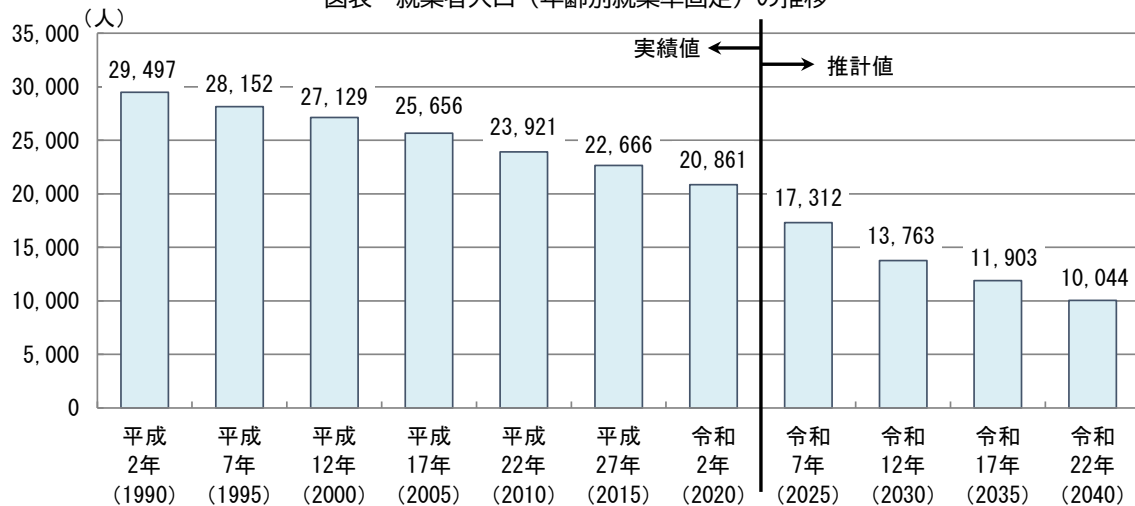
資料 長崎県観光統計

8 (参考) 2040 年の就業状況 (未来カルテ)

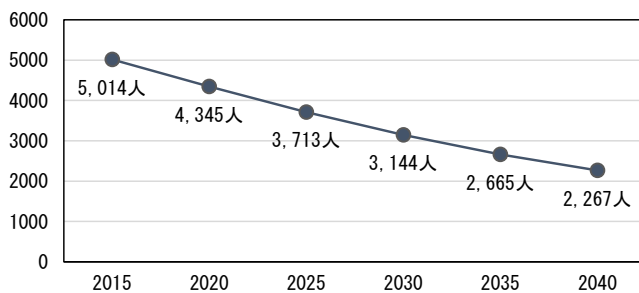
◎ 国立社会保障・人口問題研究所 (IPSS) の推計をもとに就業人口を推計した結果では、2040 年の就業人口は、1,044 人と令和 2 年の半数近くまで減少することが見込まれます。

◎ 就業人口の減少により、各産業分野で担い手の減少が進むとみられます。

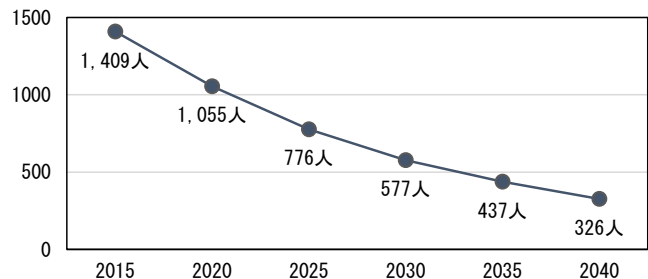
図表 就業者人口 (年齢別就業率固定) の推移



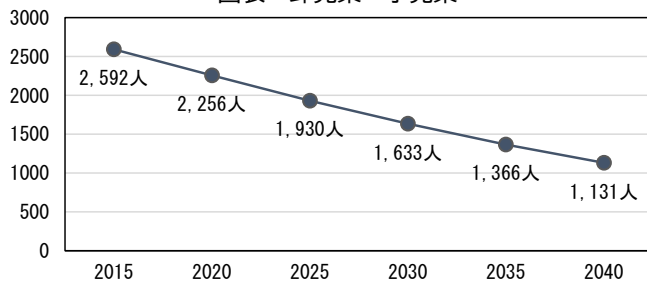
図表 農業



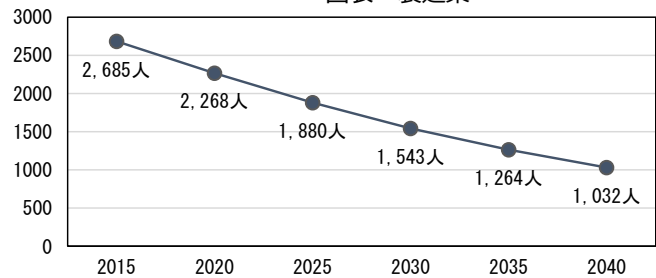
図表 建設業



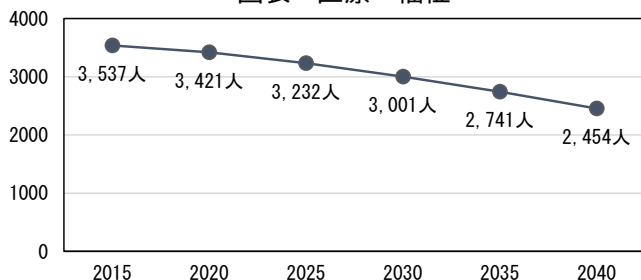
図表 卸売業・小売業



図表 製造業



図表 医療・福祉



資料 未来カルテ

Ⅱ-4 同規模団体による比較

■ 同規模団体による比較について

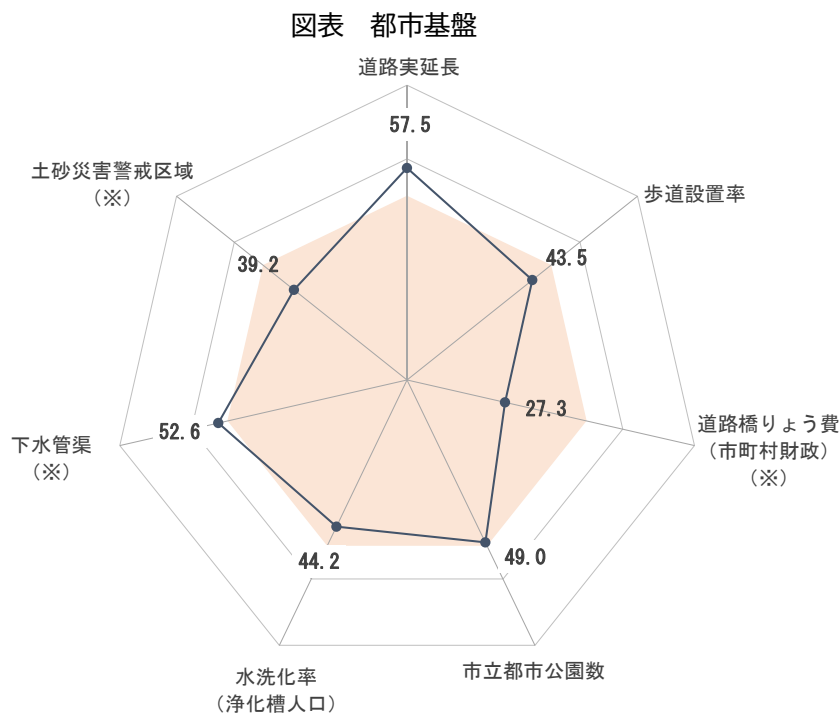
- ◎ 本市の特徴を各種統計データから分析するため、同規模団体との「偏差値」を算出しています。偏差値とは、ある数値が全体の中でどの位置にあるかを表す数値で、平均値を 50 とし、標準偏差（バラツキ）を 10 としたときの当該データの位置を表します。
- ◎ 比較対象団体については、2015 年時点で四国・九州地方の 4 万人以上 5 万人未満の市（19 団体）を対象に比較しています。

（対象団体）：長崎県 南島原市・島原市・五島市・雲仙市、福岡県 筑後市・中間市・嘉麻市・みやま市、佐賀県 小城市、大分県 臼杵市、宮崎県 小林市、鹿児島県 指宿市・奄美市、沖縄県 石垣市、徳島県 小松島市・吉野川市、愛媛県 大洲市・西予市、高知県 南国市

■ 都市基盤

項 目	基準年	単位	南島原市	平均値	偏差値	順位
道路実延長	2013	m	1,214.7	873.2	57.5	5
歩道設置率	2015	%	42.60	55.58	43.5	14
道路橋りょう費（市町村財政）（※）	2020	%	38.2	18.3	27.3	19
市立都市公園数	2018	箇所	11.0	12.6	49.0	6
水洗化率（浄化槽人口）	2019	%	39.4	50.2	44.2	16
下水管（※）	2019	m	48,180.0	64,423.9	52.6	10
土砂災害警戒区域（※）	2019	m	1,112.2	586.4	39.2	18

（※）印は、数値が低いほど偏差値が高い項目を示しています。



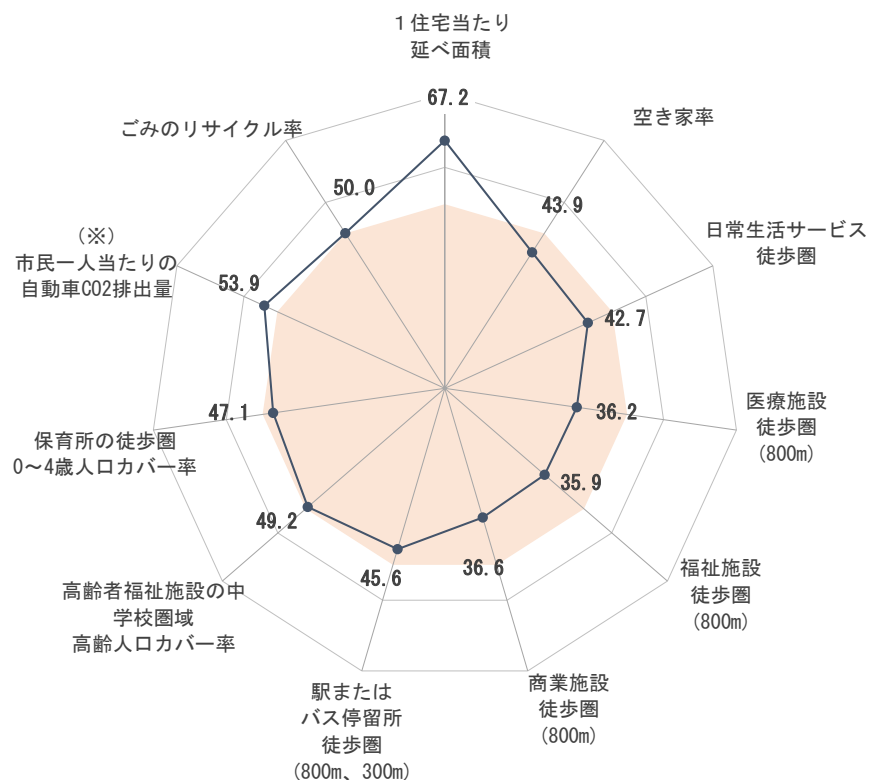
資料 経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース

■暮らし・生活環境

項 目	基準年	単位	南島原市	平均値	偏差値	順位
1 住宅当たり延べ面積	2018	m ²	135.0	108.1	67.2	1
空き家率	2018	%	14.7	11.8	43.9	14
日常生活サービス徒歩圏	2015	%	9.2	17.4	42.7	16
医療施設徒歩圏(800m)	2015	%	51.1	68.9	36.2	18
福祉施設徒歩圏(800m)	2014	%	86.3	86.8	35.9	17
商業施設徒歩圏(800m)	2015	%	27.6	41.7	36.6	19
駅またはバス停留所徒歩圏(800m、300m)	2018	%	30.9	37.9	45.6	15
高齢者福祉施設の中学校圏域高齢人口カバー率	2015	%	55.5	57.4	49.2	12
保育所の徒歩圏0～4歳人口カバー率	2015	%	46.6	50.6	47.1	11
市民一人当たりの自動車CO2排出量(※)	2015	t-CO2/年	1.1	1.3	53.9	9
ごみのリサイクル率	2020	%	18.8	18.8	50.0	9

(※) 印は、数値が低いほど偏差値が高い項目を示しています。

図表 暮らし・生活環境



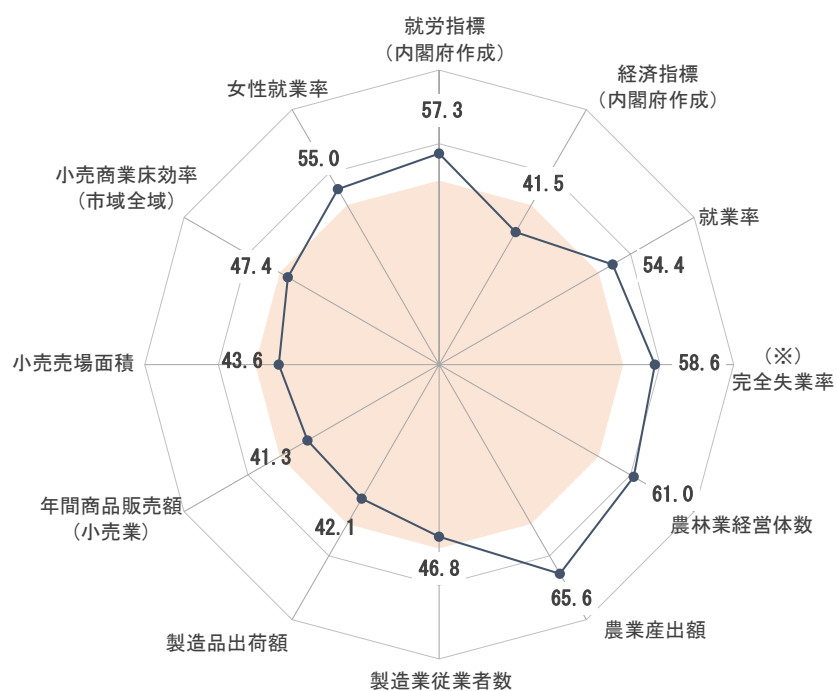
資料 経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース

■ 産業・雇用・地域経済

項 目	基準年	単位	南島原市	平均値	偏差値	順位
就労指標（内閣府作成）	2015	－	52.3	46.1	57.3	4
経済指標（内閣府作成）	2018	－	60.46	61.73	41.5	14
就業率	2015	%	55.3	53.5	54.4	6
完全失業率（※）	2015	%	3.6	4.8	58.6	4
農林業経営体数	2015	経営体	2,034.0	1,264.6	61.0	4
農業産出額	2018	千万円	2,429.0	1,111.8	65.6	3
製造業従業者数	2019	人	1,586.0	1,970.6	46.8	13
製造品出荷額	2019	百万円	11,560	48,164	42.1	16
年間商品販売額（小売業）	2016	百万円	27,935.0	37,064.8	41.3	15
小売売場面積	2016	m ²	35,798.0	46,332.9	43.6	14
小売商業床効率（市域全域）	2020	万円/m ²	78.0	83.7	47.4	10
女性就業率	2020	%	48.7	46.6	55.0	7

（※）印は、数値が低いほど偏差値が高い項目を示しています。

図表 産業・雇用・地域経済



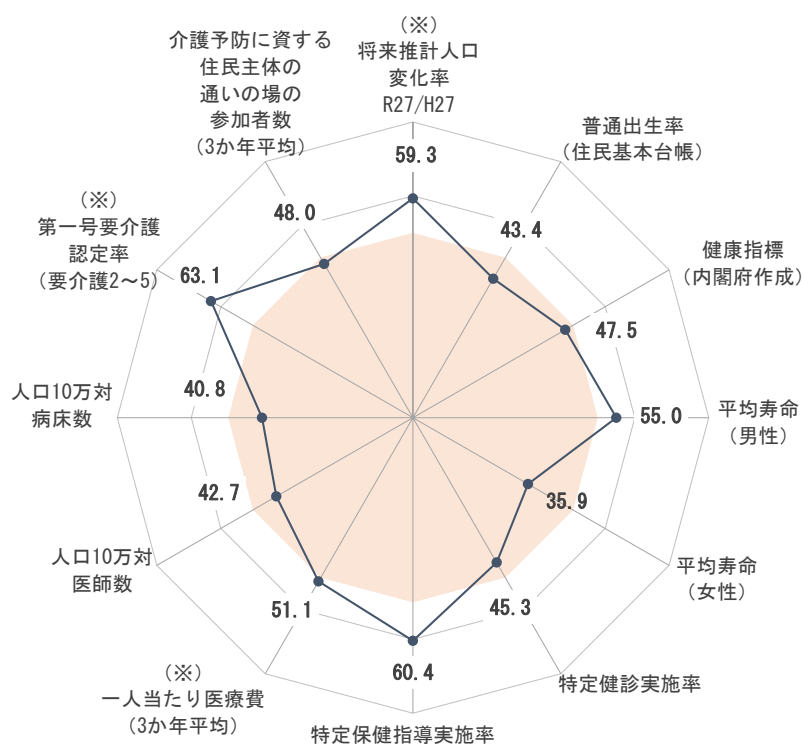
資料 経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース

■ 健康・医療・介護

項 目	基準年	単位	南島原市	平均値	偏差値	順位
将来人口 R27/H27 変化率	-	%	51.5	63.4	59.3	3
普通出生率（住民基本台帳）	2019	人	5.32	6.41	43.4	15
健康指標（内閣府作成）	2018	-	46.2	47.4	47.5	11
平均寿命（男性）	2015	歳	80.5	80.2	55.0	7
平均寿命（女性）	2015	歳	86.3	86.8	35.9	17
特定健診実施率	2018	%	38.0	40.6	45.3	12
特定保健指導実施率	2018	%	82.2	60.0	60.4	3
一人当たり医療費（3 か年平均）（※）	2019	円	401,254	406,198	48.9	14
人口 10 万対医師数	2020	人	125.2	277.5	42.7	19
人口 10 万対病床数	2015	床	988.5	1,891.0	40.8	15
第一号要介護認定率（要介護 2～5）	2020	%	8.3	9.7	63.1	1
介護予防に資する住民主体の通いの場の参加者数（3 か年平均）	2020	人	1,099.3	1,225.0	48.0	12

（※）印は、数値が低いほど偏差値が高い項目を示しています。

図表 健康・医療・介護



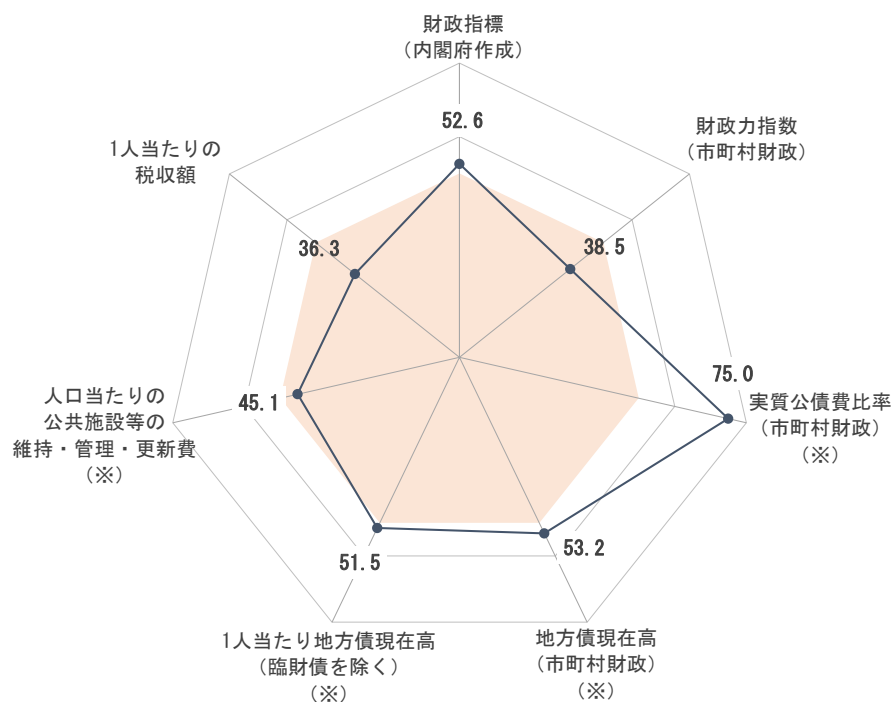
資料 経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース

行財政

項 目	基準年	単位	南島原市	平均値	偏差値	順位
財政指標（内閣府作成）	2019	(-)	33.4	33.2	52.6	8
財政力指数（市町村財政）	2019	(-)	0.25	0.40	38.5	17
実質公債費比率（市町村財政）（※）	2019	(%)	-2.0	7.4	75.0	1
地方債現在高（市町村財政）（※）	2020	(千円)	23,173,352	25,837,620	53.2	8
1人当たり地方債現在高（臨財債を除く）（※）	2020	(千円)	387.1	417.0	51.5	10
人口当たりの公共施設等の維持・管理・更新費（※）	2018	(千円)	667.3	594.2	45.1	14
市民一人当たりの税収額	2018	(人)	68	88	36.3	18

（※）印は、数値が低いほど偏差値が高い項目を示しています。

図表 行財政



資料 経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース

第Ⅱ期南島原市総合計画後期基本計画策定に向けた
各種調査結果報告書

発 行：令和5年3月

編集・発行：南島原市 総務部 財政課

〒859-2211

長崎県南島原市西有家町里坊96番地2

TEL 0957-73-6625 FAX 0957-82-3086

MAIL zaisei@city.minamishimabara.lg.jp